

大学入学共通テストの導入に向けた試行調査 (プレテスト) (平成30年度(2018年度)実施) の結果報告

平成31年(2019年) 4月4日

第1部

目次

I	調査の概要	P. 2
II	試行調査(プレテスト)の趣旨と分析・検討方針	P. 4
III	分析結果の報告	P. 6
1	問題構成、設問数、内容等の在り方に関する分析・検討の概要	P. 6
(1)	全体の結果の概要(マーク式問題)	P. 6
(2)	大学入学共通テストに向けて(マーク式問題)	P.27
2	記述式問題に関する分析・検討の概要	P.31
(1)	正答の条件と成績表示の在り方	P.31
(2)	採点及び検収の体制及びスケジュール	P.35
(3)	解答方法、答案の読み取り	P.37
3	マーク式問題を含めた成績表示の在り方に関する分析・検討の概要	P.38
4	実施面の課題検証とその解決に向けた分析・検討等の概要	P.39
5	受検上の配慮に関する試行調査の分析・検討の概要	P.41

第2部

IV	分析結果(データ等編)	P.45
1	科目等別の問題構成、設問数、内容等の在り方に関する分析	P.45及び別冊
2	記述式問題に関する分析	P.45
(1)	正答の条件と成績表示の在り方	P.45
(2)	採点及び検収の体制及びスケジュール	P.54
(3)	解答方法、答案の読み取り	P.56
3	マーク式問題を含めた成績表示の在り方に関する分析	P.57
4	実施面の課題検証とその解決に向けた分析等	P.64
5	受検上の配慮に関する試行調査の分析	P.68

I 調査の概要

1. 実施日程等

区分	A日程		B日程			
会場	各大学が設定（監督者は各大学の教職員）					
日程	平成30年（2018年）11月10日(土) 午後		平成30年（2018年）11月10日(土)、11日(日)の2日間 午前・午後			
対象者	高等学校2年生以上（中等教育学校後期課程の相当する学年を含む。）		原則、高等学校3年生（中等教育学校後期課程の相当する学年を含む。） ※各校の実情により、履修が終了している場合は、高等学校2年生の受検も可能。			
形態	〈全員が国語、数学①を受検〉		パターン		〈受検パターンにより実施教科・科目が異なる〉	
			1	2		
実施教科・科目等	国語	「国語」（100分）	○	○	国語	「国語」（100分）
	数学①	「数学Ⅰ・数学A」（70分）	○	○	数学①	「数学Ⅰ・数学A」（70分）
				○	数学②	「数学Ⅱ・数学B」（60分）
			○		地理歴史、 公民	「世界史B」「日本史B」「地理B」 「現代社会」「倫理」「政治・経済」 から2科目（130分）≪2科目必答≫
			○	○	外国語	「英語（筆記〔リーディング〕）」（80分） 「英語（リスニング）」（40分）
			○		理科①	「物理基礎」「化学基礎」「生物基礎」 「地学基礎」から2科目（60分）≪2科目必答≫
				○	理科②	「物理」「化学」「生物」「地学」 から2科目（130分）≪2科目必答≫

2. 受検者数等

① 実施科目等別受検者数

教科名	科目等名		受検者数
国語	国語		67,745人
数学①	数学Ⅰ・数学A		65,764人
数学②	数学Ⅱ・数学B		4,935人
地理歴史	世界史B		2,725人
	日本史B		4,200人
	地 理 B		1,203人
公 民	現代社会		2,677人
	倫 理		1,489人
	政治・経済		2,243人
理 科 ①	物理基礎		591人
	化学基礎		4,049人
	生物基礎		5,988人
	地学基礎		2,398人
理 科 ②	物 理		3,196人
	化 学		4,679人
	生 物		1,611人
	地 学		130人
外国語	英語	筆記〔リーディング〕	12,990人
		リスニング	12,927人

② 都道府県別試験場数及び受検者数

都道府県	日程	試験場数	受検者数	都道府県	日程	試験場数	受検者数	都道府県	日程	試験場数	受検者数	都道府県	日程	試験場数	受検者数
北海道	A	18会場	1,399人	東京都	A	52会場	5,322人	滋賀県	A	3会場	781人	香川県	A	3会場	532人
	B	3会場	204人		B	8会場	1,132人		B	3会場	117人		B	1会場	208人
青森県	A	6会場	646人	神奈川県	A	17会場	1,879人	京都府	A	17会場	1,556人	愛媛県	A	1会場	915人
	B	2会場	233人		B	4会場	407人		B	1会場	187人		B	1会場	303人
岩手県	A	4会場	897人	新潟県	A	14会場	1,226人	大阪府	A	25会場	2,630人	高知県	A	4会場	447人
	B	1会場	471人		B	1会場	346人		B	3会場	728人		B	1会場	228人
宮城県	A	9会場	1,086人	富山県	A	3会場	633人	兵庫県	A	18会場	2,383人	福岡県	A	24会場	3,259人
	B	1会場	163人		B	1会場	258人		B	2会場	435人		B	3会場	794人
秋田県	A	4会場	540人	石川県	A	5会場	738人	奈良県	A	10会場	701人	佐賀県	A	3会場	386人
	B	1会場	82人		B	1会場	207人		B	2会場	132人		B	1会場	183人
山形県	A	4会場	558人	福井県	A	2会場	536人	和歌山県	A	2会場	351人	長崎県	A	5会場	727人
	B	1会場	190人		B	1会場	46人		B	1会場	129人		B	1会場	284人
福島県	A	6会場	861人	山梨県	A	5会場	709人	鳥取県	A	1会場	241人	熊本県	A	4会場	854人
	B	1会場	146人		B	1会場	202人		B	1会場	95人		B	1会場	208人
茨城県	A	6会場	1,377人	長野県	A	8会場	1,095人	島根県	A	1会場	144人	大分県	A	4会場	470人
	B	4会場	451人		B	1会場	348人		B	1会場	84人		B	1会場	171人
栃木県	A	7会場	1,326人	岐阜県	A	12会場	1,042人	岡山県	A	12会場	1,038人	宮崎県	A	5会場	654人
	B	1会場	293人		B	1会場	157人		B	1会場	253人		B	1会場	227人
群馬県	A	11会場	1,173人	静岡県	A	10会場	1,670人	広島県	A	15会場	1,422人	鹿児島県	A	5会場	1,108人
	B	1会場	339人		B	1会場	531人		B	1会場	101人		B	1会場	178人
埼玉県	A	21会場	2,467人	愛知県	A	27会場	3,407人	山口県	A	7会場	422人	沖縄県	A	5会場	626人
	B	1会場	712人		B	4会場	659人		B	1会場	28人		B	1会場	206人
千葉県	A	20会場	1,551人	三重県	A	6会場	721人	徳島県	A	3会場	280人	計	A	454会場	54,786人
	B	1会場	533人		B	1会場	66人		B	1会場	168人		B	74会場	13,623人

③ 国公私別協力校数及び受検者数

	協力校数	受検者数
公 立	1,029校	49,738人
私 立	413校	18,073人
国 立	11校	598人
計	1,453校	68,409人

④ 学校規模別受検者数

科目等名	H30(2018)センター試験志願者数 99人以下の学校		H30(2018)センター試験志願者数 100人以上の学校	
	受検者数	受検者割合	受検者数	受検者割合
国 語	9,683人	14.3%	58,062人	85.7%
数学Ⅰ・数学A	9,436人	14.3%	56,328人	85.7%
数学Ⅱ・数学B	593人	12.0%	4,342人	88.0%
世界史B	290人	10.6%	2,435人	89.4%
日本史B	563人	13.4%	3,637人	86.6%
地理B	149人	12.4%	1,054人	87.6%
現代社会	455人	17.0%	2,222人	83.0%
倫 理	121人	8.1%	1,368人	91.9%
政治・経済	285人	12.7%	1,958人	87.3%
物理基礎	73人	12.4%	518人	87.6%
化学基礎	628人	15.5%	3,421人	84.5%
生物基礎	798人	13.3%	5,190人	86.7%
地学基礎	217人	9.0%	2,181人	91.0%
物 理	303人	9.5%	2,893人	90.5%
化 学	563人	12.0%	4,116人	88.0%
生 物	276人	17.1%	1,335人	82.9%
地 学	36人	27.7%	94人	72.3%
英語（筆記［リーディング］）	1,599人	12.3%	11,391人	87.7%
英語（リスニング）	1,582人	12.2%	11,345人	87.8%
全 体	9,769人	14.3%	58,640人	85.7%

⑤ 学年別受検者数

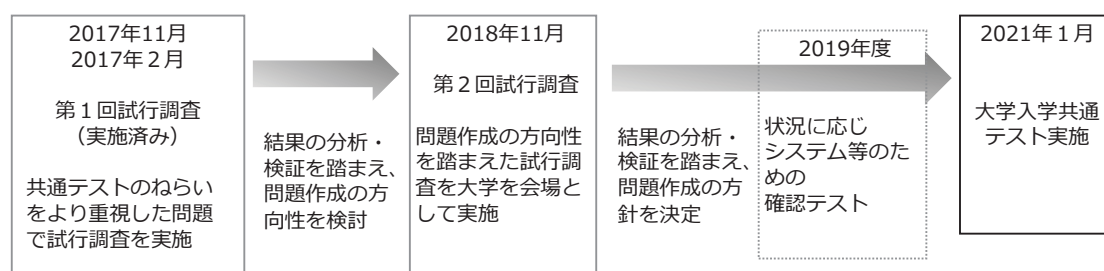
科目等名	高校2年 (中等5年)		高校3年 (中等6年)	
	受検者数	受検者割合	受検者数	受検者割合
国 語	53,068人	78.3%	14,677人	21.7%
数学Ⅰ・数学A	52,357人	79.6%	13,407人	20.4%
数学Ⅱ・数学B	825人	16.7%	4,110人	83.3%
世界史B	574人	21.1%	2,151人	78.9%
日本史B	662人	15.8%	3,538人	84.2%
地理B	462人	38.4%	741人	61.6%
現代社会	656人	24.5%	2,021人	75.5%
倫 理	225人	15.1%	1,264人	84.9%
政治・経済	115人	5.1%	2,128人	94.9%
物理基礎	312人	52.8%	279人	47.2%
化学基礎	842人	20.8%	3,207人	79.2%
生物基礎	1,045人	17.5%	4,943人	82.5%
地学基礎	285人	11.9%	2,113人	88.1%
物 理	585人	18.3%	2,611人	81.7%
化 学	718人	15.3%	3,961人	84.7%
生 物	225人	14.0%	1,386人	86.0%
地 学	0人	0.0%	130人	100.0%
英語（筆記〔リーディング〕）	2,309人	17.8%	10,681人	82.2%
英語（リスニング）	2,304人	17.8%	10,623人	82.2%

Ⅱ 試行調査(プレテスト)の趣旨と分析・検討方針

1 試行調査（プレテスト）の趣旨、作問体制等

- 大学入試センター（以下「センター」という。）では、平成29年（2017年）7月に文部科学省が公表した「大学入学共通テスト実施方針」（以下「実施方針」という。）に基づき、「大学入学共通テスト」（以下「共通テスト」という。）の問題作成や実施に向けた検証を行っている。前回実施した試行調査は、全国の高校・中等教育学校を会場として、問題作成の方針等を決定していくために必要となるデータの分析・検証を行い公表したところである。

第2回目となる今回の試行調査については、記述式・マーク式の問題の検証に加え、実施運営面を含めた総合的な検証を行うため、全国の大学等を会場として実施した。



- 第2回試行調査の問題については、センターの「大学入学共通テスト企画委員会」に設置された「試行調査における問題調査研究部会 教科・科目等別ワーキンググループ」（以下「WG」という。）において、前回の試行調査の問題作成終了後7ヶ月～1年程度かけて集中的に議論し作成した。

- 問題の作成に当たっては、平成30年（2018年）6月18日付の通知のとおり、大学入試センター試験（以下「センター試験」という。）における問題評価・改善の蓄積を生かすことや、大学教育の基礎力としてどのような知識・技能や思考力・判断力・表現力を問うのかというねらいを明確にすること、高等学校において「どのように学ぶか」を踏まえることなどを基本的な方向性とした。

各WGは10名から20名程度の委員で構成されており、大学教員等が約8割（うち約5割がセンター試験の作問経験者）、高校教員等が約2割となっている。

なお、問題の点検については、原則としてセンター試験の点検を担当している教科科目第二委員会の委員から、各科目10名程度に依頼した。

- 今回の試行調査では、上位層の識別も含めた多様な識別を図ることを意識し、マーク式問題の目標平均得点率（平均正答率）を5割程度として設定した。
- 試行調査を実施しなかった科目についての今後の方向性については、「Ⅲ 1（2）大学入学共通テストに向けて（マーク式問題）」の項目で記している。

2 分析・検討方針

- 「大学入学共通テスト企画委員会」において、試行調査実施前にあらかじめ分析・検討方針を専門的な見地から審議し、この方針（次頁以降の枠囲み）に沿って実施過程や結果に関する分析・検討を行った。

3 今後のスケジュール

- 現在、各科目別の問題作成方針分科会において、試行調査の結果を踏まえた問題作成方針を議論している。2019年度初頭には、文部科学省が策定する実施大綱を踏まえ、センターより「大学入学共通テストにおける問題作成方針及び実施方法等」に関する通知を発出予定である。
- 受検上の配慮については、配慮事項部会において議論を引き継ぎ、2019年度中に、文字解答・チェック解答用の記述式問題解答用紙例や、記述式問題のパソコン等を利用した解答方法等を公表する予定である。
- 2019年度は試行調査は行わないが、特に記述式問題の採点の円滑な実施を図るため、2020年度に向けた準備期間と位置づけ、次のような事業を実施する。
 - ・ 採点過程の質の維持・確保を図る準備事業を、高等学校の協力を得ながら実施
 - ・ 正答の条件等に関する考え方をわかりやすく整理し、高等学校や受検者に周知
 - ・ 大学に提供される成績情報の追加やシステムチェックのスケジュール等について、利用大学等に周知

Ⅲ 分析結果の報告

1 問題構成、設問数、内容等の在り方に関する分析・検討の概要

【分析・検討方針】

- 大学入試センターにおいて分析チームを構成し、次のような項目について試行調査（プレテスト。以下単に試行調査という。）の結果に基づくデータ解析を行い、科目別WGに提供する。
 - ① 科目ごとの平均得点率（平均正答率）等と得点の分布
 - ② 設問ごとの正答率や誤答の選択状況
 - ③ 設問ごとの五分位図
 - ④ 設問ごとの識別力（項目得点と総点とのピアソン相関）

（1）全体の結果の概要（マーク式問題）

① 科目等ごとの平均得点率（平均正答率）等と得点の分布

（平均得点率（平均正答率）等の状況）

- マーク式問題については、5割程度の平均得点率（平均正答率）を念頭に実施した。結果として、平均得点率（平均正答率）が5割程度以上となったのは、全19科目等※のうち7割を超える14科目等であった。これら以外の5科目（数学2科目及び理科3科目）については、今後の方向性を「（2）大学入学共通テストに向けて（マーク式問題）」でまとめている。

※英語は「筆記【リーディング】」と「リスニング」を併せて1科目だが、満点をそれぞれに設定しているため、別々に数えた。

- それ以外の14科目等についても、今回の受検者には高校2年生も含まれることや、高校3年生の秋から1月にかけては、点数がかなり伸びる傾向にある時期であると一般的に言われていることを踏まえた分析を行い、「Ⅳ1科目等別の問題構成、設問数、内容等の在り方に関する分析」においてまとめている。

<科目等別の受検者数とマーク式問題の平均得点率等>

教科名	科目等名	受検者数(人)	平均得点率(%)※1	平均点(点)※2	平均正答率(%)※3
		3年生の受検者数(人)	3年生の平均得点率(%)	3年生の平均点(点)	
国語（200点※4）	国語	67,745	45.40	90.81	46.92
		14,677	51.37	102.74	
数学	数学Ⅰ・数学A （85点※5）	65,764	30.12	25.61	34.54※6
		13,407	36.17	30.74	
	数学Ⅱ・数学B （100点）	4,935	36.06	36.06	44.89※6
		4,110	35.49	35.49	
地理歴史 （100点）	世界史B	2,725	59.60	59.60	59.24
		2,151	62.78	62.78	
	日本史B	4,200	54.57	54.57	53.58
		3,538	55.19	55.19	
	地理B	1,203	61.46	61.46	60.02
		741	62.72	62.72	
公民 （100点）	現代社会	2,677	51.63	51.63	51.82
		2,021	51.77	51.77	
	倫理	1,489	54.85	54.85	52.32
		1,264	55.89	55.89	
	政治・経済	2,243	49.27	49.27	49.62
		2,128	49.29	49.29	

教科名		科目等名		受検者数(人)	平均得点率(%)※1	平均点(点)※2	平均 正答率(%)※3	
				3年生の 受検者数(人)	3年生の 平均得点率(%)	3年生の 平均点(点)		
理科	理科① (50点)	物理基礎		591	58.26	29.13	53.64	
				279	58.04	29.02		
		化学基礎		4,049	50.99	25.50	49.20	
				3,207	50.41	25.20		
		生物基礎		5,988	51.02	25.51	47.53	
				4,943	51.21	25.60		
		地学基礎		2,398	57.21	28.60	57.47	
				2,113	57.74	28.87		
	理科② (100点)	物理		3,196	37.47	37.47	38.86	
				2,611	38.54	38.54		
		化学		4,679	49.68	49.68	51.03	
				3,961	50.77	50.77		
		生物		1,611	35.52	35.52	32.63	
				1,386	36.05	36.05		
		地学※7		130	42.02	42.02	42.65	
				130	42.02	42.02		
外国語		英語	筆記〔リーディング〕 (100点)		12,990	51.25	51.25	56.37
					10,681	51.15	51.15	
			リスニング (100点)		12,927	59.10	59.10	59.09
					10,623	58.82	58.82	

(注)

※1 平均得点率とは、平均点を満点で割って、百分率にしたもの。

国語の例：90.81点（平均点）÷200点（満点）×100＝45.40%

※2 平均点とは、当該科目等の全受検者の得点を平均したもの。

※3 平均正答率とは、当該科目等の正答数（部分正答は含まず）の平均を設問数で割って、百分率にしたもの。

※4 国語は、記述式問題の結果は段階別で示すことから、マーク式問題のみの点数。

※5 数学①の点数は、記述式問題を除いた点数。そのため、平均得点率は85点を満点として換算し、平均正答率は記述式問題の設問数を除いて算出。

※6 「数学Ⅰ・数学A」「数学Ⅱ・数学B」については、第3問～第5問から2問を選択して解答することとなっており、各科目における受検者の選択パターン別の平均正答率は以下のとおり。

科目名	選択パターン	選択率(%)	平均正答率(%)
数学Ⅰ・数学A	第3問・第4問	51.23	34.98
	第3問・第5問	24.72	31.56
	第4問・第5問	24.04	36.83
数学Ⅱ・数学B	第3問・第4問	13.82	35.90
	第3問・第5問	5.57	33.63
	第4問・第5問	80.61	47.15

※7 地学の受検者数については、高等学校を会場として試行調査を行った105人を含む。

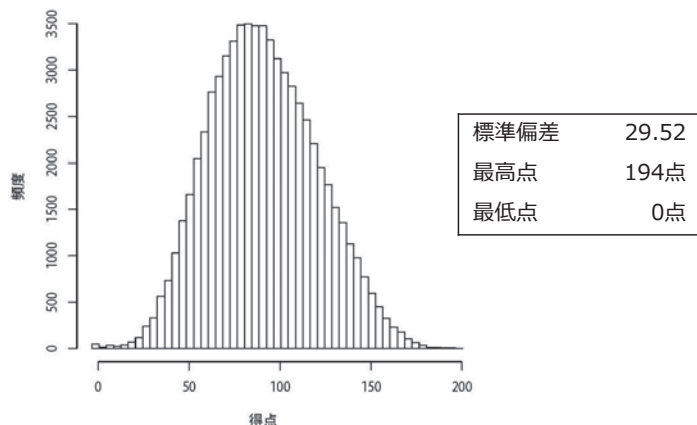
(得点の分布の状況)

- 過去3年間のセンター試験の標準偏差は、概ね15～20程度となっている。受検者数や目標平均得点率が異なることなどもあり、センター試験と一概に比較はできないものの、今回の試行調査において、標準偏差15を下回った科目は、「数学Ⅱ・数学B」「日本史B」「現代社会」「政治・経済」「生物」「地学」であった。
- 「数学Ⅱ・数学B」「生物」については、平均得点率が低かったことを踏まえると、試行調査の受検者に対しては問題の難易度が高く、標準偏差が小さくなったものと考えられる。「地学」については、受検者数が少なかったことを考慮する必要があるが、「数学Ⅱ・数学B」「生物」と同様の理由が考えられる。
- 一方、平均得点率（平均正答率）5割程度に達している科目については、得点分布が偏っていた可能性が考えられる。正答率が比較的高い設問数と低い設問数が多く、分布が平均値得点付近に集中したことが、設問正答率幹葉図※からもうかがえる。このため、共通テストに向けては、正答率が中程度の設問数を増やすなど、試験問題全体の難易度のバランスに配慮する必要がある。

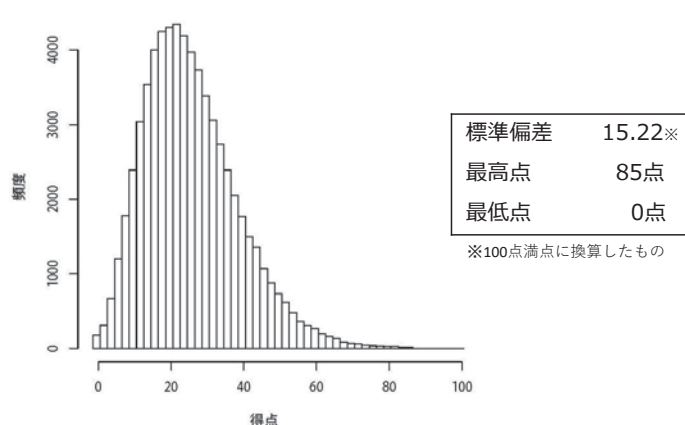
※ 「設問正答率幹葉図」とは、平均正答率を5ポイント刻みで区切り左側の区間（幹）とし、それぞれの区間に当てはまる設問の番号を右側（葉）に並べたもの。

<各科目等における得点の分布図>

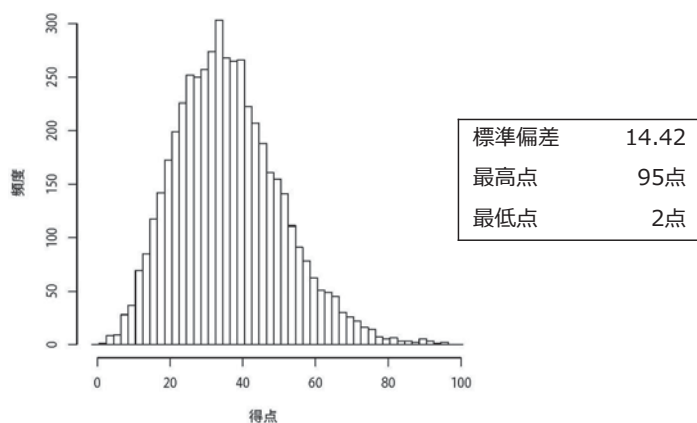
国語（200点満点）



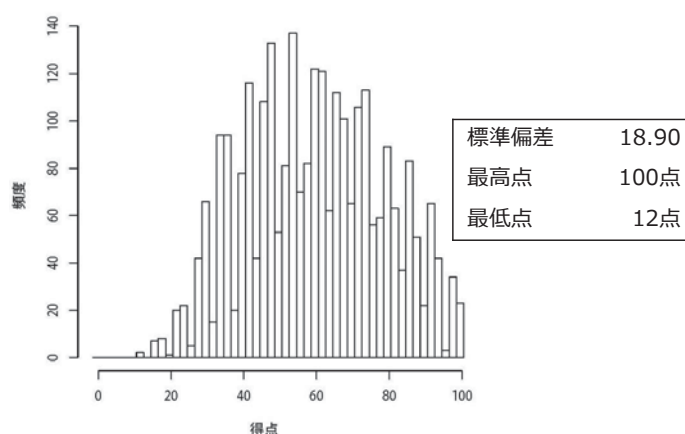
数学Ⅰ・数学A（85点満点）



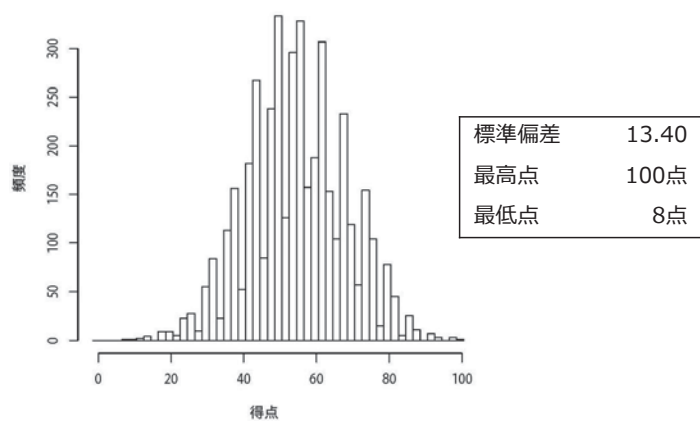
数学Ⅱ・数学B（100点満点）



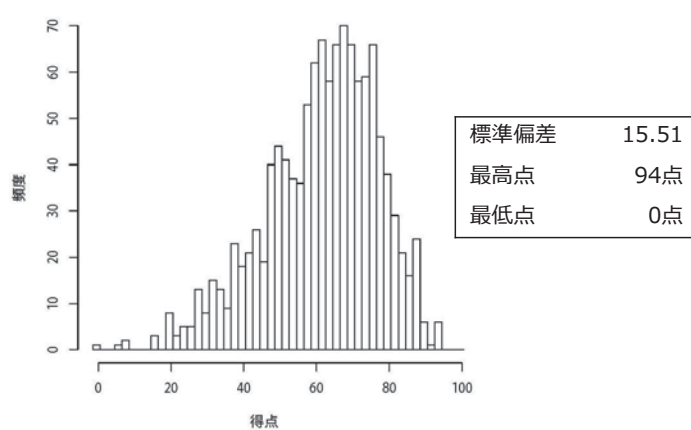
世界史B（100点満点）



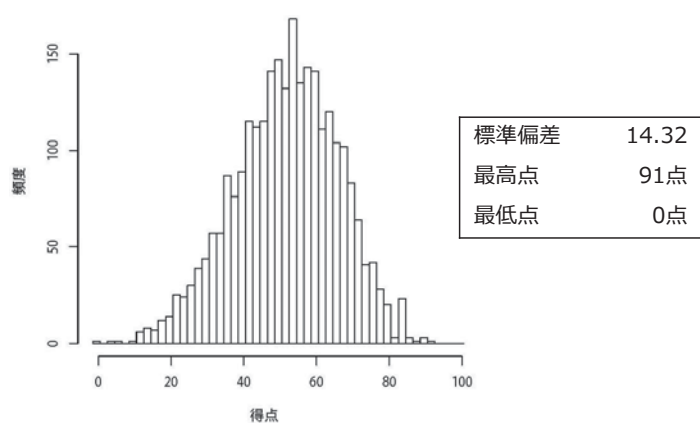
日本史B（100点満点）



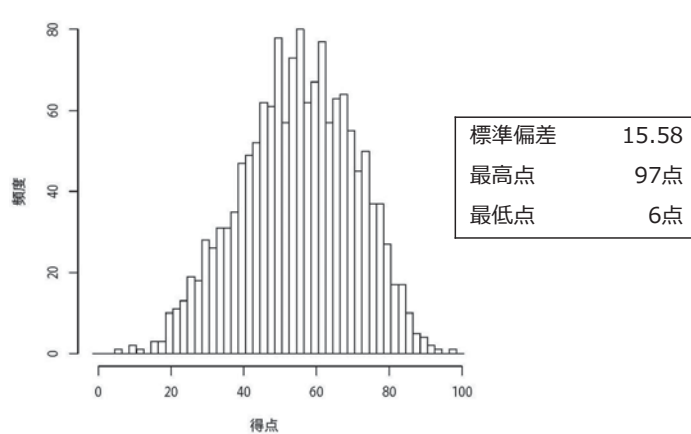
地理B（100点満点）



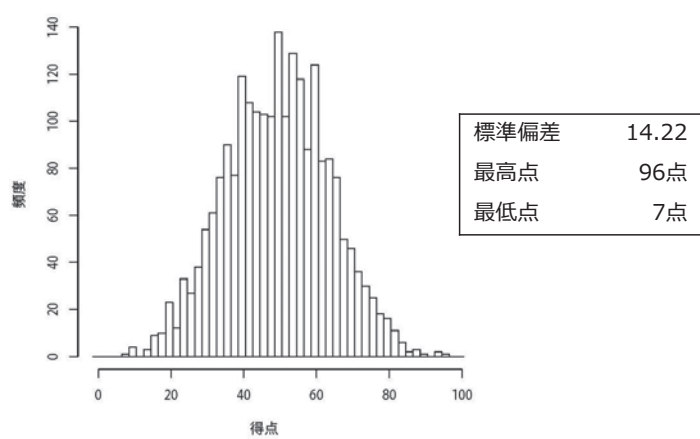
現代社会（100点満点）



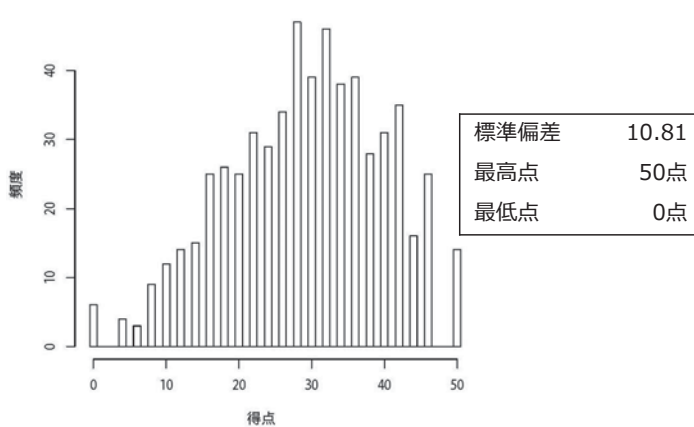
倫理（100点満点）



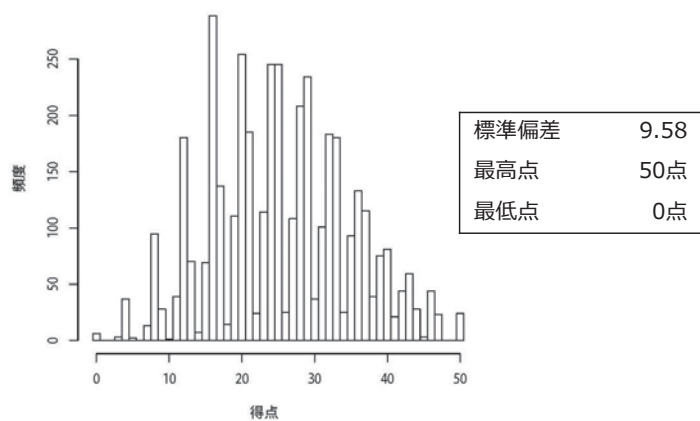
政治・経済（100点満点）



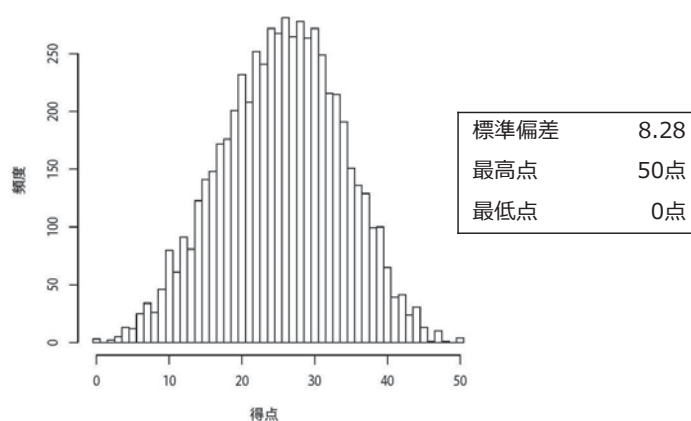
物理基礎（50点満点）



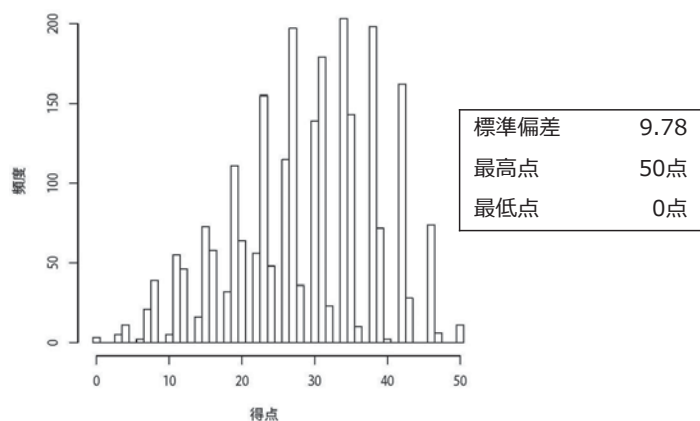
化学基礎（50点満点）



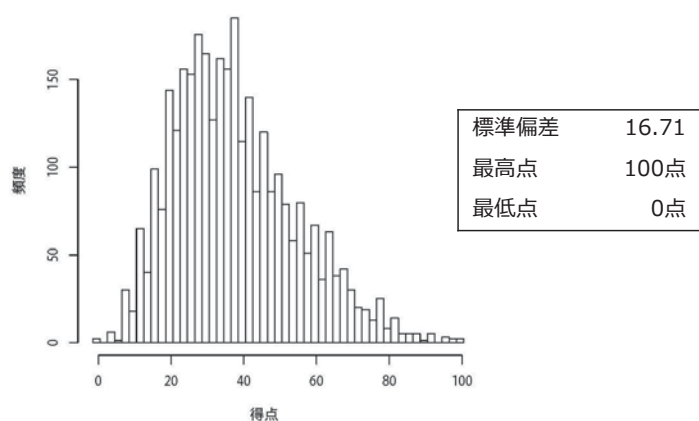
生物基礎（50点満点）



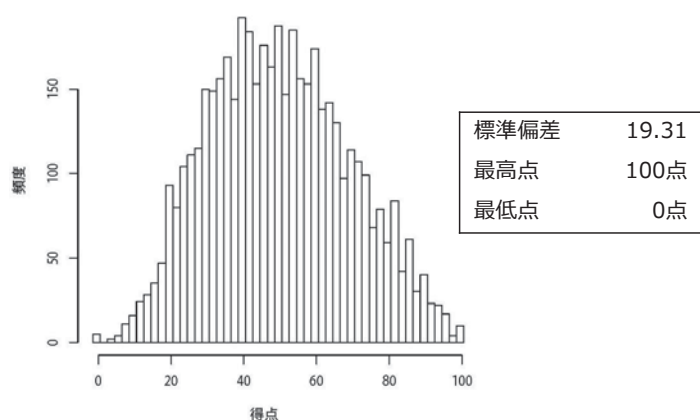
地学基礎（50点満点）



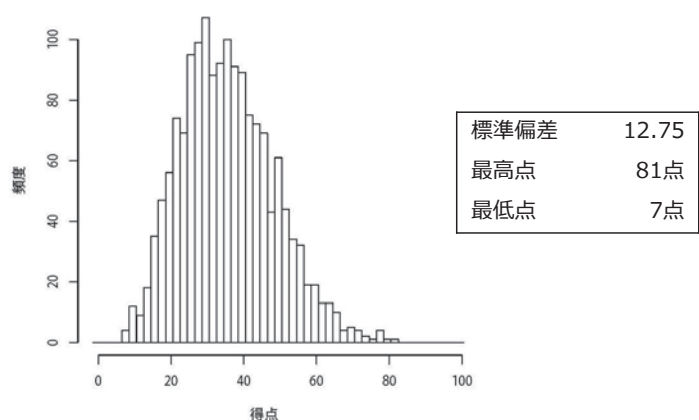
物理（100点満点）



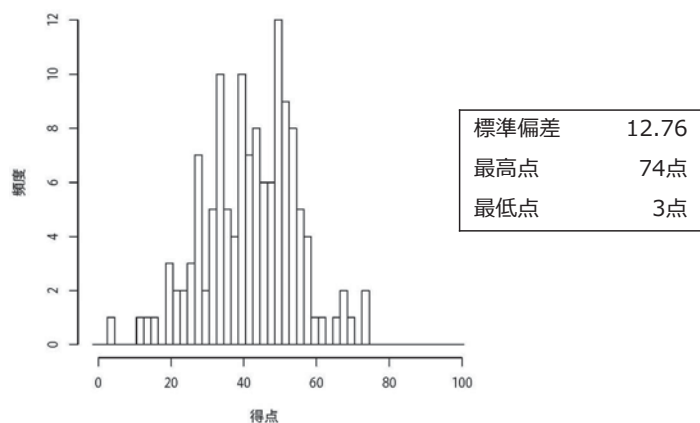
化学（100点満点）



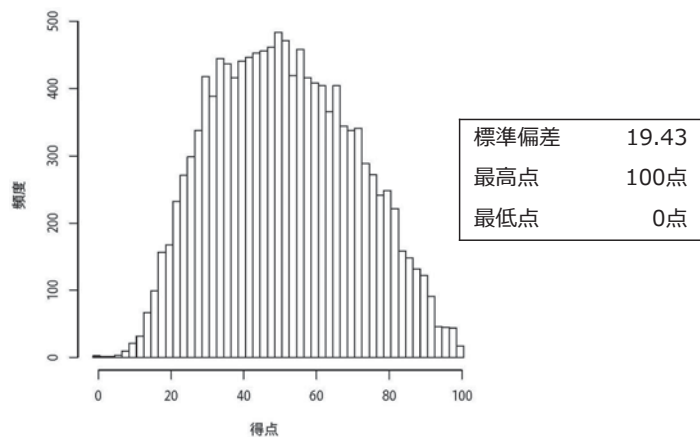
生物（100点満点）



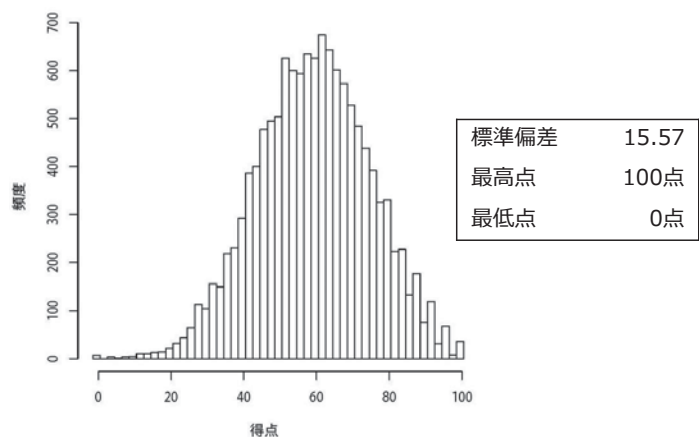
地学（100点満点）



英語（筆記〔リーディング〕）（100点満点）



英語（リスニング）（100点満点）



<設問正答率幹葉図>

国語

平均正答率区間	設問数	設問番号	(部分正答等)
95%≦	(0)		
90%～95%	(0)		
85%～90%	(1)	2:2	
80%～85%	(1)	2:1	
75%～80%	(0)		
70%～75%	(3)	2:3, 2:4, 5:1	
65%～70%	(1)	5:2	
60%～65%	(2)	3:5, 4:2	
55%～60%	(2)	3:4, 3:7	
50%～55%	(4)	2:5, 4:1, 5:3, 5:6	
45%～50%	(1)	3:6	
40%～45%	(2)	2:6, 2:(10-12)[246]*	
35%～40%	(6)	2:7, 3:1, 3:2, 3:3, 5:7, 5:8	
30%～35%	(7)	2:8, 3:9, 4:4, 4:6, 4:(7-8)[26]*, 5:4, 5:5	
25%～30%	(2)	4:3, 4:5	4:(7-8)[2]
20%～25%	(1)	3:8	2:(10-12)[24]
15%～20%	(1)	2:9	
10%～15%	(0)		4:(7-8)[6]
5%～10%	(0)		2:(10-12)[2], 2:(10-12)[26]
<5%	(0)		2:(10-12)[4], 2:(10-12)[6], 2:(10-12)[46]

数学Ⅰ・数学A

平均正答率区間	設問数	設問番号	(部分正答等)
95%≦	(0)		
90%～95%	(0)		
85%～90%	(0)		
80%～85%	(0)		
75%～80%	(3)	4:(7-4), 4:ウ, 4:エ	
70%～75%	(2)	1:ウ, 2:セ	
65%～70%	(1)	1:ウ	
60%～65%	(1)	1:カ	
55%～60%	(1)	1:キ	
50%～55%	(2)	2:チ, 3:(7-ウ)	
45%～50%	(3)	1:エ, 3:ケ, 4:(オ-カ)	
40%～45%	(2)	2:(エ-オ), 5:ウ	
35%～40%	(3)	1:(7-4), 4:(キ-カ), 5:カ	
30%～35%	(5)	1:オ, 2:チ, 3:(エ-カ), 3:(キ-ウ), 5:(7-4)	
25%～30%	(5)	2:(7-ウ), 2:ソ, 2:ツ, 2:ト, 5:(エ-オ)	
20%～25%	(2)	2:タ, 4:シ	
15%～20%	(2)	3:テ, 5:キ	
10%～15%	(4)	3:(コ-シ), 4:ス, 5:ク, 5:ケ	
5%～10%	(5)	3:(ス-ツ), 3:(タ-ツ), 4:(ケ-ウ), 4:セ, 4:(ウ-タ)	
<5%	(3)	2:(カ-ク), 2:(ケ-ス), 4:(チ-ト)	

数学Ⅱ・数学B

平均正答率区間	設問数	設問番号	(部分正答等)
95%≦	(1)	5:(7-4)	
90%～95%	(3)	1:カ, 2:7, 2:イ	
85%～90%	(5)	1:(キ-ウ), 1:チ, 2:(ウ-エ), 4:7, 5:(ウ-エ)	
80%～85%	(2)	1:(7-4), 4:オ	
75%～80%	(0)		
70%～75%	(1)	1:ツ	
65%～70%	(1)	4:(イ-エ)	
60%～65%	(0)		
55%～60%	(2)	1:ソ, 1:テ	
50%～55%	(1)	1:ナ	
45%～50%	(3)	2:(ウ-サ), 2:(シ-セ), 4:(カ-キ)	
40%～45%	(5)	1:(ウ-エ), 1:オ, 1:(ウ-セ), 2:(オ-キ), 2:ト	
35%～40%	(4)	1:タ, 2:(タ-チ), 3:(7-ウ), 4:(ウ-コ)	
30%～35%	(2)	1:ト, 2:(ウ-チ)	
25%～30%	(5)	2:ナ, 2:ヌ, 3:エ, 4:(ウ-シ), 5:(オ-カ)	
20%～25%	(0)		
15%～20%	(4)	2:ツ, 4:(タ-ツ), 5:(ウ-シ), 5:テ	
10%～15%	(3)	3:(ウ-タ), 3:チ, 4:(ス-ツ)	
5%～10%	(5)	3:タ, 3:ツ, 5:(キ-コ), 5:タ, 5:(チ-ツ)	
<5%	(7)	1:ニ, 2:ニ, 3:(オ-キ), 3:(ウ-サ), 3:(シ-ツ), 4:(テ-ヌ), 5:(ス-ツ)	

世界史B

平均正答率区間	設問数	設問番号	(部分正答等)
95%≦	(0)		
90%～95%	(0)		
85%～90%	(1)	10	
80%～85%	(1)	30	
75%～80%	(4)	7, 21, 24*, 32	
70%～75%	(0)		
65%～70%	(5)	4, 6, 9, 13, 26	
60%～65%	(6)	5, 11, 16, 19, 20, 28	
55%～60%	(2)	2, 17	
50%～55%	(7)	1, 3, 8, 14, 15, 29, 34	
45%～50%	(3)	22, (24,25)*, 31	24[1]
40%～45%	(3)	18, 23, 27	
35%～40%	(1)	33	
30%～35%	(1)	12	(24,25)[1,4]
25%～30%	(0)		24[5]
20%～25%	(0)		
15%～20%	(0)		(24,25)[5,1]
10%～15%	(0)		
5%～10%	(0)		
<5%	(0)		

日本史B

平均正答率区間	設問数	設問番号	(部分正答等)
95%≦	(2)	1, 4	
90%～95%	(1)	13	
85%～90%	(1)	5	
80%～85%	(2)	2, 15	
75%～80%	(2)	21, (35,36)*	
70%～75%	(1)	25	
65%～70%	(0)		
60%～65%	(2)	3, 22	
55%～60%	(2)	16, 32	
50%～55%	(1)	12	
45%～50%	(7)	8, 14, 23, 24, 26, 33, 34	
40%～45%	(1)	20	(35,36)[1,5]
35%～40%	(6)	6, 7, 17, 19, (27-28)[34]*, 30	(27-28)[3]
30%～35%	(1)	18	(35,36)[2,7]
25%～30%	(1)	29	
20%～25%	(1)	31	(27-28)[4]
15%～20%	(1)	9	
10%～15%	(0)		
5%～10%	(1)	(10-11)	
<5%	(0)		

地理B

平均正答率区間	設問数	設問番号	(部分正答等)
95%≦	(0)		
90%～95%	(1)	22	
85%～90%	(3)	1, 30, 32	
80%～85%	(1)	24	
75%～80%	(3)	4, 12, 16	
70%～75%	(3)	15, 17, 31	
65%～70%	(0)		
60%～65%	(4)	2, 8, 9, 18	
55%～60%	(5)	14, 23, (25-26)[37]*, 27, 29	
50%～55%	(1)	(20-21)[37]*	
45%～50%	(2)	5, 10	
40%～45%	(3)	6, 11, 19	
35%～40%	(0)		
30%～35%	(0)		
25%～30%	(3)	7, 13, 28	(20-21)[3]
20%～25%	(0)		(25-26)[3]
15%～20%	(0)		
10%～15%	(1)	3	
5%～10%	(0)		(20-21)[7], (25-26)[7]
<5%	(0)		

現代社会

平均正答率区間	設問数	設問番号	(部分正答等)
95%≦	(0)		
90%～95%	(0)		
85%～90%	(2)	1, 13	
80%～85%	(1)	(17,19-20)*	
75%～80%	(2)	16, 28	
70%～75%	(3)	3, 6, 31	
65%～70%	(2)	8, 33	(17,19-20)[2,23]
60%～65%	(3)	2, 5, 15	
55%～60%	(3)	(17,18)*, 23, 25	
50%～55%	(1)	26	
45%～50%	(2)	30, 32	
40%～45%	(0)		(17,18)[2,2]
35%～40%	(3)	11, 27, 29	
30%～35%	(2)	10, 21	
25%～30%	(3)	9, 12, 24	
20%～25%	(1)	22	
15%～20%	(1)	7	(17,18)[1,1]
10%～15%	(2)	4, 14	(17,19-20)[1,14]
5%～10%	(0)		
<5%	(0)		

倫理

平均正答率区間	設問数	設問番号	(部分正答等)
95%≦	(0)		
90%～95%	(0)		
85%～90%	(1)	1	
80%～85%	(0)		
75%～80%	(3)	2, 6, 20	
70%～75%	(3)	3, 19, 35	
65%～70%	(2)	21, 25	
60%～65%	(1)	33	
55%～60%	(3)	(7,8-10)*, (12,13)*, 34	
50%～55%	(2)	14, 22	
45%～50%	(5)	4, (15-16)[14]*, (27-28), 31, (37-38)[14]*	
40%～45%	(0)		(15-16)[4]
35%～40%	(2)	17, 18	(7,8-10)[4,423]
30%～35%	(2)	26, 32	(23-24)[2], (23-24)[3]
25%～30%	(3)	5, (29-30), 36	
20%～25%	(2)	11, (23-24)[23]*	(12,13)[3,1]
15%～20%	(0)		(12,13)[4,2], (37-38)[1], (37-38)[4]
10%～15%	(0)		(7,8-10)[3,214], (12,13)[2,4]
5%～10%	(0)		(7,8-10)[1,131], (12,13)[1,3], (15-16)[1]
<5%	(0)		(7,8-10)[2,342]

政治・経済

平均正答率区間	(設問数)	設問番号
95%≦	(0)	
90%～95%	(0)	
85%～90%	(0)	
80%～85%	(1)	9
75%～80%	(3)	3, 4, 14
70%～75%	(0)	
65%～70%	(3)	15, 21, 22
60%～65%	(3)	10, 19, 23
55%～60%	(2)	1, 13
50%～55%	(3)	7, 20, 29
45%～50%	(2)	11, 27
40%～45%	(2)	24, 25
35%～40%	(2)	17, 18
30%～35%	(5)	2, 8, 12, 16, 28
25%～30%	(2)	26, 30
20%～25%	(1)	5
15%～20%	(0)	
10%～15%	(1)	6
5%～10%	(0)	
<5%	(0)	

物理基礎

平均正答率区間	(設問数)	設問番号	(部分正答等)
95%≦	(0)		
90%～95%	(0)		
85%～90%	(1)	(4-5)	
80%～85%	(0)		
75%～80%	(1)	8	
70%～75%	(2)	7, 15	
65%～70%	(1)	13	
60%～65%	(0)		
55%～60%	(0)		
50%～55%	(3)	1, 2, 14	
45%～50%	(1)	12	
40%～45%	(0)		
35%～40%	(2)	3[3]*, 6	
30%～35%	(2)	9, 11	
25%～30%	(0)		3[1]
20%～25%	(1)	10	
15%～20%	(0)		
10%～15%	(0)		
5%～10%	(0)		3[4], 3[7]
<5%	(0)		

化学基礎

平均正答率区間	(設問数)	設問番号
95%≦	(0)	
90%～95%	(1)	5
85%～90%	(0)	
80%～85%	(0)	
75%～80%	(1)	4
70%～75%	(0)	
65%～70%	(0)	
60%～65%	(3)	1, 2, 3
55%～60%	(1)	9
50%～55%	(0)	
45%～50%	(1)	10
40%～45%	(1)	13
35%～40%	(1)	12
30%～35%	(0)	
25%～30%	(2)	6, 11
20%～25%	(1)	8
15%～20%	(1)	7
10%～15%	(0)	
5%～10%	(0)	
<5%	(0)	

生物基礎

平均正答率区間	(設問数)	設問番号	(部分正答等)
95%≦	(0)		
90%～95%	(0)		
85%～90%	(0)		
80%～85%	(1)	11	
75%～80%	(1)	12	
70%～75%	(1)	(14-15)[27]*	
65%～70%	(1)	6	
60%～65%	(1)	1	
55%～60%	(2)	4, 16	
50%～55%	(1)	5	
45%～50%	(0)		
40%～45%	(1)	7	
35%～40%	(3)	3, (17-18)[14]*, 19	
30%～35%	(0)		(8-9)[1], (17-18)[4]
25%～30%	(2)	2, 10	
20%～25%	(0)		
15%～20%	(0)		(8-9)[3], (14-15)[2]
10%～15%	(1)	(8-9)[13]*	(17-18)[1]
5%～10%	(0)		
<5%	(1)	13	(14-15)[7]

地学基礎

平均正答率区間	(設問数)	設問番号
95%≦	(0)	
90%～95%	(0)	
85%～90%	(1)	1
80%～85%	(0)	
75%～80%	(1)	11
70%～75%	(1)	7
65%～70%	(2)	4, (5-6)
60%～65%	(1)	8
55%～60%	(3)	2, 12, 13
50%～55%	(0)	
45%～50%	(2)	10, 14
40%～45%	(0)	
35%～40%	(1)	9
30%～35%	(0)	
25%～30%	(0)	
20%～25%	(0)	
15%～20%	(0)	
10%～15%	(1)	3
5%～10%	(0)	
<5%	(0)	

物理

平均正答率区間	(設問数)	設問番号	(部分正答等)
95%≦	(0)		
90%～95%	(0)		
85%～90%	(1)	4:1	
80%～85%	(0)		
75%～80%	(2)	1:1, 2:4	
70%～75%	(0)		
65%～70%	(0)		
60%～65%	(0)		
55%～60%	(3)	2:1, 3:2, 3:3	
50%～55%	(1)	3:1	
45%～50%	(1)	1:2	
40%～45%	(0)		
35%～40%	(4)	2:2*, 2:3, 2:5, 3:4	
30%～35%	(1)	3:5	2:2[8]
25%～30%	(3)	1:4, 4:2, 4:3[5]*	
20%～25%	(2)	2:6, 4:4	
15%～20%	(2)	1:3, 4:5	4:3[4]
10%～15%	(1)	1:7	
5%～10%	(2)	1:(5-6), 1:(8-10)	2:(1, 2)[2,5]
<5%	(0)		

化学

平均正答率区間	(設問数)	設問番号	(部分正答等)
95%≦	(0)		
90%～95%	(0)		
85%～90%	(1)	2:1	
80%～85%	(1)	2:2	
75%～80%	(1)	2:4	
70%～75%	(2)	1:7, 2:6	
65%～70%	(1)	3:3	
60%～65%	(6)	1:1, 1:5, 1:6, 3:4, 3:7, 4:(2-3)	
55%～60%	(0)		
50%～55%	(2)	1:8, 1:9	
45%～50%	(2)	3:1, 5:4	
40%～45%	(4)	3:6, 4:6, 5:1, 5:(2-3)[13]*	
35%～40%	(4)	2:3, 2:5, 4:1, 4:5	
30%～35%	(2)	2:7, 5:5	
25%～30%	(2)	3:2, 4:4	5:(2-3)[1]
20%～25%	(1)	3:5	
15%～20%	(1)	1:(1,2-4)*	5:(2-3)[3]
10%～15%	(0)		1:(1,2-4)[1,751], 1:(1,2-4)[2,851]
5%～10%	(0)		1:(1,2-4)[3,112], 1:(1,2-4)[5,152]
<5%	(0)		

生物

平均正答率区間	(設問数)	設問番号	(部分正答等)
95%≦	(0)		
90%～95%	(0)		
85%～90%	(0)		
80%～85%	(0)		
75%～80%	(0)		
70%～75%	(0)		
65%～70%	(2)	2:1, 2:7	
60%～65%	(2)	2:2, 2:5	
55%～60%	(1)	5:4	
50%～55%	(1)	3:1	
45%～50%	(2)	1:1, 3:3	
40%～45%	(1)	5:2	
35%～40%	(3)	1:2[6]*, 1:3, 2:(3-4)[35]*	
30%～35%	(3)	4:2, 5:1[5]*, 5:5	5:(6-7)[1]
25%～30%	(1)	4:(4-5)	2:(3-4)[3], 5:1[3]
20%～25%	(2)	2:6, 4:6	2:10, 3:4[4], 5:(6-7)[5]
15%～20%	(3)	4:1, 4:3, 5:3	3:4[6]
10%～15%	(2)	3:2, 5:(6-7)[15]*	2:(3-4)[5], 2:9, 3:4[5]
5%～10%	(4)	2:8, 2:(9-10)*, 3:4[7]*, 5:8	1:2[2], 1:2[3]
<5%	(0)		5:1[1]

地学

平均正答率区間	(設問数)	設問番号
95%≧	(0)	
90%～95%	(0)	
85%～90%	(1)	4:1
80%～85%	(0)	
75%～80%	(1)	1:2
70%～75%	(1)	3:3
65%～70%	(1)	3:2
60%～65%	(2)	1:7, 3:5
55%～60%	(0)	
50%～55%	(1)	4:(4-5)
45%～50%	(4)	1:4, 2:1, 2:6, 4:2
40%～45%	(4)	1:1, 1:5, 2:2, 5:2
35%～40%	(4)	2:4, 3:6, 5:1, 5:4
30%～35%	(3)	2:5, 4:3, 5:5
25%～30%	(2)	3:1, 4:6
20%～25%	(2)	1:3, 2:3
15%～20%	(2)	1:6, 5:3
10%～15%	(0)	
5%～10%	(1)	3:4
<5%	(0)	

英語（筆記〔リーディング〕）

平均正答率区間	(設問数)	設問番号
95%≧	(0)	
90%～95%	(0)	
85%～90%	(4)	1, 6, 7, 16
80%～85%	(2)	4, 11
75%～80%	(2)	3, 5
70%～75%	(1)	18
65%～70%	(3)	8, 22, 26
60%～65%	(3)	15, 17, 19
55%～60%	(6)	2, 9, 10, 20, 23, 39
50%～55%	(3)	14, 35, 43
45%～50%	(4)	13, 21, (24-25), 37
40%～45%	(2)	12, 33
35%～40%	(2)	38, 40
30%～35%	(0)	
25%～30%	(1)	36
20%～25%	(1)	(27-31)
15%～20%	(2)	34, (41-42)
10%～15%	(0)	
5%～10%	(1)	32
<5%	(0)	

英語（リスニング）

平均正答率区間	(設問数)	設問番号
95%≧	(2)	13, (16-19)
90%～95%	(2)	7, 9
85%～90%	(1)	10
80%～85%	(3)	2, 3, 8
75%～80%	(1)	12
70%～75%	(0)	
65%～70%	(2)	4, 24
60%～65%	(3)	1, 14, 35
55%～60%	(2)	6, 11
50%～55%	(1)	20
45%～50%	(5)	22, 23, 25, 34, 37
40%～45%	(2)	15, 21
35%～40%	(2)	(26-28), 33
30%～35%	(1)	32
25%～30%	(1)	36
20%～25%	(1)	(29-31)
15%～20%	(1)	5
10%～15%	(0)	
5%～10%	(0)	
<5%	(0)	

（設問別無解答率の状況）

- 「数学Ⅰ・数学Ⅱ」「数学Ⅲ・数学Ⅳ」の2科目を除き、ほぼ9割の設問が無解答率5%未満となった。無解答率の高い問題については第2部で個別に分析している。
- 「数学Ⅰ・数学Ⅱ」「数学Ⅲ・数学Ⅳ」については、問題文を読み解く量が多かったことなどから、試験時間が足りなかった可能性が考えられる。

	(以上) (未満)	0%～ 5%	5%～ 10%	10%～ 20%	20%～ 30%	30%～ 40%	40%～ 50%	50%～ 60%	60%～ 70%	70%～ 80%	80%～ 90%	90%～ 100%
国語	設問数	33	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	割合	97%	3%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
数学Ⅰ・数学Ⅱ	設問数	8	9	14	3	4	2	3	1	0	0	0
	割合	18%	26%	41%	9%	12%	6%	9%	3%	0%	0%	0%
数学Ⅲ・数学Ⅳ	設問数	15	4	4	13	0	3	11	3	1	0	0
	割合	28%	12%	12%	38%	0%	9%	32%	9%	3%	0%	0%
世界史B	設問数	34	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	割合	100%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
日本史B	設問数	33	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	割合	100%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
地理B	設問数	30	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	割合	100%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
現代社会	設問数	31	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	割合	100%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
倫理	設問数	29	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	割合	100%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
政治・経済	設問数	30	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	割合	100%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%

	(以上) (未満)	0% ～ 5%	5% ～ 10%	10% ～ 20%	20% ～ 30%	30% ～ 40%	40% ～ 50%	50% ～ 60%	60% ～ 70%	70% ～ 80%	80% ～ 90%	90% ～ 100%
物理基礎	設問数	14	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	割合	100%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
化学基礎	設問数	13	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	割合	100%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
生物基礎	設問数	16	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	割合	100%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
地学基礎	設問数	13	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	割合	100%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
物理	設問数	21	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0
	割合	91%	3%	3%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
化学	設問数	28	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	割合	93%	6%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
生物	設問数	26	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	割合	96%	3%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
地学	設問数	29	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	割合	100%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
英語（筆記〔リーディング〕）	設問数	33	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0
	割合	89%	9%	3%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
英語（リスニング）	設問数	29	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	割合	97%	3%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%

② 設問ごとの正答率や誤答の選択状況

（正答率の状況）

- 各設問の正答率は、「各教科・科目等の問題のねらい、主に問いたい資質・能力、小問の概要及び設問ごとの正答率等」（平成30年12月27日公表資料）のとおり。課題のあった設問については、第2部で個別に分析している。

（誤答の選択状況）

- 各科目において、特定の誤答選択肢を選択した者の数が正答を選択した者の数を上回る設問数は次のとおり。各設問の分析では、この点にも留意して行った。

科目等名	総設問数	特定の誤答選択肢を選択した者の数が正答を選択した者の数を上回る設問数	割合
国 語	34	2	5.9%
数学Ⅰ・数学A	44	7	15.9%
数学Ⅱ・数学B	54	11	20.4%
世界史B	34	1	2.9%
日本史B	33	7	21.2%
地理B	30	4	13.3%
現代社会	31	8	25.8%
倫 理	29	3	10.3%
政治・経済	30	6	20.0%

科目等名	総設問数	特定の誤答選択肢を選択した者の数が正答を選択した者の数を上回る設問数	割合
物理基礎	14	4	28.6%
化学基礎	13	3	23.1%
生物基礎	16	4	25.0%
地学基礎	13	1	7.7%
物 理	23	8	34.8%
化 学	30	2	6.7%
生 物	27	13	48.1%
地 学	29	9	31.0%
英語（筆記［リーディング］）	37	2	5.4%
英語（リスニング）	30	2	6.7%

（新しい出題形式の状況）

- 解答が前問の解答と連動し正答の組合せが複数ある問題（8問）における正答率は次のとおり。なお、五分位図のLo群とHi群の正答率の差が20ポイント以下であった問題はなく、識別力のある問題であったと考えられる。

科目名	問題番号	平均正答率	Lo群とHi群の正答率の差が20ポイント以下
世界史B	第4問A問2(2)（解答番号25）	49.32%	—
日本史B	第6問問7（解答番号35－36）	75.12%	—
現代社会	第3問問3(1)（解答番号18）	56.22%	—
	第3問問3(2)（解答番号19－20）	82.11%	—
倫理	第1問C問7(1)～(4)（解答番号7－10）	57.35%	—
	第1問C問9(1)(2)（解答番号12－13）	58.50%	—
物理	第2問A問2（解答番号2）	36.89%	—
化学	第1問A問2（解答番号2－4）	19.73%	—

- 当てはまる選択肢を全て選択する問題（10問）において、五分位図のLo群とHi群の正答率の差が20ポイント以下の問題は、「数学Ⅰ・数学A」で1問、「数学Ⅱ・数学B」で2問あった。

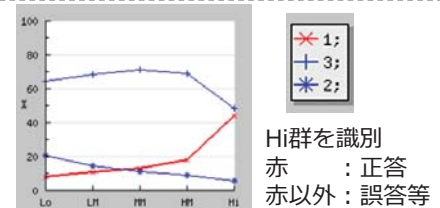
③ 設問ごとの五分位図

- 平均得点率（平均正答率）が5割程度に達しなかった科目（「数学Ⅰ・数学A」「数学Ⅱ・数学B」「物理」「生物」「地学」）において、Hi群の得点率が50%を超えていない大問が存在した。各科目等の分析は次のとおり。

※ 五分位図とは

当該科目等の得点により、受検者を五群に（ほぼ）等分割し、得点の少ない順に、Lo群、LM群、M群、HM群、Hi群と名付け、各群ごとの平均得点率等を示したもの。

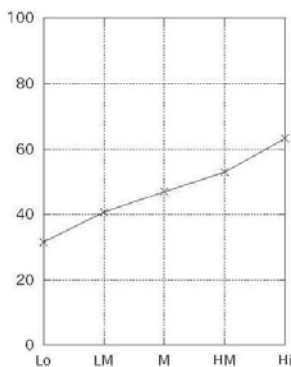
大問の五分位図については各群での平均得点率を示す。設問の五分位図については右図の例のとおり、正答選択肢と、全体の選択率が10%以上の誤答選択肢について、各群での選択率を示す。



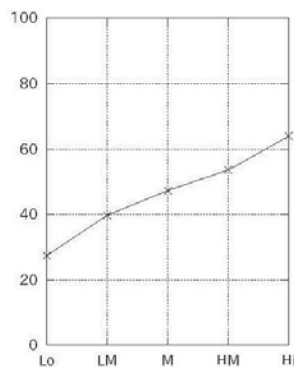
《大問の五分位図》

【国語】

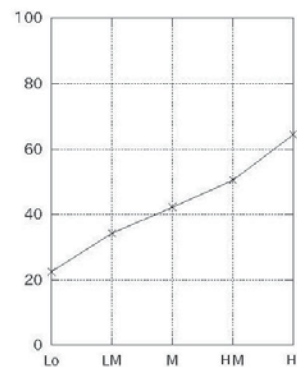
第2問
配点 50 点、平均 47.10%



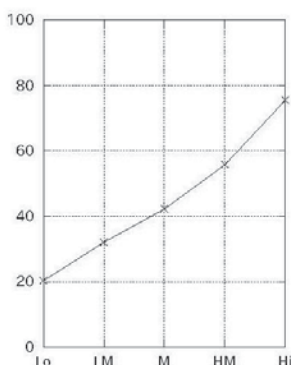
第3問
配点 50 点、平均 46.44%



第4問
配点 50 点、平均 42.80%



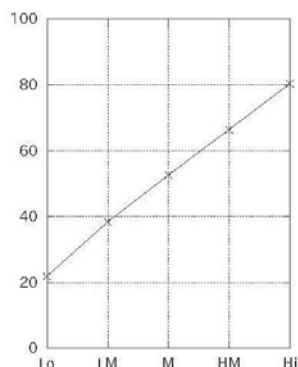
第5問
配点 50 点、平均 45.27%



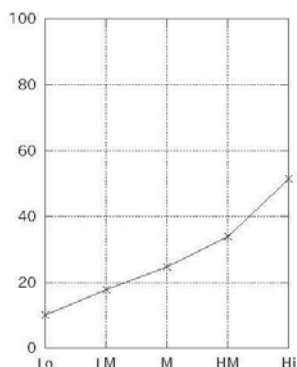
各大問の五分位図からは、多様な学力層を識別できていることが伺える。なお、第2問は、Hi群とLo群の差が他の大問と比べて小さいが、問題全体としてはバランスがとれていると考えられる。

【数学Ⅰ・数学Ⅱ】 ※記述式を除くマーク式のみのデータ。

第1問
配点 15 点、平均 51.99%

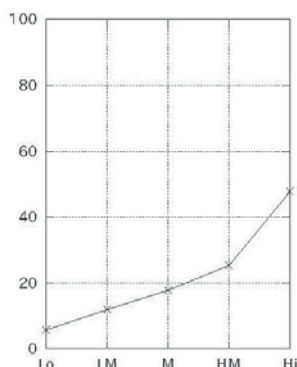


第2問
配点 30 点、平均 27.72%

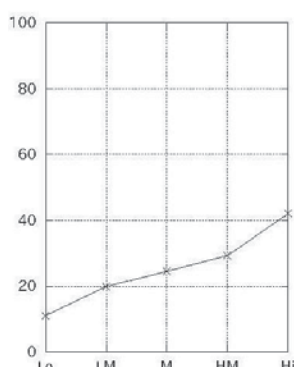


各大問の五分位図からは、目標とする平均得点率（平均正答率）に影響を与えた大問が見受けられた。具体的には、第3問～第5問はHi群でも得点率が5割未満、第2問のHi群でもほぼ5割となっている。さらに、第2問～第5問の各群での得点率の差を見ると、HM群とHi群が最も大きくなっている。このことから、第2問～第5問については、高学力層の識別により寄与しているが、受検者層全体に対しては難易度が高かったと考えられる。

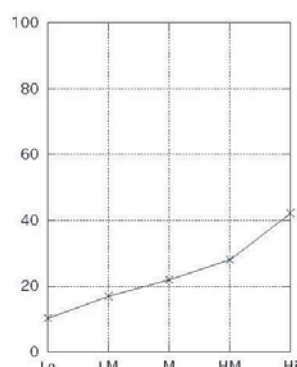
第3問 選択率76.0%
配点 20 点、平均 21.43%



第4問 選択率75.3%
配点 20 点、平均 25.98%

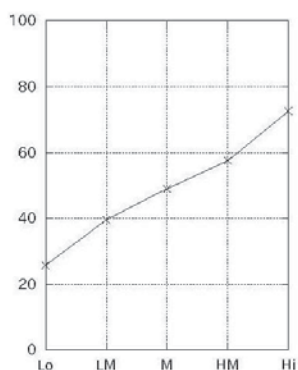


第5問 選択率48.8%
配点 20 点、平均 23.83%

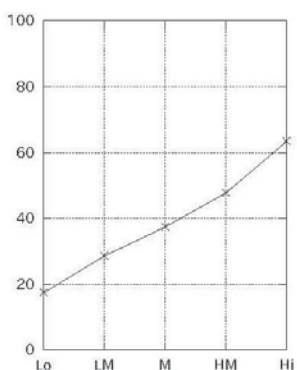


【数学Ⅱ・数学Ⅲ】

第1問
配点 30 点、平均 48.98%

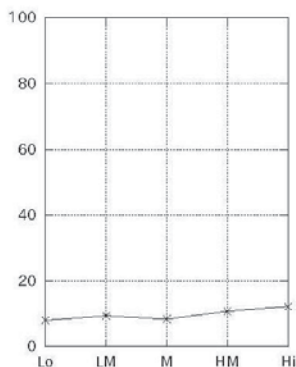


第2問
配点 30 点、平均 39.06%

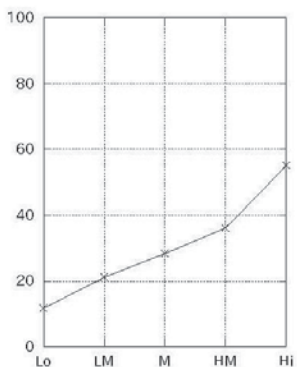


各大問の五分位図からは、目標とする平均得点率（平均正答率）に影響を与えた大問が見受けられた。具体的には、第3問で、Hi群とLo群の得点率の差が10ポイント以内となっている。ただし、第3問～第5問は3問から2問を選択する問題であり、第3問は、選択した受検者層が結果に影響を与えている可能性がある。第5問は無解答率も高く思考に必要な時間が足りなくなったと考えられる。

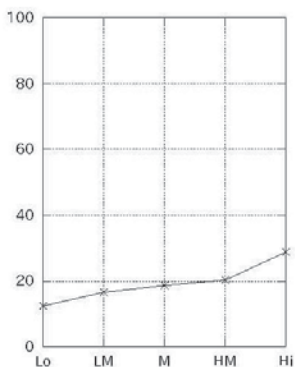
第3問 選択率19.4%
配点 20 点、平均 9.13%



第4問 選択率94.4%
配点 20 点、平均 31.21%

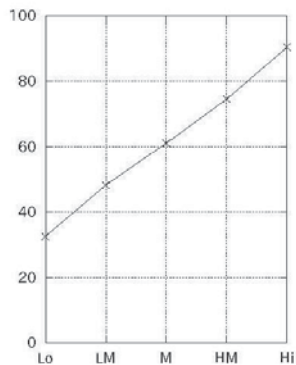


第5問 選択率86.2%
配点 20 点、平均 19.75%

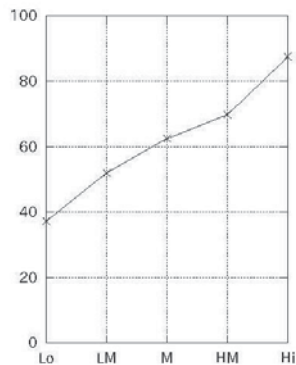


【世界史B】

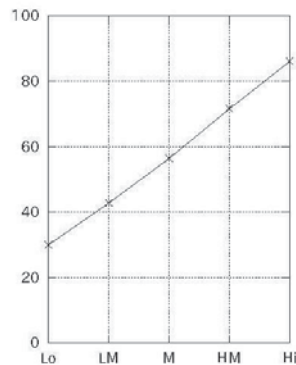
第1問
配点 24 点、平均 61.71%



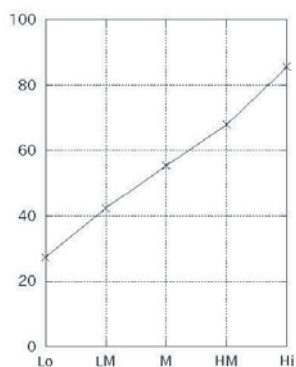
第2問
配点 23 点、平均 62.02%



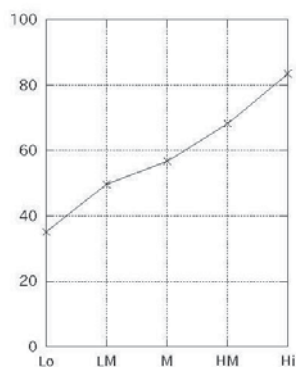
第3問
配点 18 点、平均 57.76%



第4問
配点 17 点、平均 56.03%



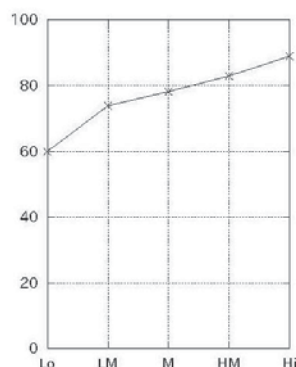
第5問
配点 18 点、平均 58.94%



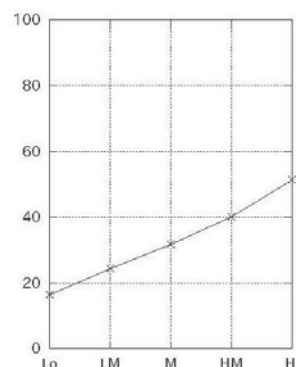
各大問の五分位図からは、多様な学力層を識別していることが伺える。なお、全ての大問のHi群において得点率が8割を超えており、このことが全体の得点率を高める要因になったものと考えられる。

【日本史B】

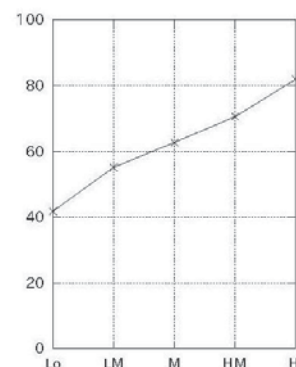
第1問
配点 18 点、平均 76.84%



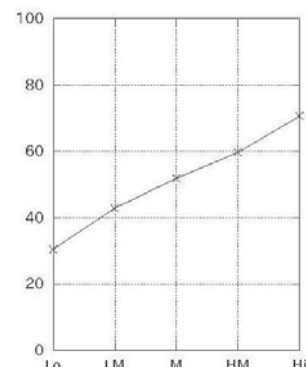
第2問
配点 15 点、平均 32.81%



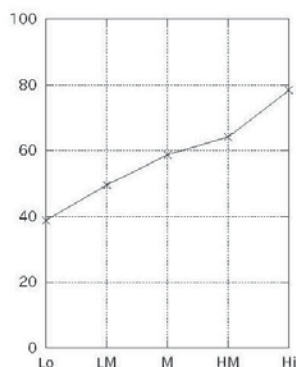
第3問
配点 15 点、平均 62.48%



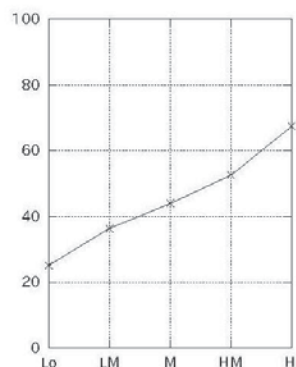
第4問
配点 15 点、平均 51.14%



第5問
配点 16 点、平均 58.03%



第6問
配点 21 点、平均 45.17%

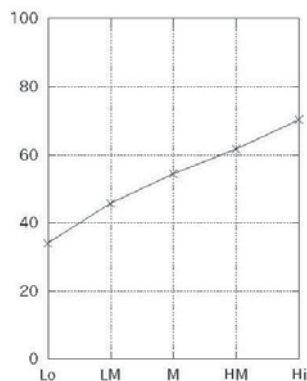


各大問の五分位図からは、多様な学力層を識別できていることが伺える。なお、各大問の得点率は大問間で極端な違いは認められないが、第1問と第2問については、Hi群とLo群の得点率の差がやや小さくなっている。

【地理B】

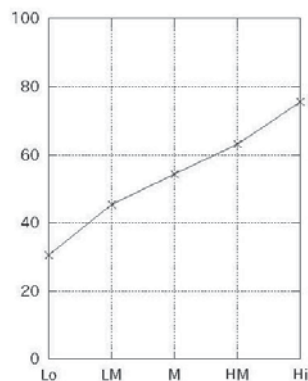
第1問

配点 20 点、平均 53.44%



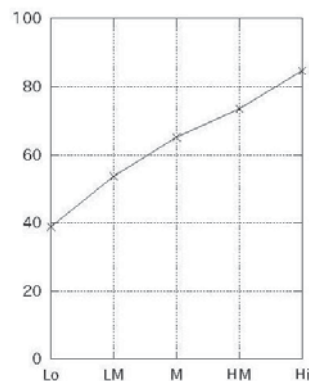
第2問

配点 20 点、平均 54.05%



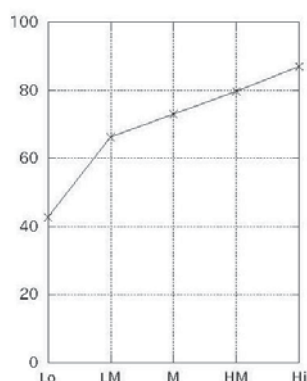
第3問

配点 20 点、平均 63.43%



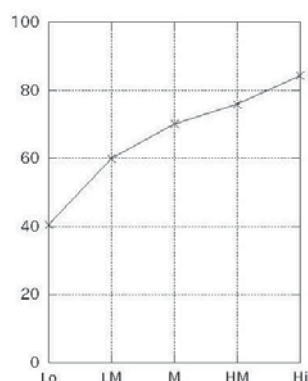
第4問

配点 20 点、平均 69.96%



第5問

配点 20 点、平均 66.45%

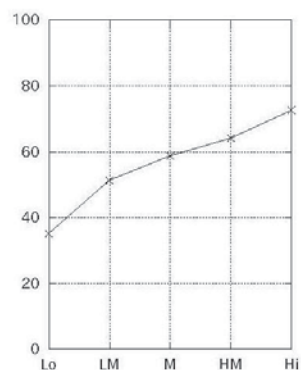


各大問の五分位図からは、多様な学力層を識別できていることが伺える。なお、M群で得点率が7割を超えている大問もあり、このことが全体の得点率を高める要因になったものと考えられる。

【現代社会】

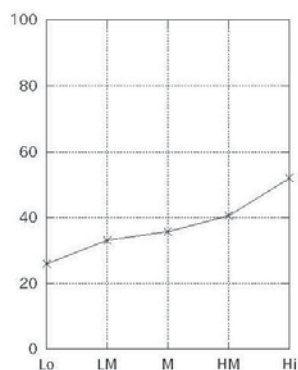
第1問

配点 31 点、平均 56.44%



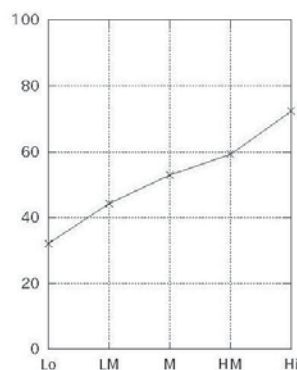
第2問

配点 16 点、平均 37.48%



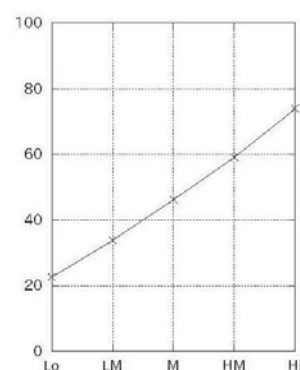
第3問

配点 16 点、平均 52.20%



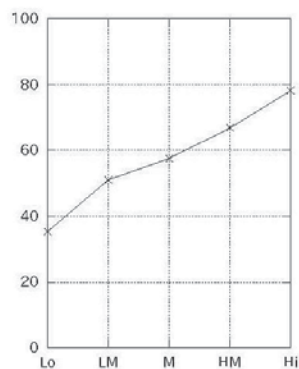
第4問

配点 16 点、平均 47.26%



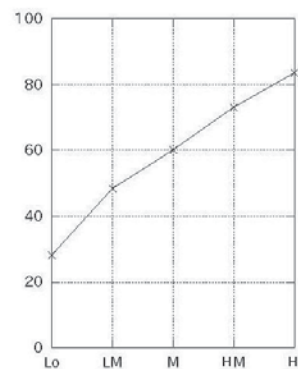
第5問

配点 13 点、平均 57.85%



第6問

配点 8 点、平均 58.78%

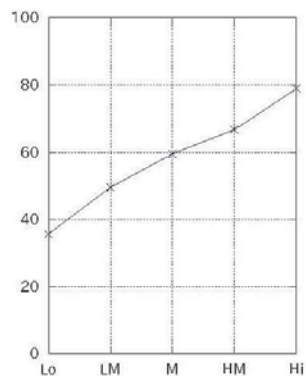


各大問の五分位図からは、多様な学力層を識別できていることが伺える。なお、第1問と第2問において、Hi群とLo群の差が他の大問と比べて差がやや小さくなっている。

【倫理】

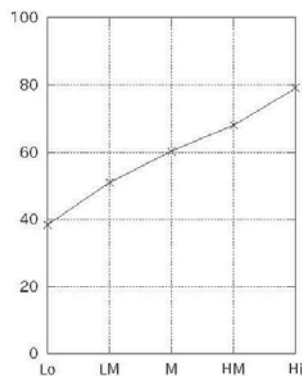
第1問

配点 34 点、平均 58.21%



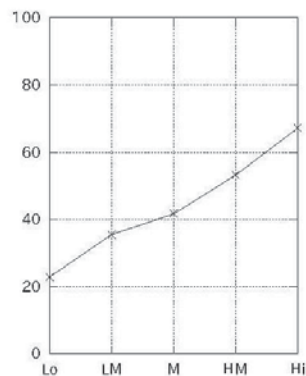
第2問

配点 24 点、平均 59.51%



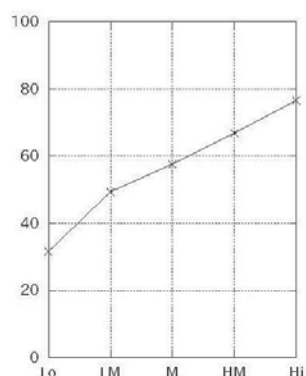
第3問

配点 24 点、平均 44.26%



第4問

配点 18 点、平均 56.44%

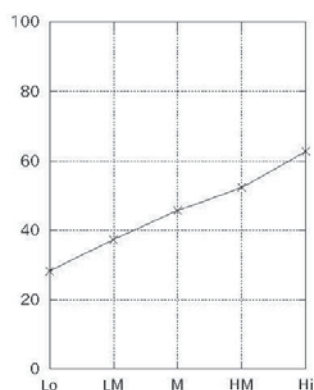


各大問の五分位図からは、多様な学力層を識別していることが伺える。なお、いずれの大問においてもHi群の得点率が8割未満となっているが、各大問におけるHi群とLo群の差は40ポイント以上あり、問題全体としてはバランスがとれていると考えられる。

【政治・経済】

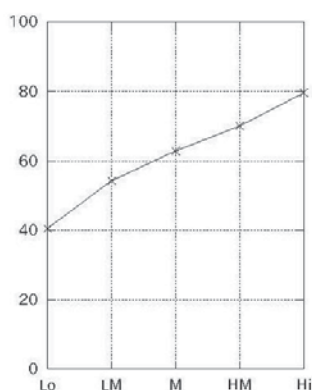
第1問

配点 27 点、平均 45.30%



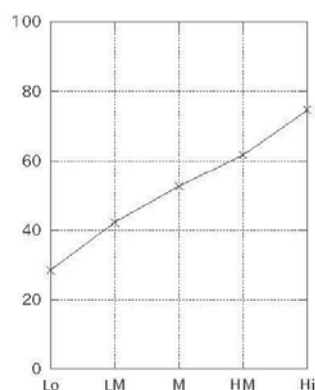
第2問

配点 23 点、平均 61.49%



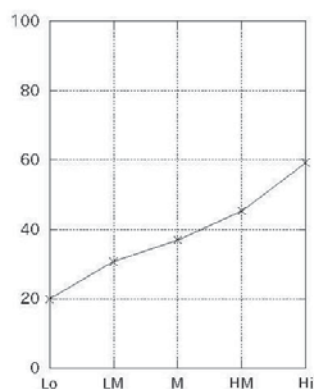
第3問

配点 27 点、平均 52.01%



第4問

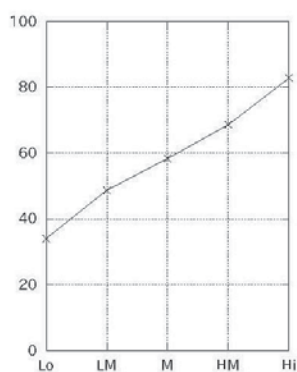
配点 23 点、平均 38.48%



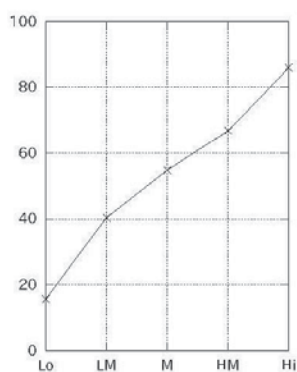
各大問の五分位図からは、多様な学力層を識別できていることが伺える。なお、第1問において、Hi群とLo群の差が他の大問と比べて差がやや小さくなっている。

【物理基礎】

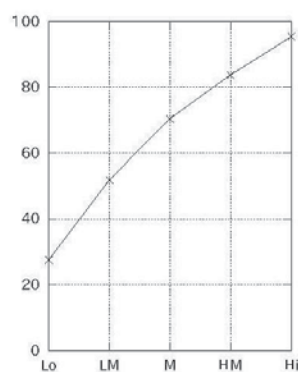
第1問
配点 20 点、平均 58.54%



第2問
配点 18 点、平均 52.87%



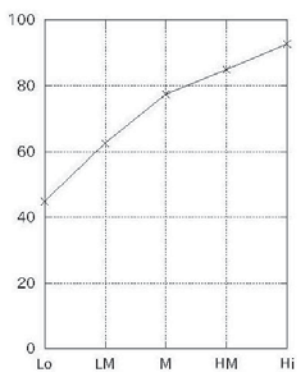
第3問
配点 12 点、平均 65.88%



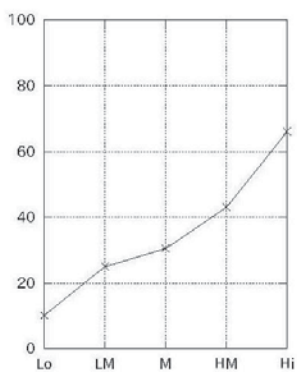
各大問の五分位図からは、多様な学力層を識別していることが伺える。なお、全ての大問のHi群において得点率が8割を超えており、このことが全体の得点率を高める要因になったものと考えられる。

【化学基礎】

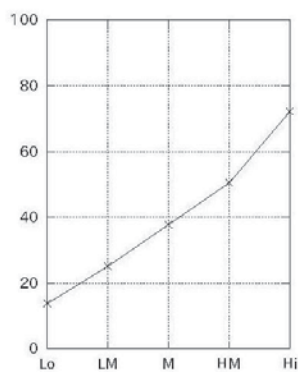
第1問
配点 20 点、平均 72.00%



第2問
配点 15 点、平均 34.54%



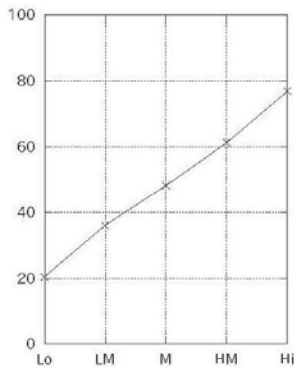
第3問
配点 15 点、平均 39.44%



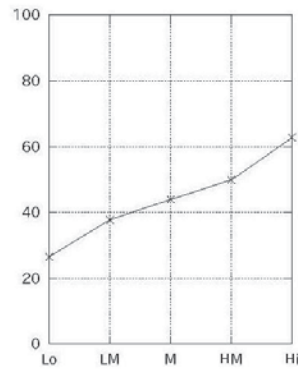
各大問の五分位図からは、多様な学力層を識別していることが伺える。なお、第1問は、基本的な知識・技能を問う問題が他の大問よりも多く含まれていたため得点率が高く、Hi群とLo群の得点率の差が他の大問と比べて小さくなったと考えられる。

【生物基礎】

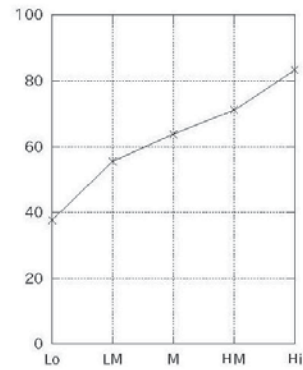
第1問
配点 17 点、平均 48.96%



第2問
配点 19 点、平均 44.43%



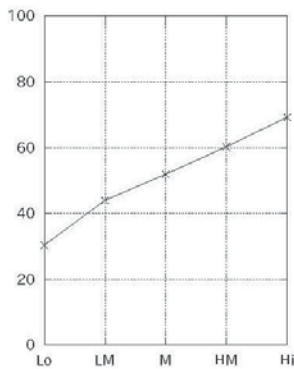
第3問
配点 14 点、平均 62.49%



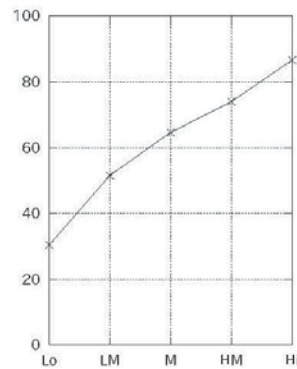
各大問の五分位図からは、多様な学力層を識別していることが伺える。なお、第2問については、Hi群とLo群における得点率の差が最も小さくなっている。これは極端に得点率が低い設問があったことが一つの要因と考えられる。

【地学基礎】

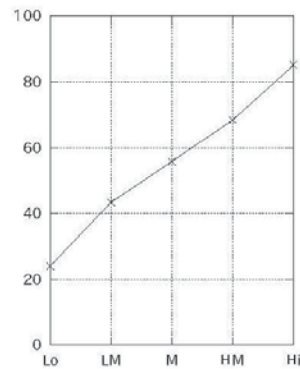
第1問
配点 12 点、平均 51.50%



第2問
配点 19 点、平均 62.01%



第3問
配点 19 点、平均 56.01%

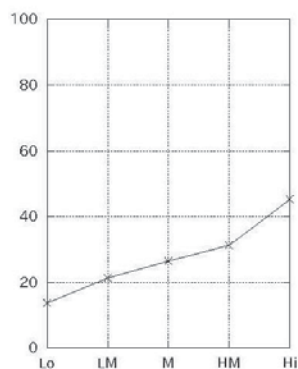


各大問の五分位図からは、多様な学力層を識別できていることが伺える。なお、第1問の得点率の変化がやや小さい。これは、第1問が三つの小問から構成されており、このうち1問の得点率が極端に低かったため、大問の得点率の変化がやや小さくなったことが考えられる。

【物理】

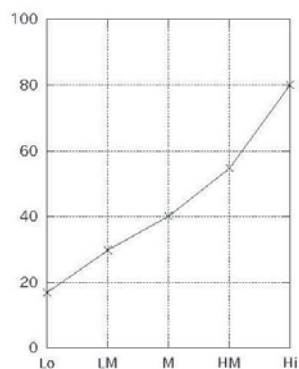
第1問

配点 30 点、平均 27.47%



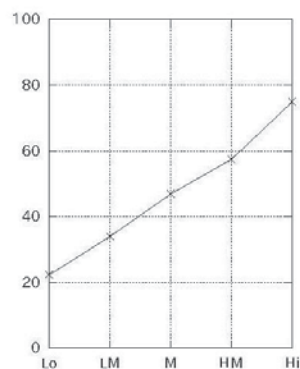
第2問

配点 28 点、平均 44.01%



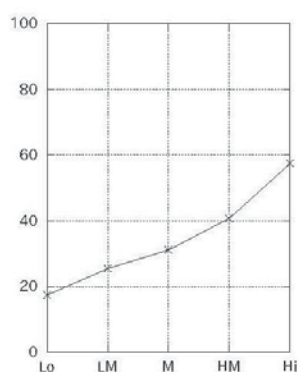
第3問

配点 20 点、平均 46.85%



第4問

配点 22 点、平均 34.24%

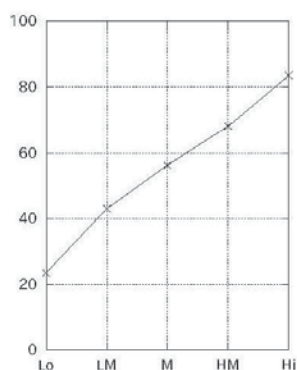


各大問の五分位図からは、目標とする平均得点率（平均正答率）に影響を与えた大問が見受けられた。具体的には、様々な分野・領域から小問単位で知識の理解を問う第1問の得点率が、Hi群でも5割未満となっている。これは、当てはまる選択肢を全て選択する問題、数値を当てはめる問題といった新しい出題形式も影響したものと考えられる。

【化学】

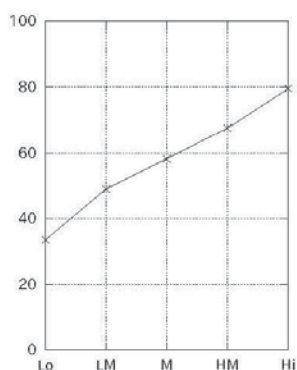
第1問

配点 26 点、平均 54.95%



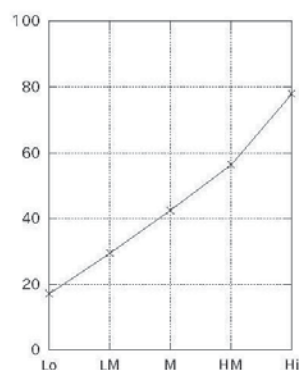
第2問

配点 20 点、平均 57.64%



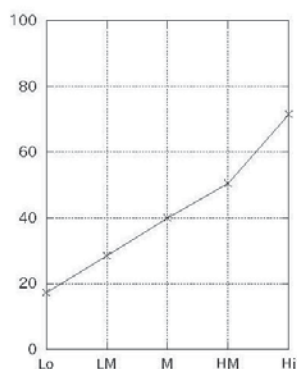
第3問

配点 20 点、平均 44.78%



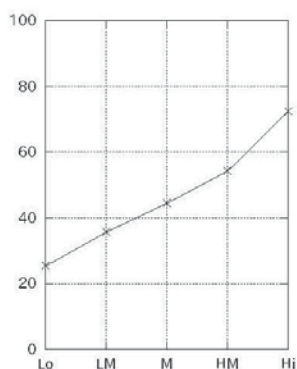
第4問

配点 19 点、平均 41.69%



第5問

配点 15 点、平均 46.57%

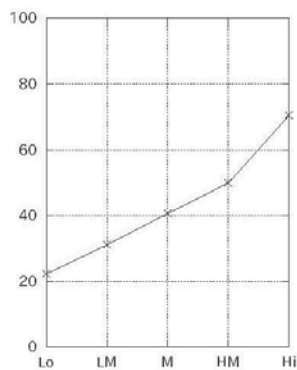


各大問の五分位図からは、多様な学力層が識別していることが伺える。なお、第2問のHi群とLo群の得点率の差が小さくなったのは、Lo群の得点率が高かったためである。これは、第2問問1の基本的な知識・技能を問う問題において、Lo群の得点率が6割以上あったことが要因の一つであったと考えられる。

【生物】

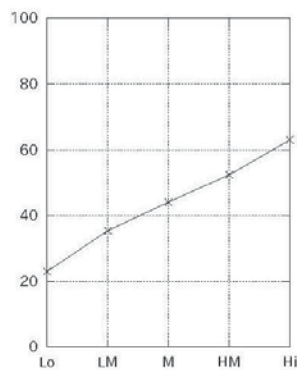
第1問

配点 12 点、平均 42.97%



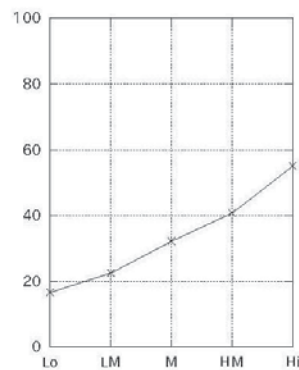
第2問

配点 30 点、平均 43.65%



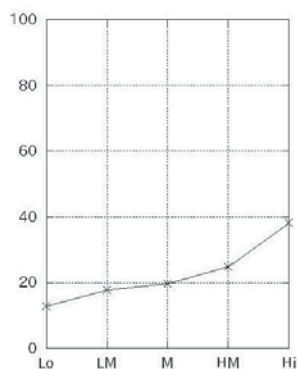
第3問

配点 14 点、平均 33.54%



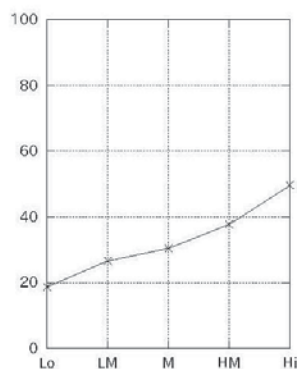
第4問

配点 18 点、平均 22.64%



第5問

配点 26 点、平均 32.65%

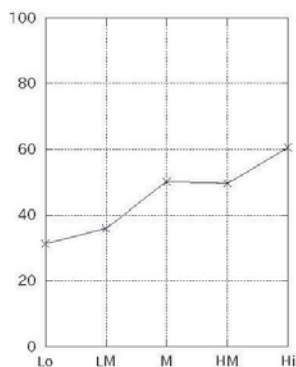


各大問の五分位図からは、目標とする平均得点率（平均正答率）に影響を与えた大問が見受けられた。具体的には、第4問や第5問において、Hi群とLo群における得点率の差が20ポイント程度かつ、Hi群の得点率でも6割を超えていない状況となっている。これは、受検者が既知ではない資料の活用や、複数の分野を融合して思考・判断することに受検者が十分に対応できなかったことが要因と考えられる。

【地学】

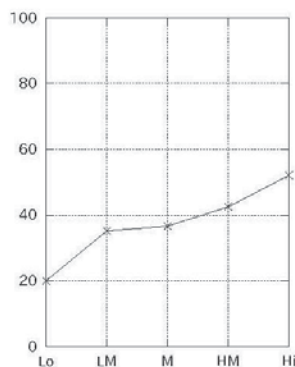
第1問

配点 21 点、平均 45.61%



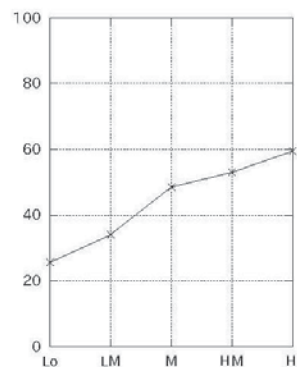
第2問

配点 20 点、平均 37.27%



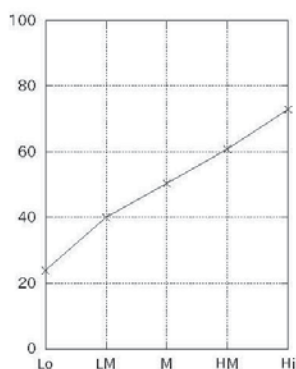
第3問

配点 19 点、平均 44.21%



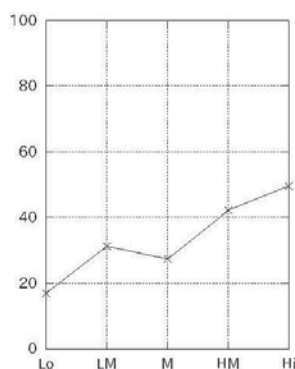
第4問

配点 20 点、平均 49.54%



第5問

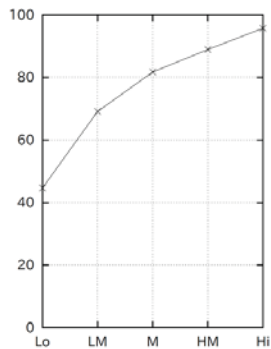
配点 20 点、平均 33.38%



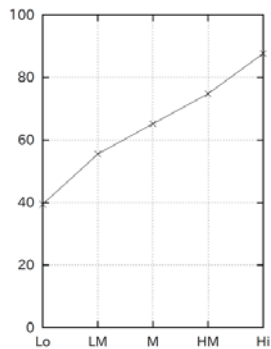
各大問の五分位図からは、目標となる平均得点率（平均正答率）に影響を与えた大問が見受けられた。具体的には、第1問は基本的な知識を問う問題で構成し、いずれもセンター試験の過去問と類似の内容を扱っているが、Hi群においても6割程度の得点率であった。なお、他の大問についても、得点率のかなり低い設問が複数あった。

【英語（筆記〔リーディング〕）】

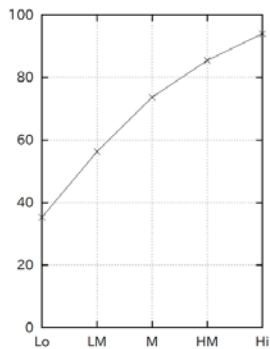
第1問
配点 10 点、平均 76.18%



第2問
配点 20 点、平均 64.56%

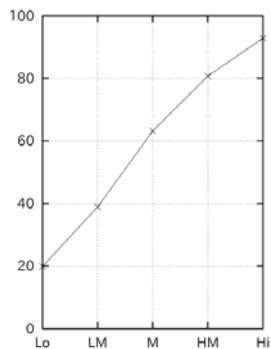


第3問
配点 10 点、平均 69.03%

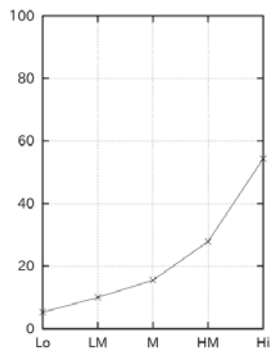


各大問の五分位図からは、多様な学力層を識別できることが伺える。なお、第4問～第6問がB1程度の問題であるが、第4問の得点率が想定よりも高くなっている。その理由として、紛れの少ないシンプルな選択肢が多かったことが考えられる。

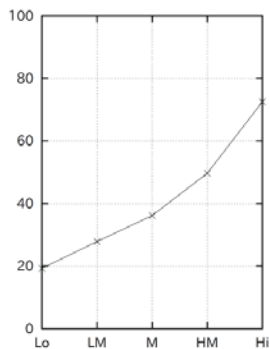
第4問
配点 16 点、平均 59.19%



第5問
配点 20 点、平均 22.50%

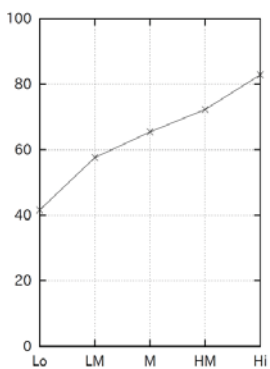


第6問
配点 24 点、平均 41.05%

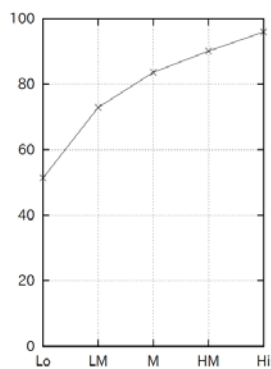


【英語（リスニング）】

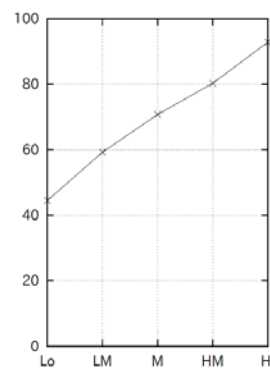
第1問（2回読み）
配点 24 点、平均 63.89%



第2問（2回読み）
配点 12 点、平均 78.72%

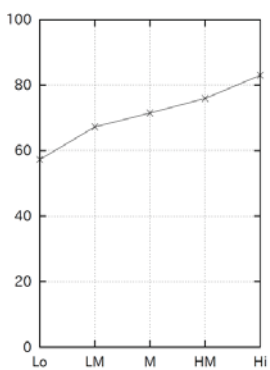


第3問（2回読み）
配点 16 点、平均 69.39%

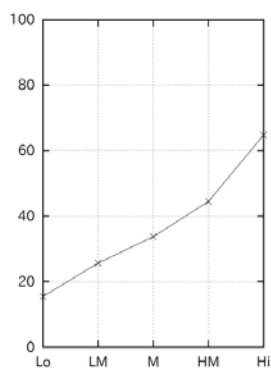


各大問の五分位図からは、多様な学力層を識別できることが伺える。なお、第4問はA2程度とB1程度の問題が混在し、第5問及び第6問はいずれもB1程度の問題となっている。第4問A問1(A2程度)の得点率が95.16%と高くなったため、第4問全体の得点率も高くなったと考えられる。

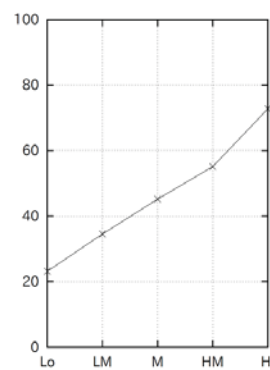
第4問（1回読み）
配点 12 点、平均 70.93%



第5問（1回読み）
配点 20 点、平均 36.72%



第6問（1回読み）
配点 16 点、平均 46.03%



④ 設問ごとの識別力（項目得点と総点とのピアソン相関）

- 設問ごとの正誤と科目の得点とのピアソン相関※を基に分析した。科目ごとのピアソン相関が0.1を下回り、他の設問との相関が低い問題数は、以下のとおり。これらの設問については、第2部で個別に分析している。

※ 科目等の得点から当該設問を除いたものと当該設問の得点との相関。

科目等名	総設問数	相関が低い 設問数	割 合
国 語	34	5	14.7%
数学Ⅰ・数学A	44	2	4.6%
数学Ⅱ・数学B	54	10	18.5%
世界史B	34	0	0.0%
日本史B	33	0	0.0%
地理B	30	3	10.0%
現代社会	31	3	9.7%
倫 理	29	2	6.9%
政治・経済	30	4	13.3%

科目等名	総設問数	相関が低い 設問数	割 合
物理基礎	14	0	0.0%
化学基礎	13	0	0.0%
生物基礎	16	1	6.3%
地学基礎	13	1	7.7%
物 理	23	1	4.4%
化 学	30	0	0.0%
生 物	27	4	14.8%
地 学	29	9	31.0%
英語（筆記［リーディング］）	37	0	0.0%
英語（リスニング）	30	1	3.3%

(2) 大学入学共通テストに向けて（マーク式問題）

- 試行調査の問題作成に当たっては、平成30年（2018年）6月18日付の通知で示した問題作成の三つの方向性（（1）大学入試センター試験における問題評価・改善の蓄積を生かしつつ、共通テストで問いたい力を明確にした問題作成、（2）高校教育の成果として身に付けた、大学教育の基礎力となる知識・技能や思考力、判断力、表現力を問う問題作成、（3）「どのように学ぶか」を踏まえた問題の場面設定）を踏まえたねらいの実現と、選抜試験として相応しい難易度や識別力の設定とを両立させるよう検討を進めてきた。
- 今回の試行調査において、平均得点率（平均正答率）が5割程度以上となった教科・科目等については、試行調査における問題作成の方向性を問題作成方針に反映し、共通テストの作問に生かしていく。
- また、5割程度に達しなかった5科目（数学2科目及び理科3科目）については、①及び②に示す内容を問題作成方針に反映し、共通テストの作問に生かしていく。
- あわせて、③においては英語について四技能を評価する新たな枠組みが構築される予定の外国語科について、④においては選択科目の扱いや試行調査を実施しなかった科目の今後の方向性として留意すべき事項をまとめた。

①数学2科目

- 原則として全ての問題について、数学的な問題発見・解決の全過程を重視して出題した結果、全体の分量と試験時間のバランスに課題が残ったものと考えられるため、以下のような改善を図る。
- 共通問題において、数学的な問題発見・解決の過程の全過程を問う問題は、大問もしくは中問1題程度とし、他の問題は、過程の一部を問うものにする。選択問題において、数学的な問題発見・解決の過程の全過程を問う問題は、解答に要する時間を十分検討した上で出題可能かどうかを全体構成の中で判断する。
- 過程の一部を問う問題については、これまでの大学入試においては、焦点化された問題を、一定の手順に従って処理したり論理的に考察したりして結論を得る資質・能力が問われることが多かったが、共通テストにおいては、共通問題、選択問題いずれにおいても、それらの資質・能力だけに限らず、事象を数学化し、問題解決のための構想を立てたり、思考の過程を振り返って考察したりする資質・能力なども試行調査と同様に問うように努め、問題全体の中で、次表Cの資質・能力だけではなく、それぞれの資質・能力をバランスよく問うようにする。
- 思考に必要な時間が確保できるよう、文章を読解するために要する時間を試行調査よりも軽減する。そのため、用いる題材は主として数学の事象とするが、日常生活や社会の事象などを題材とする問題については、数学Ⅰ・数学Aの共通問題においては最低1題出題することとし、数学Ⅱ・数学Bについても1題出題するように努める。
- 上記のような方向性を取りつつ、幅広い学力層を識別するため、センター試験と同様に、結論に至る過程を設問や文章で段階的に示す問いを設定する場合もある。ただし、そのような場合においても、事象を数学化できるかどうかを問うために、問題文中で変数などをあえて設定しないなど、結論に至る過程の示し方を工夫して出題することがあり得る。

※試行調査の検証・分析の結果及び高等学校学習指導要領の見直しの内容等を踏まえ、更に整理する。

※作問のねらいとする主な「思考力・判断力・表現力」と出題形式との関係は、例として挙げているものであり、問いや場面等によっては別の出題形式等で問う可能性もあり得る。

		A	B	C	D	E
		日常生活や社会の問題を数理的にとらえること 数学の事象における問題を数学的にとらえること	数学を活用した問題解決に向けて、構想・見通しを立てること	焦点化した問題を解決すること	解決過程を振り返り、得られた結果を意味づけたり、活用したりすること 解決過程を振り返るなどして概念を形成したり、体系化したりすること	数学的な表現を用いて表現すること
大学入学共通テストにおいて問いたい「思考力・判断力・表現力」	①マーク式 多肢選択式・数値解答式	日常生活や社会の問題における事象の数量等に着目して数学的な問題を見いだすことができる	数学的な問題の本質を見いだすことができる（洞察力）	焦点化した問題を目的に応じて数・式、図、表、グラフなどを活用し、一定の手順にしたがって数学的に処理することができる	解決過程を振り返り、得られた結果を元の事象に戻してその意味を考えることができる	
		日常生活や社会の問題における事象の特徴をとらえて数学的な表現を用いて表現する（事象を数学化する）ことができる	数学的な問題を解決するための見通しを立てることができる（構想力）	焦点化した問題を数学的な見方・考え方を基に、的確かつ能率的に処理することができる	解決過程を振り返り、得られた結果を様々な事象に活用することができる	
		数学の事象から問題を見いだすことができる		焦点化した問題を解決することについて、論理的に推論することができる（帰納、類推、演繹）	解決過程を振り返るなどして、数学的な見方・考え方のよさを見いだすことができる	
		数学の事象から特徴をとらえ、数学化することができる			解決過程を振り返るなどして、得られた結果を基に批判的に検討し、体系的に組み立てていくことができる	
		数学の事象から得られた結果を基に拡張・一般化することができる			解決過程を振り返るなどして、見いだした事柄を既習の知識と結び付け、概念を広げたり深めたりすることができる	
					解決過程を振り返るなどして、統合的・発展的に考えることができる	
（参考）	②新テストにおける記述式 数式や問題解決の方略等を解答させる記述式	日常生活や社会問題を数学的にとらえた際に設けた条件等を説明することができる	問題解決の構想等を理解したり、その構想の根拠を数学的に説明したりすることができる	数学における基本的な概念や原理・法則等の理解を基に、公式や定理等を用いて問題を解決する方法を説明することができる	得られた結果の数学的意味や別の方法で解決する方略等を見だし、説明することができる	数学的な表現を用いた説明を理解したり評価したりすることができる
		特定の場合に成り立つ性質が、一般の場合でも成り立つかを考え表現することができる	成り立つことが予測される数学的な事柄・事実を、数学的な表現を用いて説明することができる	問題場面における数量関係を式に表すことができる	解決過程を振り返るなどして概念を形成したり、体系化したりして統合的・発展的に考えた結果を数学的に表現することができる	目的に応じて、自分の考えなどを数学的な表現を用いて的確に説明することができる
		日常生活や社会問題について、条件を設定したり、数学の事象について、条件の設定を変更するなどして新たな数学の問題をつくることができる	命題が真であることを証明するための根拠となる数学的事実（公式や定理等）をとらえ、問題解決に向けた構想や見通しを立てることができる	平面図形や空間図形の複合的な問題について、それらの特徴を活用して、計量したり証明したりすることができる	得られた結果の意味を元の事象に戻してその意味を考えたり、条件を変更するなどした場合にも同様に成り立つかを調べることができる	問題解決の過程を数学的な表現を適切に用いて説明することができる
（参考）	③自由記述式 証明など、数学的な問題解決のプロセスを表現する自由記述式	数学の事象において数量の変化について実験して調べるなどして、新たな問題をつくることができる	命題の真偽を類推したり、ある命題を他の同値な命題に言い換えたりして数学的な問題の本質をとらえることができる	関数や方程式・不等式の複合的な問題について、それらの特徴を踏まえて条件に適する数値を求めたり、証明したりすることができる	用いた解決方法を発展させ、他の日常生活や社会問題についての事象や数学の事象の解決に活用することができる	得られた結果の数学的意味をとらえ、それを数学的な表現を用いて適切に説明することができる

②理科 3 科目

a) 物理

- 多様な分野・領域の小問からなる第 1 問の正答率が予想よりも伸びなかったことなどが課題であったと考えられる。共通テストの問題構成や基本的な考え方は、試行調査を原則踏襲しつつ、試験問題全体の難易度については、様々な難易度の設問をバランスよく組み合わせ、より適正となることを目指し、特に第 1 問については、知識の理解を明快に問う問題を中心とする工夫をするなど、難易度が高くないようにする方向で調整していく。

b) 生物、地学

- 実験・観察・調査を行い、その結果を基に考察するという科学的な探究の過程をより重視した問題を中心に出題したところであるが、受検者の学習状況に照らした問い方の工夫に課題が残ったものと考えられる。科学的な探究の過程を重視するという方向性は維持しつつも、問題の分量（文字数や資料の数など）については、受検者が問題などの内容を理解して解答に至る時間が十分に確保できるよう、文章を精査することや、資料の示し方や提示する箇所について工夫することなど、更に見直しを進めることとする。
- 全設問数については、試行調査における設定を目安とすることとする。
- 複数の分野の内容を融合したり、解答に至る過程で複数の思考・判断を要したり、過不足なく含むものを選ぶなど、難易度が比較的に高くなる可能性がある場合には、複数の設問に分けて内容を問うたり、段階的に部分点を設定したりするなどの工夫を行うこととする。授業の場面を取り上げたり、分野を横断した内容を取り扱ったりする新しい傾向の問題については、試行調査における正答率は比較的低いが、高大接続改革の趣旨を踏まえ、継続的に作成していくこととする。

③外国語科

a) 英語

<筆記〔リーディング〕>

- 大学入試において、①「聞くこと」「読むこと」という情報を受信するための力のみならず、「話すこと」「書くこと」という情報を発信するための力を含めて問うてほしいという期待にどう応えるか、②語彙、文法及び語法の知識をどのように問うべきか、という課題は、これまでも議論が重ねられてきた。
- センター試験においては、①「筆記」という限られた枠組みの中で可能な工夫として、発音、アクセント、語句整序の問題という形式で、「話すこと」「書くこと」にも間接的に目配りをした問題を出題してきた。このいわゆる間接問題は、「聞くこと」「読むこと」のみならず「話すこと」「書くこと」も意識した指導が必要であるという、高等学校の指導に対するメッセージとしても機能してきた。また、②語彙、文法及び語法の基礎知識があるかを問うことを目的として、「与えられた英文を完成するのにふさわしい語句を選ばせることにより、意図された意味になるような英文を構成する」という形式の問題を出題してきた。これらの問題は、小問の数を確保することにより、識別力を確保することにも貢献してきた。
- 一方で課題として、①発音、アクセント、語句整序をマーク式で問う形式の問題については、英語の発音やアクセントには規則性と不規則性があるにもかかわらず不規則性を問う問題に偏ることや、文脈の中での抑揚を問うのではなく単語単位での発音、アクセントの暗記に偏ること、現実に英語を使う場面では起こらない語句の並べ替えという作業を求めることなどについて、英語教育の観点から批判がなされてきた。
- また、②語彙、文法及び語法の知識を問うため語句の穴埋めを行う形式の問題については、言語活動の目的や場面、状況などから切り離された学習で身に付けた知識で得点がとれても、必ずしも実際に英語を活用する能力が高いわけではないという点が指摘されてきた。中央教育審議会答申（平成28年12月21日）では、中学校、高等学校における英語教育の課題の一つとして、文法・語彙等の知識がどれだけ身に付いたかという点に重点がおかれた授業が行われていることを挙げている。学習指導要領においても、言語材料については、「意味のある文脈でのコミュニケーションの中で繰り返し触れることを通して指導すること」に留意すべきとし、文法事項の指導に当たっては、文法的な正確さを求めたり、コミュニケーションの文脈から切り離して、個々の文法事項をどれだけ理解しているかといった観点での評価となったりしないよう配慮を求めている。
- こうした課題を踏まえ、試行調査問題では、「大学入学共通テスト実施方針」に基づき、より思考力・判断力を重視した作問となるよう見直しを図った。第1回試行調査における高校教員対象のアンケートや外部有識者のコメントを考慮し、第2回試行調査についても、①英語の資格・検定試験の活用を含め、四技能を評価する別の枠組みが設けられる方針であることを踏まえ、発音、アクセント、語句整序の問題は出題せず、「読むこと」の力を把握することを目的とした問題構成とし、②語彙、文法及び語法事項については、CEFR（ヨーロッパ言語共通参照枠）で整理されている能力を発揮する中でその知識を活用できるかを評価する問題となるよう出題し、検証を行ったところである。

- 出題に当たっては、特に小問の数が多く識別力の確保に貢献してきた第2問Aの問題群も含めた見直しに伴い、識別力を問全体で確保する必要性が高まった。試行調査では、小問ごとに問う能力のレベルを設定し、最新のCEFR関連の研究成果により可能となった、レベル別による使用テキストの言語材料分析を活用し、出題のねらいに沿った作問を行ったところである。
- こうした工夫を通じて、作問者の経験と知識に加えてエビデンスを取り入れたより緻密な出題に転換した結果、テスト全体として、センター試験と比べても遜色のない識別力を保持し、信頼性（アルファ係数）が高く、広範囲の学力層を精度よく測定できた。この結果を踏まえ、共通テストでは試行調査の問題構成を反映し、「リーディング」として実施することとする。

<リスニング>

- 2006年度に開始されたリスニングテストについては、実施面を考慮した開始当初の議論を踏まえ、スクリプトを2回読み上げる形式で実施されてきている。これに対しては、現実英語を使う場面に照らした適切な読み上げ回数の在り方が検討されてきたところであり、全く同じスクリプトを2回読むことが適切か、一つのスクリプトの中で重要な情報に関しては形を変えて、複数回言及するなど、余剰性のある英語を1回だけ読むことが適切かといった議論がなされてきた。
- 今回の試行調査では、第1回試行調査における生徒対象のアンケート、高校教員対象のアンケート及び外部有識者のコメント、更には、テストの信頼性（アルファ係数）も参考に、第2回試行調査については、より設問数が多くなる1回読みと2回読みが混在する問題として実施し、検証を行った。
- B1レベル程度の問題が配置された第4問、第5問、第6問を1回読みとしたところ、項目得点と総点とのピアソン相関や五分位図から判断すると、一定の識別力を確保することができた。また、テスト全体としては、様々な難易度の問題から成り、多様な学力層を識別する結果となった。今回の結果を踏まえ、将来的にはすべて1回読みにするのが望ましいという意見もあるところであるが、引き続き検討することとし、2020年度からは試行調査と同様、1回読みと2回読みが混在する問題として実施することとする。
- ただし、読み上げ回数を変更するに当たっては、会場となる大学側から、受検者が混乱しないよう留意して周知してほしいとの要望があるところであり、試験実施前や当日の留意事項の周知をしっかりと図っていく必要がある。

<配点>

- 英語教育改革の方向性の中で各技能の能力をバランスよく把握することが求められていることや、多くの英語の資格・検定試験で各技能の配点が均等となっている状況を踏まえ、今回の試行調査では、「筆記（リーディング）」「リスニング」の配点を均等として実施、検証を行った。その際、センター試験と比べ、「リスニング」の設問数を増やして実施した。
- 今回の試行調査の結果、2科目の得点の分布や設問正答幹葉図などを分析すると多様な学力層を識別していることが分かる。このことから、識別力に問題はなく、配点を均等にして実施する上での支障はなかったと考えられる。共通テストでは配点を均等にして実施し、重み付け等は活用する大学に委ねることとする。

b) 英語以外の外国語科目（「ドイツ語」「フランス語」「中国語」「韓国語」）

- これらの科目については、資格・検定試験の活用などを通じて四技能を評価する別の枠組みが無いことを踏まえ、引き続き「筆記」として出題する予定である。
- 共通テストの実施に向けて、実際のコミュニケーションを想定した明確な目的や場面、状況の設定をより重視するなど、問題作成方針については、センターから2019年度初頭に発出する「大学入学共通テストにおける問題作成方針及び実施方法等」に関する通知において公表する予定である。

④その他

- 試行調査における方向性を踏まえ、理科において選択問題は出題しない予定である。数学2科目においては、引き続き選択問題を出題する予定である。
- 地理歴史科のA科目の問題作成方針は、基本的にB科目と同じ方向性である。「世界史A」「日本史A」「地理A」の問題例は別添資料のとおり。
- 「簿記・会計」「情報関係基礎」の問題作成方針については、センターから2019年度初頭に発出する「大学入学共通テストにおける問題作成方針及び実施方法等」に関する通知において公表する予定である。

2 記述式問題に関する分析・検討の概要

（1）正答の条件と成績表示の在り方

【分析・検討方針】

- 1. の分析データや受検者自身の成績確認の結果等を基に、国語WG及び数学WGにおいて分析・検討を行う。特に、国語では、2017年度試行調査の分析を踏まえ、2018年度試行調査では、内容上の正答の条件の数は多くとも4～5つ程度とし、更に形式上の正答の条件の数が内容上の正答の条件の数を上回らないようにし、小問ごとに4段階表示、総合評価については80～120字程度を記述する小問についてのみ1.5倍の重み付けを行った上で5段階表示を行うこととしている。
- 2017年度試行調査の採点過程や採点結果とも比較し、正答の条件の数の在り方、形式上、内容上の条件のバランス、受検者にもわかりやすく成績確認ができるだけしやすい正答の条件、小問の重み付けの在り方等について総合的に検討し、マニュアル化を目指す。
- 国語の段階別表示については、小問における4段階の各段階の考え方や記述全体の5段階表示の受検者の分布状況等について検証を行い、来年度初頭に公表予定である各教科・科目における問題のねらいや実施方法等において、段階別表示の在り方を示す。
- また、2018年度試行調査では、国語の試行調査の記述式問題における記述に当たっての留意点（イメージ）をあらかじめ受検者に示す予定としている。この留意点に沿わない解答がどの程度見受けられたのか、またそれらの解答の正答の条件の判断の在り方等について検証を行い、必要に応じて、国語の試行調査の記述式問題における記述に当たっての留意点に生かす。

①国語の記述式問題

- 正答率については、問1が7割程度、問2が5割程度、問3が2割程度を念頭に作問を行い、ほぼ想定通りの結果となった。特に、問3の全ての条件を満たす解答について、第1回試行調査では0.7%であったが、第2回試行調査では15.1%となっており、解答上の条件の整理など、言語活動の場面や正答の条件等に関して第1回試行調査から更なる精査を行った効果があったと考えられる。
- 総合評価（5段階表示）をした各段階の割合についても、選抜試験として想定していた段階の分布が得られたと考えられる。
- 共通テストにおける各小問の文字数や正答の条件の数は、今回の試行調査程度を目安とするが、問3の解答する文字数については、大規模採点を円滑に実施する観点から、問1、問2と同様に、必要となる文字数の上限のみを示すこととする。正答率については、今回の試行調査の結果を踏まえつつ、次項（2）で述べる問題作成の工夫に伴う効果に配慮して、全体としてバランスよく水準が確保されるよう作問していくこととする。
- 国語の記述に当たっての留意点については、基本的な考え方は維持した上で、句読点等の字数カウント等について一部変更を行い周知を図る。また、共通テストにおける記述式問題は、思考力等を問うことを主な目的としていることから、漢字の正確な記述よりも内容面を重視した採点を行う。

《小問の段階ごとの割合》

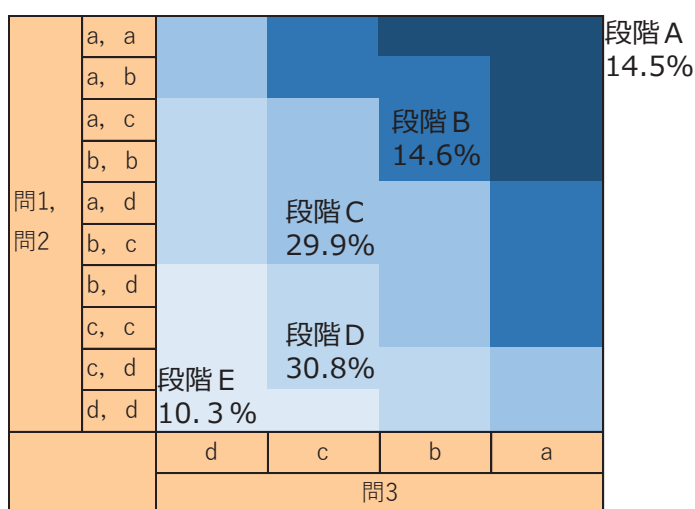
※正答の条件を全て満たしている解答の例、正答の条件は第2部に掲載

	小問の段階		割合 (%)
問1	a	条件①～③のすべてを満たしている解答	75.7%
	b	条件②, ③を満たしている解答（①のみ満たしていない）	0.0%
	c	次のいずれか（①は満たしていても満たしていなくてもよい） 条件②を満たしている解答（③は満たしていない） 条件③を満たしている解答（②は満たしていない）	23.5%
	d	上記以外の解答・無解答	0.8%

	小問の段階		割合 (%)
問2	a	条件①～③のすべてを満たしている解答	48.5%
	b	条件②, ③を満たしている解答（①のみ満たしていない）	0.0%
	c	次のいずれか（①は満たしていても満たしていなくてもよい） 条件②を満たしている解答（③は満たしていない） 条件③を満たしている解答（②は満たしていない）	40.9%
	d	上記以外の解答・無解答	10.6%

	小問の段階		割合 (%)
問3	a	条件①～⑤のすべてを満たしている解答	15.1%
	b	条件①, ③～⑤を満たしている解答（②は満たしていない） 条件②～⑤を満たしている解答（①は満たしていない）	2.4%
	c	条件③～⑤を満たしている解答（①, ②は満たしていない） または、次のいずれか（①, ②は満たしていても満たしていなくてもよい） 条件③, ④を満たしている解答（⑤は満たしていない） 条件③, ⑤を満たしている解答（④は満たしていない） 条件④, ⑤を満たしている解答（③は満たしていない）	26.0%
	d	上記以外の解答・無解答	56.5%

《記述全体の段階ごとの割合》



②数学の記述式問題

- 数式の記述式問題を2問、問題解決のための方略等を端的な短い文で記述する問題を1問を出題し、3問ともに正答率が低かったが、有識者の意見を踏まえると、数式の記述問題の難易度はそれほど高くなかったと考えられる。記述式問題の難易度そのものよりも、マーク式問題も含めた全体の分量と試験時間のバランスが影響したものと考えられる。
- 数学では、マーク式と記述式の問題を混在して出題しているため、記述式問題単独での難易度ではなく、問題全体の中で難易度を考える必要があること、マーク式の設問の正答率も約9割程度から約1割程度と幅広いことから、数学の記述式問題は試行調査と同程度の問題の難易度を念頭におきつつ、全体の難易度や解答に要する時間等に配慮して作問していくこととする。

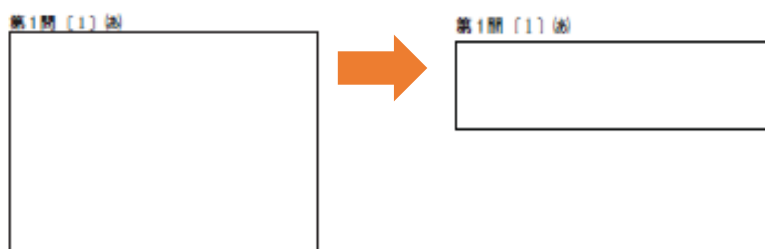
《小問の正答率等》 ※正答例は第2部に掲載

		割合 (%)
問 (あ)	正答	5.8%
	誤答	76.9%
	無解答	17.3%
問 (い)	正答	10.9%
	誤答	44.5%
	無解答	44.5%
問 (う)	正答	3.4%
	誤答	34.6%
	無解答	62.0%

- 受検者の解答の中には、結論に加えて、計算や思考の過程を記述しているものが見受けられた。正答の記述量に対して解答欄が広かったため、解答欄に記述すべき内容について受検者が混乱した可能性がある。そのため、数式を記述する問題については、解答欄の大きさを変更するとともに、解答すべき内容が受検者に分かりやすくなるように問い方の更なる工夫などを行う。

《試行調査》

《改善イメージの例》



〈採点結果と受検者自身の解答の確認結果との一致率〉

- 採点結果と自己採点の一致率は、国語が7割程度、数学が8～9割程度と、第1回試行調査とほぼ同程度であった。正答の条件に基づく採点の許容度が十分に周知されていないため、特に国語において、自分の解答が許容範囲なのかどうかの判断に迷ったのではないかと考えられる。
- 2019年度は、解答の内容面の許容度合いについて、例示等も交えて正答の条件等に関する考え方をわかりやすく整理し、受検者自身の解答の確認結果の判断力の向上につながるよう高等学校への周知を図ることとする。特に解答文字数の多い国語の問3については、求められる正答の条件と採点の判断基準との関係が受検者にとっても分かりやすいものとなるよう留意して周知を図る。
- 全ての受検者の自己採点を実際の採点結果と完全に一致させることは困難であると言わざるを得ないが、上記のような周知に加えて、次項（2）に示すような問題作成の工夫により、正答の条件等が受検者にとって捉えやすいものとなるよう不断の努力を行う。

(2) 採点及び検収の体制及びスケジュール

- 第1回目の試行調査の結果を踏まえ、今回の試行調査では、早期からの採点業者とのすり合わせや、試験実施後の実際の答案を見ながら採点基準の調整等を可能な限り行い、概ね当初の計画通りに全ての工程を終了することができた。
- 試行調査としては最終回になることから、採点業者が有する採点の蓄積を生かしつつ、共通テストとして公平性を確保するために必要な採点基準の在り方について、作問委員とセンター、採点業者との間で徹底的な議論と内容の詰めを行った。
- 結果として、センターと業者の間における採点基準（形式面、内容面）の確定が遅れたため、採点者の理解を図る時間が十分ではなかった。このため、センターによる検収において、採点業者に確認し、採点結果を補正する例も見られた。
- 採点者は共通テストにおいて、大学入学者選抜を目的としたハイスティクスな大規模一斉試験の採点を、試験実施後まで問題を閲覧することができない中、約20日間という限られた日数で行うことになる。これは前例のない新たな取組であることに配慮して準備を進め、採点の質を確保していく必要がある。
- 共通テストが2020年度からの実施であること、国語と数学の記述式問題に関する調査は2016～18年度の3回実施していることから、2019年度は問題に関する試行調査は行わないが、採点に関する準備事業を実施し、例えば、以下のようなことを通じて採点の質の向上を図る予定である。
 - ・センターと採点業者の円滑な役割分担と早期からの連携のための運営
 - ・特殊な採点日程・過程であることを踏まえた採点者への更なる事前研修の充実
 - ・採点開始当初は上位採点者を中心に採点を行うなど、採点スケジュール等の検証
- こうした準備事業を通じて採点の更なる質の向上を図るとともに、受検者が、問題で求められている条件を整理して相手が正確に理解できるような表現で記述することができるよう、前項（1）で述べた採点基準に関する考え方の周知等を図っていく。
- 加えて、50万人という大規模採点を限られたスケジュールの中で円滑に実施し、補正が最小限となるようにするためには、マニュアル化した基準を多くの採点者に短期間で共有することができるよう、判断が必要となる要素を一層厳選し採点基準の明確化を図ることが必要になる。
- このための問題作成の工夫として、国語の記述式問題については、試行調査よりも更に題材や問いかけを問題作成の段階で工夫することとする。
- 数学の記述式問題については、同様の観点から、共通テスト開始当初は数式等を記述する問題を3問出題することも視野に検討を行い、将来的には問題解決のための方略等を短文で記述する問題なども出題できるよう検討していく。
- 共通テストにおける記述式問題の実施のためには、当初から検討されてきたように、短期間での大規模採点に必要な体制を整える必要があり、個別選抜における記述式問題のように自分の考えをより自由に発展させて表現するような問はなじまないが、国語においては36ページの表③にあるような情報を整理して考えを構成する力を、数学においては37ページの表②にあるような問題解決の方略等を考える力を、それぞれはかるにあたり、選択肢を手掛かりとせず自ら考え表現することを求めることができるという意味で大きな意義があるものであり、その意義を踏まえた作問・採点体制の充実を図る。

- 今回の試行調査の採点過程を通じて、採点の補正を生じにくくするためには、早期からの採点業者との採点基準のすり合わせや、研修を通じた採点者の質の向上、試験実施直後の答案例の確認と最終調整、早期の採点状況の点検が効果的であることがわかった。限られた日数を検収日数に充てるよりも、実施直後の答案例の確認や採点作業、採点状況の点検等に日数を充てることが効果的であると考えられる。検収については、採点等に必要な日数を最大限確保することを最優先として適切な体制を整えていく。

【国語】作問のねらいとする主な「思考力・判断力・表現力」、及びそれらと出題形式との関係についてのイメージ（素案）

検討中

※ 試行調査の検証・分析の結果及び高等学校学習指導要領の見直しの内容等を踏まえ、更に整理する。

※ 作問のねらいとする主な「思考力・判断力・表現力」と出題形式との関係は、例として挙げているものであり、問い方や場面等によっては別の出題形式等でも可能性もあり得る。

※ ここでの「文章等」には、文章のほか、言葉が含まれる図表などを含む。

※ 「話すこと・聞くこと」の領域を意識した設定も取り入れる。

		＜読むこと＞ 【構造と内容の把握】（叙述に基づいて、文章の構造や内容を把握すること） 【精査・解釈】（構成や叙述などに基づいて、文章の内容や形式について、精査・解釈すること）	＜読むこと＞ 【考えの形成】（文章を読んで理解したことなどに基づいて、自分の考えを形成すること）	＜書くこと＞ 【題材の設定】【情報の収集】【内容の検討】（目的や意図に応じて題材を決め、情報を収集・整理し、伝えたいことを明確にすること）	＜書くこと＞ 【構成の検討】（文章の構成を検討すること） 【考えの形成】【記述】（自分の考えを明確にし、記述の仕方を工夫すること） 【推敲】（読み手の立場に立ち、自分が書いた文章についてとらえ直し、分かりやすい文章にすること）
大学「思考力・判断力・表現力」について問いたい	①文章等の部分把握、精査・解釈して解答する問題 選択式／記述式	文章等の部分に書かれていること（構造や内容）を把握、精査・解釈することができる (例) ○文章等における語句の意味や比喩等の内容を適切にとらえることができる ○文章等における文や段落の内容を、接続の関係を踏まえて解釈することができる ○文章等の特定の場面における人物、情景、心情などを解釈することができる			
	②文章等の全体把握、精査・解釈して解答する問題 選択式／記述式	文章等の全体に書かれていること（構造や内容）を把握、精査・解釈することができる (例) ○文章等の全体における書き手の考えとその根拠をとらえることができる ○目的等に応じて情報をとらえ、文章等の全体の要旨を把握することができる ○文章等の全体における人物相互の関係の定容や心情の変化を適切にとらえたり、言動の意味を解釈したりすることができる ○文章等の全体を通じて対比されている事項について考察し、共通点や相違点を整理することができる ○文章等の全体の構成や展開、表現の仕方を評価することができる			
	③文章等の精査・解釈に基づく考えを解答する問題 選択式／記述式	文章等に書かれていること（構造や内容）を把握した上で、文章等の全体から精査・解釈し、それに基づき考えを形成することができる (例) ○文章等を踏まえ、推論による情報の補足や、既知知識や経験による情報の整理を行って、文章等に対する考えを説明することができる ○文章等を踏まえ、条件として示された目的等に応じて、必要な情報を比較したり関連付けたりして、文章等に対する考えを説明することができる ○文章等に含まれている情報を統合したり構造化したりして、内容を総合的に解釈し、文章等に対する考えを説明することができる			
	④文章等の精査・解釈を踏まえて発展させた自分の考えを解答する問題 自由記述式／小論文	文章等に書かれていること（構造や内容）を把握した上で、文章等の全体から精査・解釈し、それを踏まえながら発展的に自分の考えを形成することができる (例) ○文章等における書き手の考えを踏まえた上で、文章等に示されたテーマについて自分の考えを論じることができる ○文章等に示されたテーマについて、仮説を立てたり、既知知識や経験を具体的に挙げたりしながら、自分の考えを論じることができる ○文章等と自分自身との関わりを考え、自分自身の問題として論じることができる			

※試行調査の検証・分析の結果及び高等学校学習指導要領の見直しの内容等を踏まえ、更に整理する。
 ※作問のねらいとする主な「思考力・判断力・表現力」と出題形式との関係は、例として挙げているものであり、問いや場面等によっては別の出題形式等で問う可能性もあり得る。

		A	B	C	D	E
		日常生活や社会の問題を数理的にとらえること 数学の事象における問題を数学的にとらえること	数学を活用した問題解決に向けて、構想・見通しを立てること	焦点化した問題を解決すること	解決過程を振り返り、得られた結果を意味づけたり、活用したりすること 解決過程を振り返るなどして概念を形成したり、体系化したりすること	数学的な表現を用いて表現すること
大学入学共通テストにおいて問いたい「思考力・判断力・表現力」	①マーク式 多肢選択式・数値解答式	日常生活や社会の問題における事象の数量等に着目して数学的な問題を見いだすことができる	数学的な問題の本質を見いだすことができる（洞察力）	焦点化した問題を目的に応じて数・式、図、表、グラフなどを活用し、一定の手順にしたがって数学的に処理することができる	解決過程を振り返り、得られた結果を元の事象に戻してその意味を考えることができる	
		日常生活や社会の問題における事象の特徴をとらえて数学的な表現を用いて表現する（事象を数値化する）ことができる	数学的な問題を解決するための見通しを立てることができる（構想力）	焦点化した問題を数学的な見方・考え方を基に、的確かつ能率的に処理することができる	解決過程を振り返り、得られた結果を様々な事象に活用することができる	
		数学の事象から問題を見いだすことができる		焦点化した問題を解決することについて、論理的に推論することができる（帰納、類推、演繹）	解決過程を振り返るなどして、数学的な見方・考え方のよさを見いだすことができる	
		数学の事象から特徴をとらえ、数値化することができる			解決過程を振り返るなどして、得られた結果を基に批判的に検討し、体系的に組み立てていくことができる	
		数学の事象から得られた結果を基に拡張・一般化することができる			解決過程を振り返るなどして、見いだした事例を既習の知識と結び付け、概念を広げたり深めたりすることができる	
					解決過程を振り返るなどして、統合的・発展的に考えることができる	
	②新テストにおける記述式 数式や問題解決の方略等を解答させる記述式	日常生活や社会問題を数学的にとらえた際に設けた条件等を説明することができる	問題解決の構想等を理解したり、その構想の根拠を数学的に説明したりすることができる	数学における基本的な概念や原理・法則等の理解を基に、公式や定理等を用いて問題を解決する方法を説明することができる	得られた結果の数学的意味や別の方法で解決する方略等を見だし、説明することができる	数学的な表現を用いた説明を理解したり評価したりすることができる
		特定の場合に成り立つ性質が、一般の場合でも成り立つかを考え表現することができる	成り立つことが予測される数学的な事柄・事実を、数学的な表現を用いて説明することができる	問題場面における数量関係を式に表すことができる	解決過程を振り返るなどして概念を形成したり、体系化したりして統合的・発展的に考えた結果を数学的に表現することができる	目的に応じて、自分の考えなどを数学的な表現を用いて的確に説明することができる
（参考）	③自由記述式 証明など、数学的な問題解決のプロセスを表現する自由記述式	日常生活や社会問題について、条件を設定したり、数学の事象について、条件の設定を変更するなどして新たな数学の問題をつくらることができる	命題が真であることを証明するための根拠となる数学的事実（公式や定理等）をとらえ、問題解決に向けた構想や見通しを立てることができる	平面図形や空間図形の複合的な問題について、それらの特徴を活用して、計量したり証明したりすることができる	得られた結果の意味を元の事象に戻してその意味を考えたり、条件を変更するなどした場合にも同様に成り立つかを調べることができる	問題解決の過程を数学的な表現を適切に用いて説明することができる
		数学の事象において数量の変化について実験して調べるなどして、新たな問題をつくらることができる	命題の真偽を類推したり、ある命題を他の同値な命題に言い換えたりして数学的な問題の本質をとらえることができる	関数や方程式・不等式の複合的な問題について、それらの特徴を踏まえて条件に適する数値を求めたり、証明したりすることができる	用いた解決方法を発展させ、他の日常生活や社会問題についての事象や数学の事象の解決に活用することができる	得られた結果の数学的意味をとらえ、それを数学的な表現を用いて適切に説明することができる

（３）解答方法、答案の読み取り

- 濃淡がはっきりしていて、文字がより濃く表示され、ファイルサイズが小さく高速で処理できる２値（Bitone）のイメージで採点を進め、採点に支障のあるイメージがあった場合に、高画質のイメージに差し替えて採点を行い、高画質のイメージでも採点に支障がある場合はセンターにおいて答案を確認し文字や数式を判読することとした。センターにおいて答案を確認したのは、国語、数学、各１枚であったことから、共通テストにおいても同じ方式で行う方向で検討する。
- 答案の画像化・小片化、採点システムとのデータの受け渡しの受け渡しについては、スケジュールに大きな影響を与えるような支障はなかった。しかし、共通テストは、試行調査の７倍以上の約５０万人規模であることから、大規模でのデータの受け渡し等について引き続き検討していく。

3 マーク式問題を含めた成績表示の在り方に関する分析・検討の概要

【分析・検討方針】

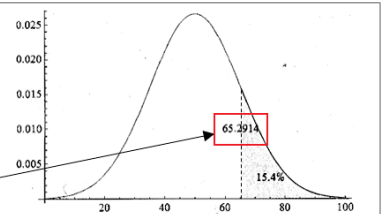
- 2018年度試行調査の結果を活用して、分布情報を利用した成績の表示（今回の試行調査では科目間調整を行わない）について9段階のスタナインを使用してシミュレーションを行い、段階が消滅する科目の有無を分析し、安定的な成績表示について検証を行う。
- また、過去のセンター試験の結果を活用し、追・再試験等、受検者が少ない場合の成績表示の在り方について、追・再試験に基づく段階と本試験の段階に当てはめることも含めて検討し、シミュレーションを行い、大学入学共通テストの成績表示の在り方について検証を行い、来年度初頭に公表予定である各教科・科目における問題のねらいや実施方法等において、各教科・科目の成績表示の在り方を示すことを目指す。
- 今回のシミュレーションについては、前回の試行調査の分析を踏まえ、安定的に使用できる正規化得点を活用し、9段階のスタナインで行った。

使用する換算方法：正規化得点…千分率を利用し、平均50、標準偏差15の正規分布に照らして得点化するもの。

※正規化得点に換算した結果、小数点が発生した場合は小数点以下を四捨五入。

例) 81点以上得点した者が15.4%いる試験で80点を取った場合

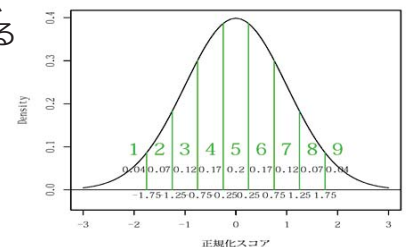
- ・ 正規化得点 65点 [平均50、標準偏差15の正規分布で上位から15.4%の位置となる値(65.2914)]



使用する尺度：スタナイン…正規化スコアを求めて全体を9分割する、分位点による区分法の一つ。正規分布の場合、-1.75~1.75まで0.5刻みで分けることで、4、7、12、17、20、17、12、7、4%に9分割される。

⇒○低得点から順に1～9段階とする。

- -1.75~1.75までの0.5刻みで分ける方法を採用し、それぞれ対応する値を算出して区分点とした。
($-1.75 \times 15 + 50 = 23.75$ 等)



1 分析結果の概要

- 第2部のとおりシミュレーションを行った結果、今回の試行調査において消滅する段階があった科目はなかった。
なお、平成30年度（2018年度）センター試験の追・再試験においては、12科目（世界史A、日本史A、倫理、政治・経済、数学Ⅰ、数学Ⅱ、情報関係基礎、物理基礎、地学基礎、地学、フランス語、中国語）において、消滅する段階があった。

2 成績表示の在り方

- 前回の試行調査での分析・検討の結果や、今回の試行調査での結果から、マーク式での段階別表示については、正規化得点を活用した9段階のスタナイン方式が、安定的な成績表示を行うのに適しているものと考えられる。
- 追・再試験については、4割以上の科目において消滅する段階があり、成績表示が安定しないことや、入学者選抜の際には、本試験、追・再試験の素点が区別なく大学で活用されている実態を踏まえると、安定的な成績表示を行うためには、本試験の段階に当てはめるのが適当と考えられる。

3 今後の方向性

- 前回の試行調査の分析でも示したとおり、素点表示が社会的に浸透している現状を踏まえ、素点表示は引き続き維持しつつ、段階別成績表示については、当面は素点表示とともに参考情報として併記し、入学者選抜への活用ができるようにすることとする。
- このような段階別成績表示を実際に入学者選抜に用いる場合には、受検者が、自分の段階を把握できる仕組みが必要であることから、センター試験終了後に、センターのWEBページ等において、得点換算表等の掲載を行うこととする。
- なお、今後とも、素点表示を引き続き維持する場合には、現在行っている素点の得点調整も引き続き必要と考えられる。
一方、段階別成績表示の定着状況や2024年度からの新しい学習指導要領に基づいた新たな科目構成による共通テストの実施なども踏まえ、今後、得点調整の実施方法等について検討を行っていく必要がある。

4 実施面の課題検証とその解決に向けた分析・検討等の概要

【分析・検討方針】

- 記述式問題の導入やリスニングにおける読み上げ回数異なる問題を混在させて出題することに伴う課題の洗い出しを各大学からの実施状況に関する調査報告を踏まえつつ行う。
- 上記を踏まえ、以下の事項について受検者向けの受検案内や大学向けの実施要領等のマニュアルに適切に反映する。
 - ・ 試験室における監督者の指示内容等の発言等の追加・修正
 - ・ 各日の試験の開始・終了時間や受検者及び監督者等の休憩時間など、試験日程大枠の適切性
- 今回の試行調査では実施運営面の検証を行うため、監督者と実施大学の入試担当課を対象に実施状況に関する調査を行った。有効回答件数は、監督者4,856人、実施大学499大学。

1 実施運営面における調査

（1）記述式問題の導入に伴う対応

- 監督者のマニュアルや問題冊子の作成に当たっては、試行調査における指示内容や解答上の注意をベースとしつつ、修正意見等が寄せられた監督者からの指示内容の削減や解答の記入例の追加記載といった点について改善を図る。また、記述式問題の導入に伴って事前に周知しておくべき事項については、従来から作成している受験案内に記述式問題導入に伴う解答上のルールなどを新たに記載するとともに、問題冊子の解答上の注意や解答用紙の注意事項等も含め、所要の検討を行う。

(2) 試験日程大枠の適切性

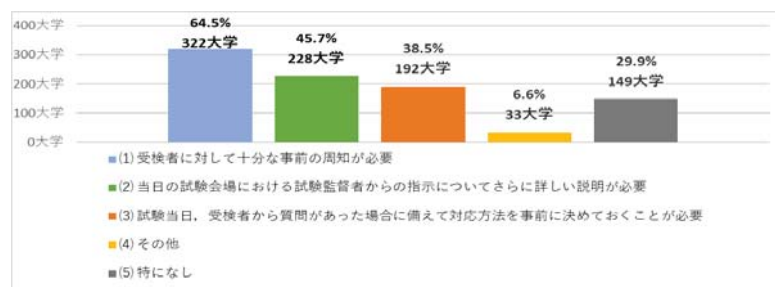
- 共通テストでは、記述式問題の導入により試験時間が1日目の国語で20分、2日目の数学①で10分それぞれ増える予定である。
- 試験日程について、実施大学からの回答では、試験終了時刻を1日目は20分、2日目は10分遅くすべきとするものが最も多かったことから、試験開始時刻は、センター試験と同様とし、試験終了時刻を遅くする方向で検討していく。
なお、休憩時間の適切性については、記述式問題の導入に伴う監督者の指示内容等の検討と合わせて検討していく。

(3) リスニングの問題音声の読み上げ回数が2回読みと1回読みが混在する場合の対応

- 実施大学からは、読み上げ回数が混在する場合には、問題冊子の注意事項への記載等に加え、受検者に対する十分な事前の周知や、監督者からの更に詳しい説明等が必要との回答があったところであり、これらを含めた対応を複合的に実施していく方向で検討していく。

《実施大学対象の実施状況に関する調査の回答》

- リスニングの問題音声の読み上げ回数について、仮に大学入学共通テストにおいて、問いの難易度等に応じて2回読み上げる場合と1回読み上げる場合が混在することになった場合、どのような対応が必要だと考えますか。(複数回答)



【分析・検討方針】

- マーク式問題について、当てはまる選択肢を全て選択させる問題における、記入あるいは消し跡の判断基準をどのように設定すべきか（読み取り基準の変更によるデータの変化を確認）実施面での課題等も踏まえ、引き続き検証を行い、来年度初頭に公表予定である各教科・科目における問題のねらいや実施方法等において、出題の可否を示すことを目指す。

2 当てはまる選択肢を全て選択する問題の方向性

- 当てはまる選択肢を全て選択する問題では、これまでの択一式では十分に問うことができなかった資質・能力を問うことができるメリットがある。一方で、複数マークを正答として扱うとマークシート1行に濃度の濃いマークと薄いマークが混在する可能性があるが、薄いマークと消し跡を明確に区別して読み取るような基準を設定することは困難である。
- 出題上のメリットはあるものの、受検者への影響を踏まえると、当てはまる選択肢を全て選択する問題は、CBT形式の導入などがなされれば可能であるが、マークシートを前提とした共通テスト導入当初から実施することは困難であると考えられる。
- そこで、これまでの試行調査における問題作成の蓄積を生かし、マークの読み取りは現在の方法を維持した上で、当てはまる選択肢を全て選択する問題を通して問いたい資質・能力と同程度の資質・能力を出題する形式について第2部のとおり検討を行った。これはあくまで参考例であり、出題形式が画一的なパターンに陥ることなく、問いたい資質・能力や難易度等を踏まえた適切なものとなるよう不断の検討・改善に努めることとする。

5 受検上の配慮に関する試行調査の分析・検討の概要

1 基本的な考え方

- 実施方針においては、「障害のある受検者に対しては、引き続き合理的な配慮を行う」とされており、共通テストにおける受検上の配慮については、センター試験で実施されてきた配慮を継承しつつ、共通テストのねらい（高等学校学習指導要領において育成を目指す資質・能力に準拠し、知識の理解の質を問う問題や、思考力、判断力、表現力を発揮して解くことが求められる問題を重視すること等）を踏まえ、国語と数学における記述式問題の導入や、マーク式問題の見直しといった、試験問題の改善に伴う事項を追加する必要がある。
- また、受検上の配慮については、インクルーシブ教育システムの構築に向けた指導の工夫・改善の現状や、技術革新の状況を踏まえ、継続的に実施状況に関する調査研究や評価を行い、その結果に基づく改善を図る体制を整える必要がある。

2 記述式問題の導入等に伴う受検上の配慮の検討状況

障害等がある者への受検上の配慮については、試験問題を通じて問いたい知識の理解や思考のプロセスは一般の受検者と異なるわけではないことから、試験問題の内容の同一性を維持しつつ、記述式問題の導入及びマーク式問題の見直しに伴い、特に以下のような事項に関して検討を行ってきた。

- 問題文の読み取りに当たって必要となる受検上の配慮
多様な資料や複数の資料の関係性を読み取る問題において思考に必要な情報の取得に関する配慮
- 記述式問題の解答に当たって必要となる受検上の配慮
記述式問題における思考過程の下書き、思考結果の記述に関する配慮
(マーク式問題は現行の配慮)
- 試験時間に関する受検上の配慮
記述式問題の導入及びマーク式問題の見直しに伴う試験時間の延長に関する配慮

それぞれの項目について、現時点の方向性は以下のとおりである。今後、配慮事項部会において議論を引き継ぎ、共通テストにおける受検上の配慮を決定・公表することとする。

(1) 問題文の読み取りに関する配慮

ア 共通テストに向けた新たな検討

①点字問題冊子における記述式問題の出題

多様な資料や複数の資料の関係性を読み取る問題において思考に必要な情報の取得に時間を要することから、問題文の整理や情報の提示の仕方について一層工夫する。

記述式問題については、一般問題冊子の国語の記述式問題は3問であるが、点字問題冊子の受検者は、読み取った情報のメモや思考過程の下書き、文字の訂正、解答の確認等に相当の時間を要すること、文字数のカウントを指で触って行うために指定された文字数内で記述することに相当の時間を要することなどの課題が改めて確認されたことから、解答時間と解答する字数等や問題数のバランス、問いたい資質・能力を踏まえて2問とする。

数学の記述式問題は、数式等を解答することから、記述自体の負担が過重とまでは言えないことから、一般受検者と同じ3問とする。

イ センター試験からの継続事項

- 拡大文字問題冊子の配付（14ポイントまたは22ポイント）、パソコンによるPDF化した問題の表示、補助者による問題文の代読など現行のセンター試験で実施している配慮事項を継承する。

(2) 問題の解答に関する配慮

ア 共通テストに向けた新たな検討

①点字解答における記述式問題の解答方法

- 「問題文の読み取りに当たっての配慮」のとおり、国語の記述式問題は2問（一般問題冊子は3問）とする。また、指定された字数内で記述するのに相当の時間を要し、解答する字数の指定は点字で100マス程度と考えられるが、ただし、解答する文字数の確認にも相当の時間を要することを踏まえ、記述する文字数が最も多い問については解答字数制限を設けない。
- なお、国語の記述式問題全体の段階別表示は、試行調査と同様に一般受検者に準じる（第2部参照）。

②一般の解答欄のサイズでは文字を記入することが困難な受検者への配慮（解答用紙のレイアウト）

- 解答欄の大きさやレイアウトを変更した複数の解答用紙の中から、障害等の種類や程度に応じ、自分に適した解答用紙を選択できるようにする方向で検討する。解答用紙の見本はあらかじめ公表することとなるが、受検者は試験前に使用する解答用紙を申請するだけでなく、問題冊子と一緒に配付された複数種類の解答用紙から自分にあった解答用紙を選んで記述することができることも視野に検討を行う。

- 解答用紙の様式等については、試行調査において、障害等の種類や程度に応じた選択の要望はあるものの、線の太さ等についてはちょうどよいとの意見が多かったことから、試行調査に用いた解答用紙を基に検討を進める。
- 解答用紙が複数机上にあることで戸惑う受検者がいないか、監督者に提出する解答用紙を間違えることがないかなど、試験の実施方法と併せて検討する。
- 障害等の種類や程度により、記入した文字の判読が困難な者や筆圧が著しく弱い者については、センターが開発した国語及び数学の記述式問題解答入力システムの利用等、他の解答方法についても今後検討を進める。

③解答欄の大きさに関わらず文字を記入することが困難な受検者への配慮（パソコン利用）

- 鉛筆を用いて文字を記入することが困難な受検者の解答方法の一つとして、高等学校等の授業や定期試験等で日常的にパソコンを使用している場合において、センターが開発した国語及び数学の記述式問題解答入力システム（第2部参照）を用いて解答を行うことについて検討を進める。
- 共通テストにおける記述式問題は、思考力等を問うことを主な目的としており、漢字の正確な記述よりも内容面を重視することから、本システムによる入力に当たっては、漢字変換機能から該当する漢字を選択することを認める。
- ただし、障害等の種類や程度により、本システムを利用できない者や本システムを利用しても入力に多くの時間を費やすと考えられる者等については、試験場設定大学において、受検者の口頭解答の代筆や、その口頭解答の内容を補助者が本システムを使い代理入力すること、あるいは市販ソフト等の利用の可能性等についても今後検討を進める。

④受検上の配慮における実施上の課題と大学の協力

- 配慮の必要な者に対する合理的な配慮については、これまでも大学の協力の下に実施してきたところである。しかし、センター試験における受験上の配慮の決定者は2,500名以上となり、試験室や監督者が不足するような状況も生じている。このような実情も踏まえると、配慮が必要な者に対する受検の機会の確保の重要性についてこれまで以上にしっかりと大学に周知し、別室の設置、監督者の人員の確保、パソコンを使用する場合の仕様の確認、記述式問題解答入力システムを使用する場合の監督者への周知等の準備を行うこととなる試験場設定大学の理解・協力を得ながら、引き続き実施に向けた検討を進める。

イ センター試験からの継続事項

- マーク式問題における点字による解答・文字による解答・チェックによる解答・補助者による解答の代筆などセンター試験の配慮事項を継承する。

（3）試験時間に関する配慮

- 1.5倍を上限としつつ、必要な情報の検索に要する時間等を踏まえ、それぞれの障害種別における試験時間の上限の在り方について検討を進める。

現行				平成31年度（2019年度）大学入試センター試験・試験時間割						
		1.3 倍の試験時間	1.5 倍の試験時間	一般の試験時間			1.3 倍の試験時間	1.5 倍の試験時間	一般の試験時間	
1 日 目	地理歴史、公民		2科目受験 9:30～12:20（170分） 1科目受験 11:00～12:20（80分）	2科目受験 9:30～12:40（190分） 1科目受験 11:10～12:40（90分）	2科目受験 9:30～11:40（130分） 1科目受験 10:40～11:40（60分）	地理歴史、公民		2科目受験 9:30～12:20（170分） 1科目受験 11:00～12:20（80分）	2科目受験 9:30～12:40（190分） 1科目受験 11:10～12:40（90分）	2科目受験 9:30～11:40（130分） 1科目受験 10:40～11:40（60分）
	国語		13:20～15:05（105分）	13:25～15:25（120分）	13:00～14:20（80分）	国語		13:20～15:30（130分）	13:25～15:55（150分）	13:00～14:40（100分）
	外国語	筆記	15:35～17:20（105分）	15:55～17:55（120分）	15:10～16:30（80分）	外国語	筆記	16:00～17:45（105分）	16:25～18:25（120分）	15:30～16:50（80分）
		リスニング	17:45～18:55（70分） （解答時間 40分）	18:20～19:35（75分） （解答時間 45分）	17:10～18:10（60分） （解答時間 30分）		リスニング	18:10～19:20（70分） （解答時間 40分）	18:50～20:05（75分） （解答時間 45分）	17:30～18:30（60分） （解答時間 30分）
2 日 目	理科①		9:30～10:50（80分）	9:30～11:00（90分）	9:30～10:30（60分）	理科①		9:30～10:50（80分）	9:30～11:00（90分）	9:30～10:30（60分）
	数学①		11:20～12:40（80分）	11:30～13:00（90分）	11:20～12:20（60分）	数学①		11:20～12:45（95分）	11:30～13:15（105分）	11:20～12:30（70分）
	数学②		13:40～15:00（80分）	13:45～15:15（90分）	13:40～14:40（60分）	数学②		13:50～15:10（80分）	14:00～15:30（90分）	13:50～14:50（60分）
	理科②		2科目受験 15:30～18:20（170分） 1科目受験 17:00～18:20（80分）	2科目受験 15:45～18:55（190分） 1科目受験 17:25～18:55（90分）	2科目受験 15:30～17:40（130分） 1科目受験 16:40～17:40（60分）	理科②		2科目受験 15:40～18:30（170分） 1科目受験 17:10～18:30（80分）	2科目受験 16:00～19:10（190分） 1科目受験 17:40～19:10（90分）	2科目受験 15:40～17:50（130分） 1科目受験 16:50～17:50（60分）

新テスト				「大学入学共通テスト」・試験時間割（イメージ） （センター試験時間割を単純に変更した目安程度のもの） 《「国語」（80分→100分）、「数学①」（60分→70分）》						
		1.3 倍の試験時間	1.5 倍の試験時間	一般の試験時間			1.3 倍の試験時間	1.5 倍の試験時間	一般の試験時間	
1 日 目	地理歴史、公民		2科目受験 9:30～12:20（170分） 1科目受験 11:00～12:20（80分）	2科目受験 9:30～11:40（130分） 1科目受験 10:40～11:40（60分）	地理歴史、公民		2科目受験 9:30～12:20（170分） 1科目受験 11:00～12:20（80分）	2科目受験 9:30～12:40（190分） 1科目受験 11:10～12:40（90分）	2科目受験 9:30～11:40（130分） 1科目受験 10:40～11:40（60分）	
	国語		13:20～15:30（130分）	13:25～15:55（150分）	13:00～14:20（80分）	国語		13:20～15:30（130分）	13:25～15:55（150分）	13:00～14:40（100分）
	外国語	筆記	16:00～17:45（105分）	16:25～18:25（120分）	15:10～16:30（80分）	外国語	筆記	16:00～17:45（105分）	16:25～18:25（120分）	15:30～16:50（80分）
		リスニング	18:10～19:20（70分） （解答時間 40分）	18:50～20:05（75分） （解答時間 45分）	17:10～18:10（60分） （解答時間 30分）		リスニング	18:10～19:20（70分） （解答時間 40分）	18:50～20:05（75分） （解答時間 45分）	17:30～18:30（60分） （解答時間 30分）
2 日 目	理科①		9:30～10:50（80分）	9:30～11:00（90分）	9:30～10:30（60分）	理科①		9:30～10:50（80分）	9:30～11:00（90分）	9:30～10:30（60分）
	数学①		11:20～12:45（95分）	11:30～13:00（90分）	11:20～12:20（60分）	数学①		11:20～12:45（95分）	11:30～13:15（105分）	11:20～12:30（70分）
	数学②		13:50～15:10（80分）	14:00～15:15（90分）	13:40～14:40（60分）	数学②		13:50～15:10（80分）	14:00～15:30（90分）	13:50～14:50（60分）
	理科②		2科目受験 15:40～18:30（170分） 1科目受験 17:10～18:30（80分）	2科目受験 15:45～18:55（190分） 1科目受験 17:25～18:55（90分）	2科目受験 15:30～17:40（130分） 1科目受験 16:40～17:40（60分）	理科②		2科目受験 15:40～18:30（170分） 1科目受験 17:10～18:30（80分）	2科目受験 16:00～19:10（190分） 1科目受験 17:40～19:10（90分）	2科目受験 15:40～17:50（130分） 1科目受験 16:50～17:50（60分）

センター試験における試験時間に関する配慮事項

- ・点字解答 …… 一般の試験時間の1.5倍
- ・文字解答 …… 一般の試験時間の1.3倍
- ・チェック解答 …… 一般の試験時間の1.3倍（計算が必要な数学・理科は、障害の程度や状態等により1.5倍を許可）
- ・代筆解答 …… 一般の試験時間の1.3倍（計算が必要な数学・理科は、障害の程度や状態等により1.5倍を許可）

※ マークシートによる解答においても1.3倍の試験時間延長を許可する場合がある。

別紙

《問題文の読み取りに関する配慮／問題の解答に関する配慮》

2018年度試行調査① ▶ 点字問題冊子における記述式問題の出題のあり方・点字解答における記述式問題の解答方法

2017年度は、点字による教育を受けた者を対象に、記述式問題における解答方法等に関する配慮の在り方の試行調査を行った。2018年度は、記述式問題に選択式問題（一般問題冊子におけるマーク式問題に相当）を加え、試験問題1セットを実施し、点字問題冊子の受検者における合理的な配慮の在り方に関する試行調査を実施する。

- ① 実施期間・場所 2019年2月4日～3月2日の任意の期日に各学校で実施
- ② 実施科目等 国語（150分）、数学Ⅰ・数学A（105分）
- ③ 受検者 視覚障害特別支援学校高等部の在籍者等（「国語総合」・「数学Ⅰ・数学A」履修者（履修中含む））**全国8校22名**
点字教育を受けた大学生 **10名**

《問題の解答に関する配慮》

2018年度試行調査② ▶ 一般の解答欄のサイズでは文字を記入することが困難な受検者への配慮（解答用紙のレイアウト）

一般の解答欄のサイズでは文字を記入することが困難な受検者に、解答欄の大きさやレイアウトの異なる複数の解答用紙に解答例を転記させ、その転記状況やアンケート結果等の分析を行い、試行調査で利用した解答用紙の改善点を洗い出し、解答用紙の設計に反映する。

- ① 実施期間・場所 2018年9月25日～10月31日の任意の期日に各学校で実施
- ② 実施科目等 国語、数学Ⅰ
- ③ 受検者 視覚障害特別支援学校高等部、肢体不自由特別支援学校高等部の在籍者等（**全国18校64名**）（視覚13校51名、肢体5校13名）

《問題の解答に関する配慮》

2018年度試行調査③ ▶ 解答欄の大きさに関わらず文字を記入することが困難な受検者への配慮（パソコン利用）

解答欄の大きさに関わらず文字を記入することが困難な受検者に、大学入試センターが用意した国語及び数学の記述式問題解答入力システムを用いて、解答例の入力を行わせ、その入力状況やアンケート結果等の分析を行い、システムの操作性に関する改善点を洗い出し、今後のシステム開発に反映する。

- ① 実施期間・場所 2018年9月25日～10月31日の任意の期日に各学校で実施
- ② 実施科目等 国語、数学Ⅰ
- ③ 受検者 肢体不自由特別支援学校高等部の在籍者等（**全国9校20名**）

○ 書字障害のある生徒等に対するパソコンを利用した解答入力に関するヒアリングの実施（予定）

- ▶ 実施期間 2019年度初頭～
- ▶ 実施科目等 国語、数学Ⅰ
- ▶ 実施方法 記述式問題解答入力システムの操作性についてヒアリング
- ▶ 受検者 本センター試行調査における配慮事項調査研究部会委員を通し受検者の決定

IV 分析結果(データ等編)

1 科目等別の問題構成、設問数、内容等の在り方に関する分析

【分析・検討方針】

- 問題調査研究部会の各科目別WGにおいては、分析チームから提供されたデータを基に、例えば正答率が極端に低い問題の分析、正答率が総合的に高い受検者が誤答を選択している問題の分析、成績上位者の識別に寄与する問題と成績下位者の識別に寄与する問題のバランス、識別力が低い問題の分析、各設問が測定している力と作問のねらいや外部有識者の意見書において判明した質的な評価等も含めて、2017年度試行調査の分析結果とも比較し、大学入学共通テストの問題構成や設問数、内容、配点等の在り方に関する分析・検討を行う。
- WGにおいては、昨年10月に設置された教科・科目等別問題作成方針分科会とも連携しながら、共通テストにおいて問いたい知識や思考力等を重視した作問の在り方と、選抜試験としてふさわしい難易度や識別力の設定とを両立させるよう分析・検討を行った。
- 分析・検討に当たっては、外部の有識者として、当該科目に造詣が深い大学の教員を5名程度、当該科目に造詣が深い高校関係者を3名程度、全科目で98名を選定し、①問題のねらいや、主に問いたい資質・能力、②題材の選定や問題の場面設定、出題形式等、③各科目の問題構成や設問数、内容、難易度等について聞き取りを行った。
- 科目別分析結果は別冊のとおり。

2 記述式問題に関する分析

1 正答の条件と成績表示の在り方

1. 国語

(1) 小問の段階ごとの割合や正答の条件を満たしていない解答の傾向の分析

問1 【文章Ⅰ】の傍線部A「指差しが魔法のような力を発揮する」とは、どういうことか。三十字以内で書け(句読点を含む)。

正答の条件を全て満たしている解答の例として示したもの

- 例1 ・ことばを用いなくても意思が伝達できること。(21字)
- 例2 ・指さしによって相手に頼んだり尋ねたりできること。(24字)
- 例3 ・ことばを用いなくても相手に注意を向けさせることができること。(30字)

正答の条件として示したもの

- ① 30字以内で書かれていること。
- ② ことばを用いない、または、指さしによるということが書かれていること。
- ③ コミュニケーションがとれる、または、相手に注意を向けさせるということが書かれていること。

※ 正答の条件を満たしているかどうか判断できない誤字・脱字があった場合は、条件を満たしていないこととなる。

		小問の段階	割合(%)
問1	a	条件①～③のすべてを満たしている解答	75.7%
	b	条件②、③を満たしている解答(①のみ満たしていない)	0.0%
	c	次のいずれか(①は満たしていても満たしてなくてもよい) 条件②を満たしている解答(③は満たしていない) 条件③を満たしている解答(②は満たしていない)	23.5%
	d	上記以外の解答 無解答	0.8%

- 「指差しが魔法のような力を発揮する」とは、どういうことかを説明する問いで、正答の条件を満たしていない解答には次のような傾向が見られた。
- ✓ 「指差し」という動作の説明のみで、「魔法のような力を発揮する」ことについて説明されていないもの
 - ・ 指差しをすることで、他の人に何かを指し示せること。
 - ・ 自分の関心のあるものに他者の注意を向けさせる手段であること。
- ✓ 「魔法のような」という比喻表現についての説明が不足しているもの
 - ・ ことばの通じない国で指差しを使うとことばの代わりになること。

問2 「ヒトはどのように言語を習得していくのか」という問題について考えを進めたまことさんは、【文章Ⅰ】の傍線部B「初期の指差しは、言語習得のひとつの重要な要素をなしている」ことについて、【文章Ⅱ】に詳しく述べられていることに気付いた。そこで、【文章Ⅱ】の内容を基に、子どもが「初期の指差し」によって言語を習得しようとする一般的な過程を次のようにノートに整理してみた。その過程が明らかになるように、空欄に当てはまる内容を四十字以内で書け（句読点を含む）。

正答の条件を全て満たしている解答の例として示したもの

- 例1 ・（大人は）自分から指示対象を指し示して、単語との対応関係を教えてはくれない。（33字）
 例2 ・（大人は）適切な対象を手にとって「これが単語に対応するものだ」と教えてはくれない。（36字）
 例3 ・（大人は）英語の先生がするように、本を手にとって「これが本だ」と教えてはくれない。（36字）

正答の条件として示したもの

- ① 40字以内で書かれていること。
- ② （大人は）教えてはくれないということが書かれていること。
- ③ 指示対象と単語との対応関係が書かれていること。

※ 正答の条件を満たしているかどうか判断できない誤字・脱字があった場合は、条件を満たしていないこととなる。

小問の段階			割合（％）
問2	a	条件①～③のすべてを満たしている解答	48.5%
	b	条件②，③を満たしている解答（①のみ満たしていない）	0.0%
	c	次のいずれか（①は満たしていても満たしてなくてもよい） 条件②を満たしている解答（③は満たしていない） 条件③を満たしている解答（②は満たしていない）	40.9%
	d	上記以外の解答 無解答	10.6%

- 文章を読んでノートに整理したという設問中の記載のうち、空欄に当てはまる内容を説明する問いで、正答の条件を満たしていない解答には次のような傾向が見られた。

（「こどもは」で始まる「子ども」の行動を記載した文に対応して、「しかも」で続く、「大人は」で始まる文の空欄に当てはまる内容を説明する問い）

- ✓ 「大人」の行動についての説明が不足しているもの
 - ・ 手に取って教えてくれないので子どものほうから積極的に答えを求める必要がある。
 - ・ 英語の先生が生徒にするようなことはしないため、子どもが確認する必要がある。
- ✓ 「大人」の行動において、指示対象と単語との対応関係が不明確なもの
 - ・ 英語の先生が生徒にするようにその物を手にとりこれはこういうものと教えてくれない。

問3 「ヒトの指差し」と指示語についても考えたまことさんは、次の【資料】を見つけ、傍線部「指さされたものが、話し手が示したいものと同一視できないケース」があることを知った。まことさんは、「話し手が地図上の地点を指さす」行為もこのケースに当てはまることに気づき、【文章Ⅰ】と【文章Ⅱ】に記された「指差し」の特徴から、なぜ「同一視できないケース」でも「話し手が示したいもの」を理解できるのかについての考えをまとめることにした。まことさんは、どのようにまとめたと考えられるか。後の(1)～(4)を満たすように書け。

- (1) 二つの文に分けて、全体を八十字以上、百二十字以内で書くこと（句読点を含む）。
- (2) 一文目は、「話し手が地図上の地点を指さす」行為が「指さされたものが、話し手が示したいものと同一視できないケース」であることを、【資料】に示されたメニューの例に当てはめて書くこと。
- (3) 二文目は、聞き手が「話し手が示したいもの」を理解できる理由について書くこと。ただし、話し手と聞き手が地図の読み方について共通の理解をもっているという前提は書かなくてよい。
- (4) 二文目は、「それが理解できるのは」で書き始め、「からである。」という文末で結ぶこと。

正答の条件を全て満たしている解答の例として示したもの

- 例1 ・ 話し手が地図上の地点を指さすことで、指示されているのは地図そのものではなく、地図が表している場所であることが聞き手には理解できる。それが理解できるのは、他者の視点に立つ能力があるからである。（95字）
- 例2 ・ 地図上の地点を指差して「ここに行きたい」と言った場合、「ここ」が示しているのは地図の実際の場所である。それが理解できるのは、指さした人間の位置に身を置くことで、指さされた人間が指さした人間と同一のイメージをもつことが可能になるからである。（119字）
- 例3 ・ 地図上の地点を指差して「ここに駅がある」と言った場合、「ここ」が示しているのは地図に対応している実際の駅である。それが理解できるのは、指さされた人間が指さした人間の視点に立つことで、実際に示したいものを想像するからである。（111字）

正答の条件として示したもの

- ① 80字以上、120字以内で書かれていること。
- ② 二つの文に分けて書かれていて、二文目が、「それが理解できるのは」で書き始められ、「からである。」で結ばれていること。
ただし、二文目が「理解ができるからである。」で結ばれているものは正答の条件②を満たしていないこととなる。
- ③ 一文目に、話し手が地図上の地点を示しているということが書かれていること。
- ④ 一文目に、話し手が指示しようとする対象が実際の場所だということが書かれていること。
- ⑤ 二文目に、次のいずれかが書かれていること。
なお、両方書かれていてもよい。
・指差した人間の視点に立つということ。
・指差した人間と同一のイメージを共有できるということ

※ 正答の条件を満たしているかどうか判断できない誤字・脱字があった場合は、条件を満たしていないこととなる。

	小問の段階		割合 (%)
問3	a	条件①～⑤のすべてを満たしている解答	15.1%
	b	条件①, ③～⑤を満たしている解答 (②は満たしていない) 条件②～⑤を満たしている解答 (①は満たしていない)	2.4%
	c	条件③～⑤を満たしている解答 (①, ②は満たしていない) または、次のいずれか (①, ②は満たしていても満たしていなくてもよい) 条件③, ④を満たしている解答 (⑤は満たしていない) 条件③, ⑤を満たしている解答 (④は満たしていない) 条件④, ⑤を満たしている解答 (③は満たしていない)	26.0%
	d	上記以外の解答 無解答	56.5%

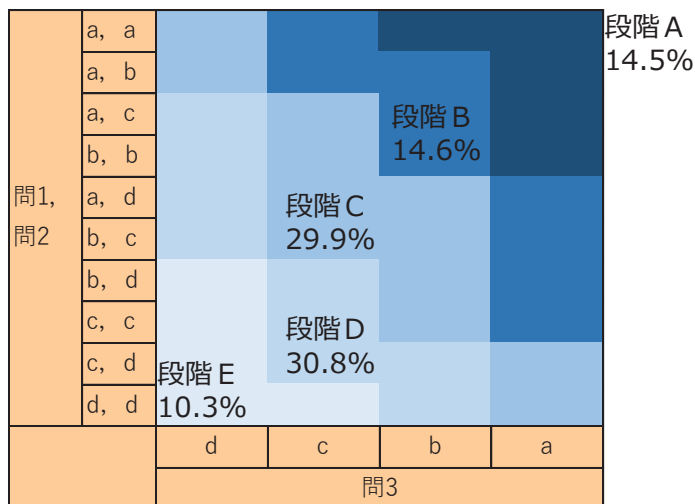
○ 正答の条件を満たしていない解答には次のような傾向が見られた。

- ✓ 一文目で、「話し手が地図上の地図を指差す」行為について、「話し手が示したいものと同一視できない」ことの具体的な説明が不足しているもの
 - ・話し手が地図上の地点を指さして示したものが、それ自体または文字であったり写真であったりするので、同一視できないケースが起きる。それが理解できるのは、地点、文字、写真を同じ「場所」だと互いに知覚、認識しているからである。
 - ・指さしによって示されたものが、例えば、文字や写真そのものではなくその対象が意味しているものを表す場合である。それが理解できるのは、対象を自己と他者がともに知覚し、互いに分かち合い、文化と呼べる現象が芽生える素地が与えられるからである。
 - ・話し手が指差ししているのはメニューの料理名や写真であるが、実際に示そうとしているのはその名前や写真が表す料理であることがある。それが理解できるのは、話し手と聞き手の両方が指さした目的物について共通の理解を持っているからである。
- ✓ 二文目で、文章Ⅰ・文章Ⅱに記された「指差し」の特徴を踏まえての説明としては不足しているもの
 - ・地図上で指をさされたのは、あくまで地図という紙面上の一点であり、地図が表している実際の現実の場所とは異なる。それが理解できるのは、地図という媒体が現実世界の縮図であるということを互いに理解しているからである。
 - ・指さした地図上の地点は、指さしの直接の対象の地点そのものではなく、地図が表している地点である。それが理解できるのは、話し手が示したい地点そのものを聞き手が理解しているという前提があるからである。

（２）記述式全体の段階別表示に関する分析

【記述式全体の段階】

- 小問ごとに４段階表示、総合評価については80～120字程度を記述する小問についてのみ1.5倍の重み付けを行った上で５段階表示をした各段階の割合は次のとおりであり、選抜試験として想定していた段階の分布が得られたと考えられる。



（３）「試行調査の記述式問題における記述に当たっての留意点（イメージ）」の分析

- 第２回試行調査では、国語の試行調査の記述式問題における記述に当たっての留意点（イメージ）について、高等学校を通じてあらかじめ受検者に示した上で実施した（「『大学入学共通テスト』における問題作成の方向性と本年１１月に実施する試行調査（プレテスト）の趣旨について」（平成30年（2018年）６月18日 独立行政法人大学入試センター）の別添７参照）。
- 国語の記述に当たっての留意点については、大規模採点を円滑に行う観点から、通知において示した基本的な考え方は維持した上で、以下のような点について改善し周知を図る必要があると考えられる。
- ・ 句読点については、受検者の筆圧等により画像が見えにくかったり、消しゴムのかすが句読点のように見えたり、受検者の書き方によって句点と読点の判別が難しかったりする場合もある。句読点や記号（「」等）を記述する際には、禁則処理をして漢字または仮名と合わせて一マスに記述することがあることも踏まえ、句読点等は一マスに１字であることを原則としつつ、漢字又は仮名と句読点が一マスで記述されているように見えたり、句読点と記号が一マスで記述されていたりする場合でも、一マスとして数えることとする。
 - ・ 二つの文章であることは、句点の他、空欄によって判断することとする。
 - ・ 文字の修正において、二重線での取り消しや文字の挿入を行った解答は、形式的な条件を満たしていないものと判断することとする。

- 誤字・脱字については、形式的な要件とするのではなく内容面から判断することとし、正答の条件に照らして、誤字・脱字によって文意や文脈が異なってしまう場合には、当該条件を満たしていないものと判断することとした。日本語は、1字の誤字・脱字であっても文意が変わり、内容的な条件の判断に影響することがあり得るため、受検者は誤字・脱字がないように注意深く書くようにする必要があると考えられる。

【正答の条件を満たしていないとまでは言えない誤字・脱字のイメージ】

問1

シ	言
ユ	葉
ニ	の
ケ	通
ー	じ
シ	な
ヨ	い
ン	国
で	で
き	、
る	指
こ	差
と	し
。	で
	コ

「シ」の誤字

た	指
め	示
の	し
強	は
力	、
な	注
手	意
段	の
と	供
な	有
る	を
こ	喚
と	起
。	す
	る

「差」の誤字

「共」の誤字

に	言
自	葉
分	を
の	用
意	い
思	ず
を	に
伝	指
ら	差
ら	し
れ	の
る	み
か	で
ら	相
。	手

「え」の誤字

問2

大人は

本	向	英
だ	う	語
ー	て	の
と	、	先
教	本	生
え	を	が
て	手	す
は	に	る
く	取	よ
れ	っ	う
な	て	に
い	ー	、
。	こ	子
	れ	供
	が	に

「向かって」の「か」の脱字

（４）受検者自身による解答の確認結果に関する分析

国語の受検者数は67,745名。このうち、解答の確認結果が正しく記入されていたのは、問1は64,046名、問2は63,975名、問3は、63,877名であった。これらを対象に、解答の確認結果と採点結果の一致率の分析を行った。

なお、判断不能とは「自分の解答がどの『段階』に当たるか判断できない」、解答不明とは「何を記述したか覚えていない」と受検者が判断した場合である。

問1						
		一致	不一致	判断不能	解答不明	
割合		69.4%	30.2%	0.3%	0.1%	
(判断不能と解答不明を除く)		69.7%	30.3%	—	—	

		受検者自身による解答の確認結果					
		a	b	c	d	判断不能	解答不明
採点結果	a	68.2%	0.9%	26.7%	3.9%	0.3%	0.1%
	b	70.6%	5.9%	17.6%	5.9%	0.0%	0.0%
	c	17.6%	1.6%	73.1%	7.4%	0.2%	0.1%
	d	1.7%	0.2%	10.3%	82.9%	2.7%	2.1%

問2						
		一致	不一致	判断不能	解答不明	
割合		66.0%	33.4%	0.4%	0.2%	
(判断不能と解答不明を除く)		66.4%	33.6%	—	—	

		受検者自身による解答の確認結果					
		a	b	c	d	判断不能	解答不明
採点結果	a	63.4%	1.2%	32.3%	2.6%	0.5%	0.1%
	b	75.0%	0.0%	0.0%	0.0%	25.0%	0.0%
	c	20.7%	1.6%	68.2%	9.1%	0.3%	0.2%
	d	3.8%	0.7%	24.7%	69.2%	1.0%	0.5%

問 3

	一致	不一致	判断不能	解答不明
割合	70.7%	28.2%	0.7%	0.4%
(判断不能と解答不明を除く)	71.5%	28.5%	—	—

		受検者自身による解答の確認結果					
		a	b	c	d	判断不能	解答不明
採点結果	a	65.7%	1.1%	29.4%	3.2%	0.5%	0.2%
	b	38.7%	26.0%	29.8%	4.7%	0.6%	0.2%
	c	16.4%	3.0%	68.6%	11.3%	0.6%	0.2%
	d	2.4%	1.1%	20.0%	75.1%	0.9%	0.5%

2. 数学

(1) 小問の正答率等の割合や誤答の傾向の分析

問 (あ)

(1) 「集合 A と集合 B の共通部分は空集合である」という命題を，記号を用いて表すと次のようになる。

$$A \cap B = \emptyset$$

「1のみを要素にもつ集合は集合 A の部分集合である」という命題を，記号を用いて表せ。解答は，解答欄 あ に記述せよ。

《正答例》 $\{1\} \subset A$

《留意点》

- 正答例とは異なる記述であっても題意を満たしているものは正答とする。

		割合 (%)
問 (あ)	正答	5.8%
	誤答	76.9%
	無解答	17.3%

○ 主な誤答は以下のとおりである。

- (i) 「 $\{1\}$ 」を「1」「 $\{x|1\}$ 」「 $C\{1\}$ 」のように記述し、1のみを要素にもつ集合を正しく記述していないもの
- (ii) 「 c 」を「 $\in$ 」「 $=$ 」「 $\cup$ 」「 $\cap$ 」のように記述し、包含関係を正しく記述していないもの

問 (い)

【建築基準法による階段の基準】

*下の図は、階段の傾斜が基準内で最大のときを表している。

② 中学校, 高等学校等

① 小学校

約 32°

約 35°

踏面

蹴上げ

① 蹴上げ 16 cm 以下
踏面 26 cm 以上

② 蹴上げ 18 cm 以下
踏面 26 cm 以上

《正答例》 $26 \leq x \leq \frac{18}{\tan 33^\circ}$

《留意点》

- 「 $\leq$ 」を「 $<$ 」と記述しているものは誤答とする。
- 33° の三角比を用いずに記述しているものは誤答とする。
- 正答例とは異なる記述であっても題意を満たしているものは正答とする。

階段の傾斜をちょうど 33° とするとき、蹴上げを 18 cm 以下にするためには、踏面をどのような範囲に設定すればよいか。踏面を x cm として、 x のとり得る値の範囲を求めるための不等式を、 33° の三角比と x を用いて表せ。解答は、解答欄 **(い)** に記述せよ。ただし、踏面と蹴上げの長さはそれぞれ一定であるとし、また、踏面は水平であり、蹴上げは踏面に対して垂直であるとする。

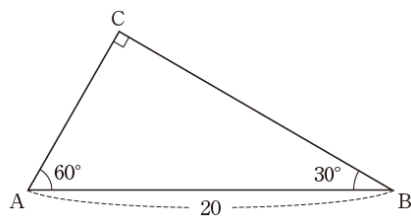
		割合 (%)
問 (い)	正答	10.9%
	誤答	44.5%
	無解答	44.5%

○ 主な誤答は以下のとおりである。

- (i) 「 $\tan 33$ 」のように 33° の $^\circ$ が抜けているもの
- (ii) 「 $x \tan 33^\circ \geq 18$ 」「 $x \tan 33^\circ < 18$ 」のように不等号の向きが違ったり等号が抜けているもの
- (iii) 「 $\tan 33^\circ$ 」を用いるべきところを「 $\sin 33^\circ$ 」「 $\cos 33^\circ$ 」と記述しているもの

問 (う)

(iii) 各点が移動する間における三角形 APQ、三角形 BQR、三角形 CRP の面積をそれぞれ S_1 、 S_2 、 S_3 とする。各時刻における S_1 、 S_2 、 S_3 の間の大小関係と、その大小関係が時刻とともにどのように変化するかを答えよ。解答は、解答欄 **(う)** に記述せよ。



		割合 (%)
問 (う)	正答	3.4%
	誤答	34.6%
	無解答	62.0%

《正答例 1》 時刻によらず、 $S_1 = S_2 = S_3$ である。

《正答例 2》 移動を開始してから時間を t とおくと、移動の間におけるすべての t について $S_1 = S_2 = S_3$ である。

《留意点》

- 時刻によって面積の大小関係が変化しないことについて言及していないものは誤答とする。
- S_1 と S_2 と S_3 の値が等しいことについて言及していないものは誤答とする。
- 移動を開始してから時間を表す文字を説明せずに用いているものは誤答とする。
- 前後の文脈により正しいと判断できる書き間違いは基本的に許容するが、正誤の判断に影響するような誤字・脱字は誤答とする。

○ 主な誤答は以下のとおりである。

- (i) 「 $S_1 = S_2 = S_3$ 」のみしか記述しておらず、時刻によって面積の大小関係が変化しないことについて言及していないもの
- (ii) 「 S_1, S_2, S_3 は変化しない」「 $S_1 < S_2 < S_3$ 」のように S_1 と S_2 と S_3 の値が等しいことについて言及していないもの
- (iii) 解答中に用いている「 t 」「 x 」などについて、それが開始からの時間を表す文字であることの説明がないもの

(2) 受検者自身による解答の確認結果に関する分析

数学の受検者数は65,764名。このうち、解答の確認結果が正しく記入されていたのは、問（あ）は64,785名、問（い）は64,785名、問（う）は、64,780名であった。これらを対象に、解答の確認結果と採点結果の一致率の分析を行った。

なお、判断不能とは「正答か誤答かの判断ができなかった」、解答不明とは「何を記述したか覚えていない」と受検者が判断した場合である。

問（あ）

		一致	不一致	判断不能	解答不明
割合		90.0%	6.6%	3.0%	0.4%
(判断不能と解答不明を除く)		93.2%	6.8%	—	—

		受検者自身による解答の確認結果				
		正答	誤答	無解答	判断不能	解答不明
解答	正答	4.7%	0.6%	0.0%	0.5%	0.0%
	誤答	2.2%	68.5%	3.5%	2.4%	0.3%
	無解答	0.0%	0.3%	16.8%	0.0%	0.1%

問（い）

		一致	不一致	判断不能	解答不明
割合		83.3%	14.7%	1.4%	0.6%
(判断不能と解答不明を除く)		85.0%	15.0%	—	—

		受検者自身による解答の確認結果				
		正答	誤答	無解答	判断不能	解答不明
解答	正答	7.3%	2.8%	0.0%	0.8%	0.1%
	誤答	1.5%	33.2%	8.8%	0.6%	0.4%
	無解答	0.0%	1.6%	42.8%	0.0%	0.1%

問（う）

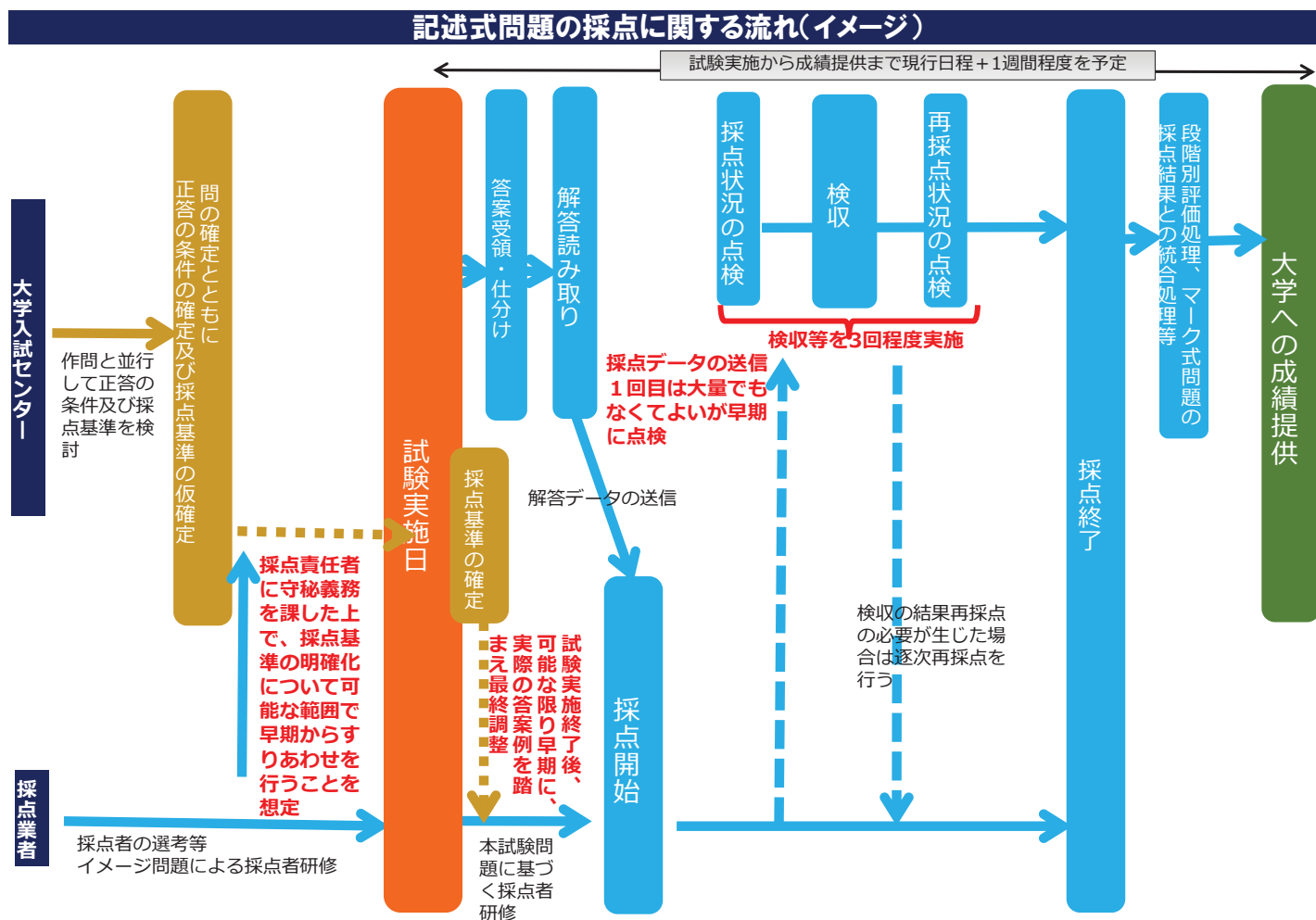
		一致	不一致	判断不能	解答不明
割合		88.8%	10.2%	0.6%	0.4%
(判断不能と解答不明を除く)		89.7%	10.3%	—	—

		受検者自身による解答の確認結果				
		正答	誤答	無解答	判断不能	解答不明
解答	正答	3.2%	0.1%	0.0%	0.1%	0.0%
	誤答	1.9%	26.4%	5.7%	0.4%	0.2%
	無解答	0.0%	2.5%	59.1%	0.0%	0.2%

2 採点及び検収の体制及びスケジュール

【分析・検討方針】

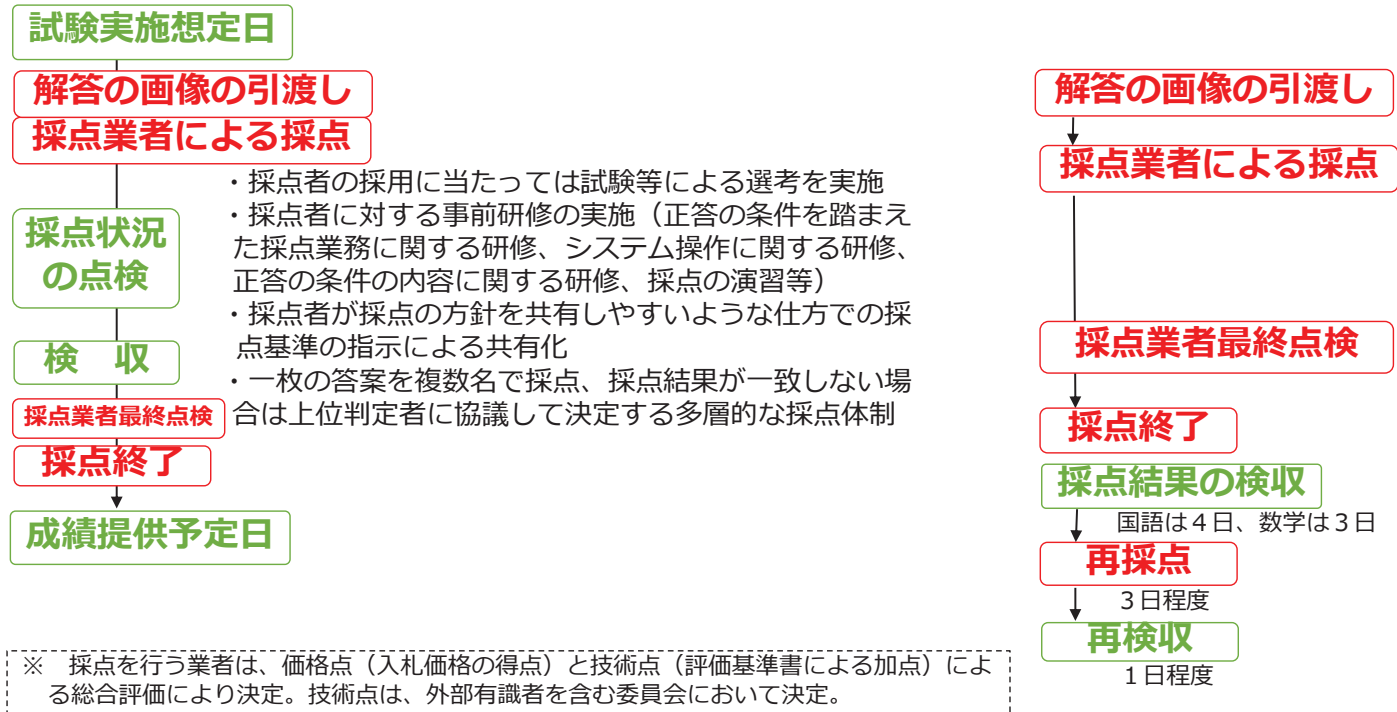
- 大学入学共通テスト本番を想定した採点の流れで実施することとしており、2017年度試行調査の採点過程とも比較し、多層的な採点の運用方法、採点の流れ、検収等の人数を含む体制、検収等の回数等について検証を行い、来年度初頭に公表予定である各教科・科目における問題のねらいや実施方法等において、採点の流れ等を示すことを目指す。
- 採点基準の明確化の過程では、可能な範囲での早期からの採点業者とすり合わせを行ったり、試験実施後可能な限り速やかに具体的答案を見ながら採点基準の調整等を行ったり、センターと採点業者が情報等を共有するためのシステムを構築しているところ。これらが有効に機能したか等について、検収時の採点結果の補正件数なども踏まえて検証し、大学入学共通テストにおける採点の在り方に生かしていく。
- 第1回試行調査の結果を踏まえ、第2回試行調査では、共通テスト本番を想定した採点の流れで実施することとした。具体的な採点に関する流れ（イメージ）は、以下の図のとおりである。



- 第1回試行調査では、採点・検収の工程を重ねることなく分割して実施したが、第2回試行調査では、共通テスト本番を想定し、共通テストにおける試験実施日から成績提供日までの日数と同じ期間で実施したところ、採点結果の納品日までに、センターにおける検収も含め、当初の計画通りに全ての行程を終了することができた。

【第2回試行調査】

【第1回試行調査】



- センターにおける採点結果の検収の概要は以下のとおりである。

【第2回試行調査の採点結果の検収】

- ・ 国語、数学ともに5日をかけて検収を実施した。
- ・ 検収対象の解答は誤答を中心に無作為抽出により選出した。
- ・ 採点結果の検収は国語は約20名、数学は約10名程度（WG委員、センター教員、高等学校教員経験者等）で実施。

		総検収件数	採点業者へ確認した件数	センターの検収を通じて採点結果を補正した件数
国語	問1	約9,000	31	21
	問2	約8,500	46	29
	問3	約8,500	46	26
数学	問(あ)	約10,000	0	0
	問(い)	約10,000	6	1
	問(う)	約10,000	4	3

※ 「センターの検収を通じて採点結果を補正」する場合、採点業者による点検において、同趣旨の観点の点検も行った上で、センターに最終的な納品をしている。

○ こうした補正が生じた要因としては、以下のような点が考えられるところである。採点業務は全国規模の大規模採点について十分な実績を有する業者に依頼する必要があるが、そうした業者にとっても、大学入学者選抜を目的としたハイスティクスな大規模一斉試験の採点を、試験実施後まで問題を閲覧することができない中、約20日間という限られた日数で行うことは、前例のない新たな取組となる。そうした点に配慮して準備を進め、採点の質を確保していく必要があると考えられる。

- ・ 試行調査としては最終回になることから、採点業者が有する採点の蓄積を生かしつつ、共通テストとして公平性を確保するために必要な採点基準の在り方について、作問委員とセンター、採点業者との間で徹底的な議論と内容の詰めを行った。結果として、センターと採点業者の間における役割分担の明確化、作問委員と採点業者との間で合意形成を図るための組織の設置、採点基準の確定が遅れたため、採点者の理解を図る時間が十分ではなかったこと
- ・ 実際に共通テストの採点を行う際には、問題の内容に左右されない形式面の基準については、あらかじめ採点者の習得を図っておくことができるが、試行調査においては、形式面の条件と内容面の条件の策定過程が同時であったため、採点者は形式面と内容面の両方の基準を限られた時間で習得する必要があったこと
- ・ 試験実施想定日の後、速やかに実際の答案例を踏まえた採点基準の最終調整を行ったが、検討に用いた答案例が千枚程度と少なく採点例の追加等が生じたため、採点者に周知を図る時間が十分ではなかったこと

3 解答方法、答案の読み取り

【分析・検討方針】

- 2017年度試行調査の解答データを用いて解答の画像の見え方の検証を行い、2018年度試行調査に生かすこととする。
- 試行調査の記述式問題における記述に当たっての留意点（イメージ）として、マス目の使い方、文字の修正の方法、採点の対象となる解答欄の範囲を明確にしたところであり、上記の解答の画像の見え方と合わせ、2018年度試行調査を通じて検証を行う。また、答案の画像化・小片化や、採点システムへのデータ送信に係る課題等の検証も行い、今後の採点システムやネットワーク構築に向けた検討に生かす。

- 濃淡がはっきりしていて、文字がより濃く表示され、ファイルサイズが小さく高速で処理できる2値（Bitone）のイメージで採点を進め、採点に支障のあるイメージがあった場合に、高画質のイメージに差し替えて採点を行い、高画質のイメージでも採点に支障がある場合はセンターにおいて答案を確認し文字や数式を判読することとした。センターにおいて答案を確認したのは、国語、数学、各1枚であったことから、共通テストにおいても同じ方式で行う方向で検討する。
- 答案の画像化・小片化、採点システムとのデータの受け取りについては、スケジュールに大きな影響を与えるような支障はなかった。しかし、共通テストは、試行調査の7倍以上の約50万人規模であることから、大規模でのデータの受け取り等について引き続き検討していく。

3 マーク式問題を含めた成績表示の在り方に関する分析

【分析・検討方針】

- 2018年度試行調査の結果を活用して、分布情報を利用した成績の表示（今回の試行調査では科目間調整を行わない）について9段階のスタナインを使用してシミュレーションを行い、段階が消滅する科目の有無を分析し、安定的な成績表示について検証を行う。
- また、過去のセンター試験の結果を活用し、追・再試験等、受検者が少ない場合の成績表示の在り方について、追・再試験に基づく段階と本試験の段階に当てはめることも含めて検討し、シミュレーションを行い、大学入学共通テストの成績表示の在り方について検証を行い、来年度初頭に公表予定である各教科・科目における問題のねらいや実施方法等において、各教科・科目の成績表示の在り方を示すことを目指す。
- 今回のシミュレーションについては、前回の試行調査の分析を踏まえ、安定的に使用できる正規化得点を活用し、次のとおり行った。

【シミュレーションの手順】

①使用するデータ

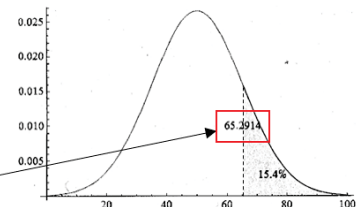
- ・第2回試行調査（プレテスト） 19科目等（リスニングを含む）
- ・平成30年度（2018年度）センター試験（追・再試験） 27科目等（リスニングを含む）
- ※平成30年度（2018年度）センター試験（本試験）も活用して同様のシミュレーションを行ったが、結果の分布は異なるものの、特段考慮すべき特徴は見られなかったため割愛。

②使用する換算方法

- ・正規化得点…千分率を利用し、平均50、標準偏差15の正規分布に照らして得点化するもの。
- ※正規化得点に換算した結果、小数点が発生した場合は小数点以下を四捨五入。

例) 81点以上得点した者が15.4%いる試験で80点を取った場合

- ・正規化得点 65点 [平均50、標準偏差15の正規分布で上位から15.4%の位置となる値 (65.2914)]

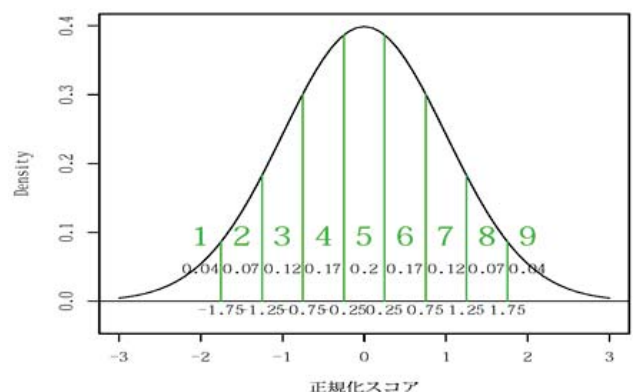


③使用する尺度

- ・スタナイン…正規化スコアを求めて全体を9分割する、分位点による区分法の一つ。
正規分布の場合、-1.75~1.75まで0.5刻みで分けることで、
4、7、12、17、20、17、12、7、4%に9分割される。

⇒○低得点から順に1～9段階とする。

- 1.75~1.75までの0.5刻みで分ける方法を採用し、それぞれ対応する値を算出して区分点とした。
($-1.75 \times 15 + 50 = 23.75$ 等)



【試行調査（プレテスト）で
シミュレーションした結果】

○第2回試行調査（プレテスト）
19科目等のデータで段階別表示した
場合の人数及び割合

国語	満点	最高点	最低点
	200	194	0
	平均点	標準偏差	受検者数
	90.81	29.52	67,745

	人数（割合）	
1段階	2,191	(3.23%)
2段階	4,062	(6.00%)
3段階	7,138	(10.54%)
4段階	12,883	(19.02%)
5段階	13,769	(20.32%)
6段階	11,568	(17.08%)
7段階	8,392	(12.39%)
8段階	4,975	(7.34%)
9段階	2,767	(4.08%)

点数	段階
0	1段階
4	
8	
12	
16	
20	
24	
28	
32	
36	
40	2段階
44	
48	
52	
56	3段階
60	
64	
68	
72	4段階
76	
80	
84	
88	5段階
92	
96	
100	
104	6段階
108	
112	
116	
120	7段階
124	
128	
132	
136	8段階
140	
144	
148	
152	9段階
156	
160	
164	
168	
172	
176	
180	
184	
188	
192	
196	
200	

世界史 B	満点	最高点	最低点
	100	100	12
	平均点	標準偏差	受検者数
	59.60	18.90	2,725

	人数（割合）	
1段階	65	(2.39%)
2段階	217	(7.96%)
3段階	308	(11.30%)
4段階	417	(15.30%)
5段階	594	(21.80%)
6段階	497	(18.24%)
7段階	304	(11.16%)
8段階	156	(5.72%)
9段階	167	(6.13%)

点数	段階
0	1段階
2	
4	
6	
8	
10	
12	
14	
16	
18	
20	2段階
22	
24	
26	
28	3段階
30	
32	
34	
36	4段階
38	
40	
42	
44	5段階
46	
48	
50	
52	6段階
54	
56	
58	
60	7段階
62	
64	
66	
68	8段階
70	
72	
74	
76	9段階
78	
80	
82	
84	
86	
88	
90	
92	
94	
96	
98	
100	

日本史 B	満点	最高点	最低点
	100	100	8
	平均点	標準偏差	受検者数
	54.57	13.40	4,200

	人数（割合）	
1段階	147	(3.50%)
2段階	220	(5.24%)
3段階	390	(9.29%)
4段階	923	(21.98%)
5段階	750	(17.86%)
6段階	805	(19.17%)
7段階	456	(10.86%)
8段階	330	(7.86%)
9段階	179	(4.26%)

点数	段階
0	1段階
2	
4	
6	
8	
10	
12	
14	
16	
18	
20	2段階
22	
24	
26	
28	3段階
30	
32	
34	
36	4段階
38	
40	
42	
44	5段階
46	
48	
50	
52	6段階
54	
56	
58	
60	7段階
62	
64	
66	
68	8段階
70	
72	
74	
76	
78	
80	
82	
84	
86	
88	
90	
92	
94	
96	
98	
100	

地理 B	満点	最高点	最低点	点数	段階
	100	94	0	0	1段階
				2	
	平均点	標準偏差	受検者数	4	
	61.46	15.51	1,203	6	
				8	
				10	
				12	
				14	
				16	
				18	
				20	2段階
1段階	41	(3.41%)		22	
2段階	86	(7.15%)		24	
3段階	106	(8.81%)		26	
4段階	211	(17.54%)		28	
5段階	253	(21.03%)		30	
6段階	194	(16.13%)		32	
7段階	171	(14.21%)		34	
8段階	88	(7.32%)		36	
9段階	53	(4.41%)		38	
				40	3段階
				42	
				44	
				46	
				48	4段階
				50	
				52	
				54	
				56	5段階
				58	
				60	
				62	
				64	6段階
				66	
				68	
				70	
				72	7段階
				74	
				76	
				78	
				80	8段階
				82	
				84	
				86	
				88	9段階
				90	
				92	
				94	
				96	
				98	
				100	

現代社会	満点	最高点	最低点	点数	段階
	100	91	0	0	1段階
				2	
	平均点	標準偏差	受検者数	4	
	51.63	14.32	2,677	6	
				8	
				10	
				12	
				14	
				16	
				18	
				20	2段階
1段階	100	(3.74%)		22	
2段階	170	(6.35%)		24	
3段階	309	(11.54%)		26	
4段階	483	(18.04%)		28	3段階
5段階	447	(16.70%)		30	
6段階	530	(19.80%)		32	
7段階	326	(12.18%)		34	
8段階	188	(7.02%)		36	4段階
9段階	124	(4.63%)		38	
				40	
				42	
				44	5段階
				46	
				48	
				50	
				52	6段階
				54	
				56	
				58	
				60	7段階
				62	
				64	
				66	
				68	8段階
				70	
				72	
				74	
				76	9段階
				78	
				80	
				82	
				84	
				86	
				88	
				90	
				92	
				94	
				96	
				98	
				100	

倫理	満点	最高点	最低点	点数	段階
	100	97	0	0	1段階
				2	
	平均点	標準偏差	受検者数	4	
	54.85	15.58	1,489	6	
				8	
				10	
				12	
				14	
				16	
				18	
				20	2段階
1段階	44	(2.96%)		22	
2段階	91	(6.11%)		24	
3段階	193	(12.96%)		26	
4段階	253	(16.99%)		28	
5段階	272	(18.27%)		30	
6段階	264	(17.73%)		32	
7段階	164	(11.01%)		34	
8段階	124	(8.33%)		36	
9段階	84	(5.64%)		38	
				40	3段階
				42	
				44	
				46	
				48	4段階
				50	
				52	
				54	
				56	5段階
				58	
				60	
				62	
				64	6段階
				66	
				68	
				70	
				72	7段階
				74	
				76	
				78	
				80	8段階
				82	
				84	
				86	
				88	
				90	
				92	
				94	
				96	
				98	
				100	

政治・経済	満点	最高点	最低点	点数	段階
	100	96	7	0	1段階
				2	
	平均点	標準偏差	受検者数	4	
	49.27	14.22	2,243	6	
				8	
				10	
				12	
				14	
				16	
				18	
				20	2段階
1段階	62	(2.76%)		22	
2段階	152	(6.78%)		24	
3段階	227	(10.12%)		26	
4段階	408	(18.19%)		28	3段階
5段階	445	(19.84%)		30	
6段階	335	(14.94%)		32	
7段階	367	(16.36%)		34	
8段階	132	(5.88%)		36	4段階
9段階	115	(5.13%)		38	
				40	
				42	
				44	5段階
				46	
				48	
				50	
				52	6段階
				54	
				56	
				58	
				60	7段階
				62	
				64	
				66	
				68	8段階
				70	
				72	
				74	
				76	9段階
				78	
				80	
				82	
				84	
				86	
				88	
				90	
				92	
				94	
				96	
				98	
				100	

数学Ⅰ・ 数学A	満点	最高点	最低点
	85	85	0
	平均点	標準偏差	受検者数
	25.61	12.94	65,764

	人数（割合）	
1段階	2,367	(3.60%)
2段階	4,168	(6.34%)
3段階	6,574	(10.00%)
4段階	12,543	(19.07%)
5段階	12,503	(19.01%)
6段階	12,911	(19.63%)
7段階	6,215	(9.45%)
8段階	5,548	(8.44%)
9段階	2,935	(4.46%)

点数	段階
0	1段階
2	
4	
6	
8	2段階
10	
12	3段階
14	
16	4段階
18	
20	
22	
24	5段階
26	
28	
30	6段階
32	
34	
36	7段階
38	
40	
42	8段階
44	
46	
48	
50	9段階
52	
54	
56	
58	
60	
62	
64	
66	
68	
70	
72	
74	
76	
78	
80	
82	
84	
85	

数学Ⅱ・ 数学B	満点	最高点	最低点
	100	95	2
	平均点	標準偏差	受検者数
	36.06	14.42	4,935

	人数（割合）	
1段階	152	(3.08%)
2段階	344	(6.97%)
3段階	371	(7.52%)
4段階	985	(19.96%)
5段階	845	(17.12%)
6段階	961	(19.47%)
7段階	645	(13.07%)
8段階	393	(7.96%)
9段階	239	(4.84%)

点数	段階
0	1段階
2	
4	
6	
8	2段階
10	
12	
14	
16	3段階
18	
20	
22	4段階
24	
26	
28	
30	5段階
32	
34	6段階
36	
38	
40	
42	7段階
44	
46	
48	8段階
50	
52	
54	
56	9段階
58	
60	
62	
64	9段階
66	
68	
70	
72	
74	
76	
78	
80	
82	
84	
86	
88	
90	
92	
94	
96	
98	
100	

※数学Ⅰ・数学Aについてはマーク式のみの結果より作成

※数学Ⅰ・数学Aについてはマーク式のみの結果より作成

物理基礎	満点	最高点	最低点
	50	50	0
	平均点	標準偏差	受検者数
	29.13	10.81	591

	人数（割合）
1段階	22（3.72%）
2段階	41（6.94%）
3段階	51（8.63%）
4段階	119（20.14%）
5段階	86（14.55%）
6段階	123（20.81%）
7段階	59（9.98%）
8段階	51（8.63%）
9段階	39（6.60%）

点数	段階
0	1段階
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	2段階
10	
11	
12	
13	3段階
14	
15	
16	
17	4段階
18	
19	
20	
21	5段階
22	
23	
24	
25	6段階
26	
27	
28	
29	7段階
30	
31	
32	
33	8段階
34	
35	
36	
37	9段階
38	
39	
40	
41	
42	
43	
44	
45	
46	
47	
48	
49	
50	

化学基礎	満点	最高点	最低点
	50	50	0
	平均点	標準偏差	受検者数
	25.50	9.58	4,049

	人数（割合）
1段階	61（1.51%）
2段階	343（8.47%）
3段階	434（10.72%）
4段階	724（17.88%）
5段階	737（18.20%）
6段階	763（18.84%）
7段階	546（13.48%）
8段階	260（6.42%）
9段階	181（4.47%）

点数	段階
0	1段階
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	2段階
10	
11	
12	
13	3段階
14	
15	
16	
17	4段階
18	
19	
20	
21	5段階
22	
23	
24	
25	6段階
26	
27	
28	
29	7段階
30	
31	
32	
33	8段階
34	
35	
36	
37	9段階
38	
39	
40	
41	
42	
43	
44	
45	
46	
47	
48	
49	
50	

生物基礎	満点	最高点	最低点	点数	段階
	50	50	0	0	1段階
	平均点	標準偏差	受検者数	1	
	25.51	8.28	5,988	2	
				3	
				4	
				5	2段階
				6	
				7	
				8	
				9	
				10	3段階
				11	
				12	
				13	
				14	
				15	4段階
				16	
				17	
				18	
				19	
				20	5段階
				21	
				22	
				23	
				24	
				25	6段階
				26	
				27	
				28	
				29	
				30	7段階
				31	
				32	
				33	
				34	
				35	8段階
				36	
				37	
				38	
				39	
				40	9段階
				41	
				42	
				43	
				44	
				45	
				46	
				47	
				48	
				49	
				50	

	人数（割合）	
1段階	166	(2.77%)
2段階	436	(7.28%)
3段階	637	(10.64%)
4段階	1,134	(18.94%)
5段階	1,086	(18.14%)
6段階	1,063	(17.75%)
7段階	773	(12.91%)
8段階	364	(6.08%)
9段階	329	(5.49%)

地学基礎	満点	最高点	最低点	点数	段階
	50	50	0	0	1段階
	平均点	標準偏差	受検者数	1	
	28.60	9.78	2,398	2	
				3	
				4	
				5	2段階
				6	
				7	
				8	
				9	
				10	3段階
				11	
				12	
				13	
				14	
				15	4段階
				16	
				17	
				18	
				19	
				20	5段階
				21	
				22	
				23	
				24	
				25	6段階
				26	
				27	
				28	
				29	
				30	7段階
				31	
				32	
				33	
				34	
				35	8段階
				36	
				37	
				38	
				39	
				40	9段階
				41	
				42	
				43	
				44	
				45	
				46	
				47	
				48	
				49	
				50	

	人数（割合）	
1段階	86	(3.59%)
2段階	117	(4.88%)
3段階	274	(11.43%)
4段階	438	(18.27%)
5段階	372	(15.51%)
6段階	558	(23.27%)
7段階	272	(11.34%)
8段階	162	(6.76%)
9段階	119	(4.96%)

物理	満点	最高点	最低点	点数	段階
	100	100	0	0	1段階
	平均点	標準偏差	受検者数	2	
	37.47	16.71	3,196	4	
				6	
				8	2段階
				10	
				12	
				14	
				16	
				18	3段階
				20	
				22	
				24	
				26	
				28	4段階
				30	
				32	
				34	
				36	
				38	5段階
				40	
				42	
				44	
				46	
				48	6段階
				50	
				52	
				54	
				56	
				58	7段階
				60	
				62	
				64	
				66	
				68	8段階
				70	
				72	
				74	
				76	
				78	9段階
				80	
				82	
				84	
				86	
				88	9段階
				90	
				92	
				94	
				96	
				98	
				100	

	人数（割合）	
1段階	122	(3.82%)
2段階	215	(6.73%)
3段階	265	(8.29%)
4段階	650	(20.34%)
5段階	630	(19.71%)
6段階	547	(17.12%)
7段階	364	(11.39%)
8段階	276	(8.64%)
9段階	127	(3.97%)

化学	満点	最高点	最低点	点数	段階
	100	100	0	0	1段階
	平均点	標準偏差	受検者数	2	
	49.68	19.31	4,679	4	
			6		
			8		
			10	2段階	
			12		
			14		
			16		
			18		
			20	2段階	
			22		
			24	3段階	
			26		
			28		
			30		
			32		
			34	4段階	
			36		
			38		
			40		
			42		
			44	5段階	
			46		
			48		
			50		
			52		
			54	6段階	
			56		
			58		
			60		
			62		
			64	7段階	
			66		
			68		
			70		
			72		
			74	8段階	
			76		
			78		
			80		
			82		
			84	9段階	
			86		
			88		
			90		
			92		
			94		
			96		
			98		
			100		

	人数（割合）
1段階	172 （3.68%）
2段階	277 （5.92%）
3段階	525 （11.22%）
4段階	845 （18.06%）
5段階	826 （17.65%）
6段階	948 （20.26%）
7段階	547 （11.69%）
8段階	332 （7.10%）
9段階	207 （4.42%）

生物	満点	最高点	最低点	点数	段階
	100	81	7	0	1段階
	平均点	標準偏差	受検者数	2	
	35.52	12.75	1,611	4	
				6	
				8	
				10	2段階
				12	
				14	
				16	3段階
				18	
				20	
				22	4段階
				24	
				26	
				28	5段階
				30	
				32	
				34	6段階
				36	
				38	
				40	7段階
				42	
				44	
				46	8段階
				48	
				50	
				52	9段階
				54	
				56	
				58	
				60	
				62	
				64	
				66	
				68	
				70	
				72	
				74	
				76	
				78	
				80	
				82	
				84	
				86	
				88	
				90	
				92	
				94	
				96	
				98	
				100	

	人数（割合）
1段階	43 (2.67%)
2段階	82 (5.09%)
3段階	199 (12.35%)
4段階	301 (18.68%)
5段階	280 (17.38%)
6段階	327 (20.30%)
7段階	173 (10.74%)
8段階	129 (8.01%)
9段階	77 (4.78%)

地学	満点	最高点	最低点	点数	段階
	100	74	3	0	1段階
	平均点	標準偏差	受検者数	2	
	42.02	12.76	130	4	
				6	
				8	
				10	2段階
				12	
				14	
				16	3段階
				18	
				20	
				22	4段階
				24	
				26	
				28	5段階
				30	
				32	
				34	6段階
				36	
				38	
				40	7段階
				42	
				44	
				46	8段階
				48	
				50	
				52	9段階
				54	
				56	
				58	
				60	
				62	
				64	
				66	
				68	
				70	
				72	
				74	
				76	
				78	
				80	
				82	
				84	
				86	
				88	
				90	
				92	
				94	
				96	
				98	
				100	

	人数（割合）
1段階	4 (3.08%)
2段階	10 (7.69%)
3段階	14 (10.77%)
4段階	19 (14.62%)
5段階	25 (19.23%)
6段階	24 (18.46%)
7段階	17 (13.08%)
8段階	11 (8.46%)
9段階	6 (4.62%)

英語（筆記 〔リーディング〕）	満点	最高点	最低点	点数	段階
	100	100	0	0	1段階
	平均点	標準偏差	受検者数	2	
	51.25	19.43	12,990	4	
				6	
				8	
				10	2段階
				12	
				14	
				16	3段階
				18	
				20	
				22	4段階
				24	
				26	
				28	5段階
				30	
				32	
				34	6段階
				36	
				38	
				40	7段階
				42	
				44	
				46	8段階
				48	
				50	
				52	9段階
				54	
				56	
				58	
				60	
				62	
				64	
				66	
				68	
				70	
				72	
				74	
				76	
				78	
				80	
				82	
				84	
				86	
				88	
				90	
				92	
				94	
				96	
				98	
				100	

	人数（割合）
1段階	390 (3.00%)
2段階	969 (7.46%)
3段階	1,145 (8.81%)
4段階	2,639 (20.32%)
5段階	2,292 (17.64%)
6段階	2,457 (18.91%)
7段階	1,584 (12.19%)
8段階	869 (6.69%)
9段階	645 (4.97%)

英語 （リスニング）	満点	最高点	最低点	点数	段階
	100	100	0	0	1段階
	平均点	標準偏差	受検者数	2	
	59.10	15.57	12,927	4	
				6	
				8	
				10	2段階
				12	
				14	
				16	3段階
				18	
				20	
				22	4段階
				24	
				26	
				28	5段階
				30	
				32	
				34	6段階
				36	
				38	
				40	7段階
				42	
				44	
				46	8段階
				48	
				50	
				52	9段階
				54	
				56	
				58	
				60	
				62	
				64	
				66	
				68	
				70	
				72	
				74	
				76	
				78	
				80	
				82	
				84	
				86	
				88	
				90	
				92	
				94	
				96	
				98	
				100	

	人数（割合）
1段階	444 (3.43%)
2段階	756 (5.85%)
3段階	1,555 (12.03%)
4段階	2,225 (17.21%)
5段階	2,530 (19.57%)
6段階	2,348 (18.16%)
7段階	1,641 (12.69%)
8段階	915 (7.08%)
9段階	513 (3.97%)

【センター試験（追・再試験）でシミュレーションした結果】

- 平成30年度（2018年度）センター試験（追・再試験）27科目等のデータで段階別表示した場合の人数及び割合については、センター試験（追・再試験）の平均点等が非公表であることから今回示していないが、シミュレーションした結果については、次に示したとおりであった。
- なお、地理A、簿記・会計、ドイツ語、韓国語の4科目については、受験者がいないことから、シミュレーションを行っていない。

【シミュレーションの結果】

- 今回の試行調査（プレテスト）をシミュレーションした結果は次のとおり。

＜消滅する段階があった科目数と科目名＞

	科目数	科目名
第2回試行調査	0	
平成30年度（2018年度）センター試験（追・再試験）	12	世界史A、日本史A、倫理、政治・経済、数学Ⅰ、数学Ⅱ、情報関係基礎、物理基礎、地学基礎、地学、フランス語、中国語

- 前回の試行調査での分析・検討の結果や、今回の試行調査での結果から、マーク式での段階別表示については、正規化得点を活用した9段階のスタナイン方式が、安定的な成績表示を行うのに適しているものと考えられる。
- 追・再試験については、4割以上の科目において消滅する段階があり、成績表示が安定しないことや、入学者選抜の際には、本試験、追・再試験の素点が区別なく大学で活用されている実態を踏まえると、安定的な成績表示を行うためには、本試験の段階に当てはめるのが適当と考えられる。

4 実施面の課題検証とその解決に向けた分析等

【分析・検討方針】

- 記述式問題の導入やリスニングにおける読み上げ回数が異なる問題を混在させて出題することに伴う課題の洗い出しを各大学からの実施状況に関する調査報告を踏まえつつ行う。
- 上記を踏まえ、以下の事項について受検者向けの受検案内や大学向けの実施要領等のマニュアルに適切に反映する。
 - ・ 試験室における監督者の指示内容等の発言等の追加・修正
 - ・ 各日の試験の開始・終了時間や受検者及び監督者等の休憩時間など、試験日程大枠の適切性
- 今回の試行調査では、実施運営面の検証を行うため、試行調査実施後、監督者と実施大学の入試担当課を対象に試行調査の実施状況に関する調査を行った。これらの調査の有効回答件数は以下のとおり。

調査対象	有効回答数
監督者	4,856人
実施大学	499大学

1 実施運営面における調査

(1) 記述式問題の導入に伴う対応

- 今回の試行調査では、監督者のマニュアルや問題冊子の解答上の注意に記述式問題の導入に伴う指示内容等を新たに追加して実施したところである。監督者からの実施状況に関する調査の回答では、マニュアルに追加した指示内容について、85%以上が修正又は新たに追加すべき内容はなかったという回答であった（問題冊子の解答上の注意についても、ほぼ同様の結果）。

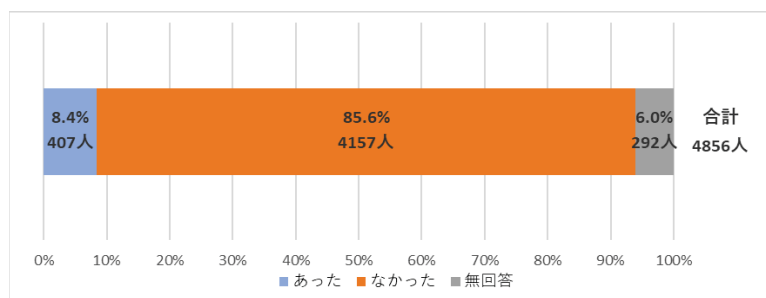
修正又は新たに追加すべき内容があったという回答では、監督者のマニュアルに関しては、新たな指示内容は不要といった意見や、問題冊子に関しては、解答の記入例を記載した方がよいといった意見が多かった。
- また、記述式問題の導入に伴って事前に周知しておくべき事項があるという回答では、問題冊子・解答用紙に書かれている注意事項、記入例等を事前に周知した方がよいとする意見が多かった。
- これらの結果を踏まえ、監督者のマニュアルや問題冊子の作成に当たっては、今回の指示内容や解答上の注意をベースに、監督者からの指示内容の削減や解答の記入例の追加記載などといった修正意見等も踏まえつつ改善を図る。また、記述式問題の導入に伴って事前に周知しておくべき事項については、従来から作成している受験案内に記述式問題導入に伴う解答上のルールなどを新たに記載するとともに、問題冊子の解答上の注意や解答用紙の注意事項等も含め、所要の検討を行う。

《監督者対象の実施状況に関する調査の回答》

- 記述式問題の導入に伴い追加した監督要領の指示内容※について、修正又は新たに追加すべき指示内容が必要だと思う箇所はありましたか。

※ 追加した指示内容（抜粋）

- ・ 記述式問題の解答を修正する際、消しゴムできれいに消さないと解答の読み取りに支障が生じる場合があるので注意してください。
- ・ 解答は誤字・脱字がなく、判読できるように丁寧に書いてください。



《記述式問題の導入に伴う監督要領、問題冊子の修正等及び事前に周知しておくべき事項に関する主な意見》

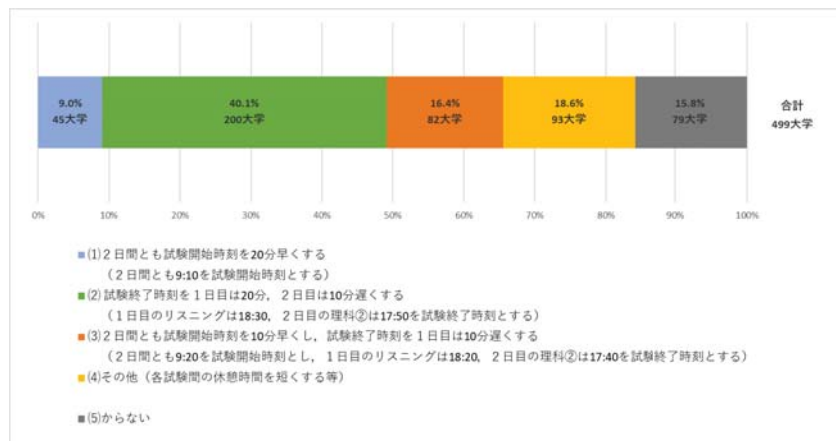
- ・ 誤字、脱字なく書くことは当たり前で指示は不要と思います。
- ・ 口頭での指示よりも、冊子に注意事項として記載するほうがよいと思われる。
- ・ 解答用紙のマス目は原稿用紙ではないので、句読点が行頭になっても問題ないことを、具体的なサンプルを用いて示しておく方がよいと思う。二桁以上の算用数字も同様である。
- ・ 具体的な記入の仕方を事前に理解しておく必要があるため、問題冊子・解答用紙に書かれている注意事項、記入例等を事前に周知した方がよいと思います。

(2) 試験日程大枠の適切性

- 共通テストでは、記述式問題の導入により、試験時間が1日目の国語で20分、2日目の数学①で10分それぞれ増える予定である。
- 試験日程についての実施大学からの実施状況に関する調査の回答では、記述式問題の導入により増加する時間の確保方策について、試験終了時刻を1日目は20分、2日目は10分遅くすべきとするものが、約40%と最も多かった。
- この結果を踏まえ、共通テストの試験日程については、試験開始時刻は、センター試験と同様とし、試験終了時刻を遅くする方向で検討していく。
 なお、休憩時間の適切性については、記述式問題の導入に伴う監督者の指示内容や試験時間中の配付物の追加の有無の検討とも連動することから、これらと合わせて検討していく。

《実施大学対象の実施状況に関する調査の回答》

- 記述式問題の導入により試験時間が1日目の国語で20分、2日目の数学①で10分それぞれ増える予定です。これに伴い、増加した分の時間の確保をどのようにすべきだと思いますか。

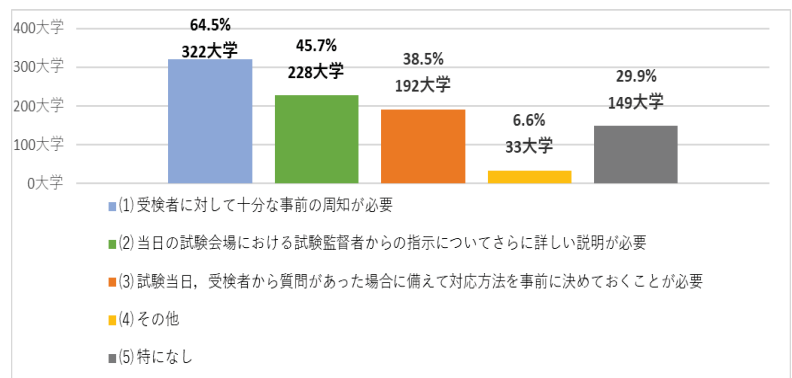


(3) リスニングの問題音声の読み上げ回数が2回読みと1回読みが混在することになった場合の対応

- 今回の試行調査では、問題冊子の注意事項に問題音声の読み上げ回数が2回読みと1回読みが混在する旨を記載するとともに、各大問の指示文にも明記し、更には、リスニングの音声でも各問題の出題の際に読み上げ回数を流すといった取組を行ったところである。
- 実施大学からの実施状況に関する調査の回答では、読み上げ回数が混在することになった場合の対応について、受検者に対して十分な事前の周知が必要とする回答が64.5%と最も多く、次いで、監督者からのさらに詳しい説明が必要、受検者からの質問の対応方法を事前に決めておくことが必要とする回答も、それぞれ45.7%、38.5%であった。
- これらの結果を踏まえ、読み上げ回数が混在する場合には、試行調査での取組も考慮しつつ、試験当日に受検者が混乱しないよう、回答が最も多かった事前の周知に加え、その他の対応についても合わせて複合的に実施する方向で検討していく。

《実施大学対象の実施状況に関する調査の回答》

- リスニングの問題音声の読み上げ回数について、仮に大学入学共通テストにおいて、問いの難易度等に応じて2回読み上げる場合と1回読み上げる場合が混在することになった場合、どのような対応が必要だと思いますか。(複数回答)



参考 実施状況に関する調査項目

○ 監督者対象の調査項目

1. 記述式問題の導入に伴い、本調査における監督要領では、国語及び数学①において以下の指示内容※を記載していますが、これらの内容についての修正又は新たに追加すべき指示内容が必要だと思う箇所はありましたか。
※ 追加した指示内容（抜粋） - 記述式問題の解答を修正する際、消しゴムできれいに消さないと解答の読み取りに支障が生じる場合があるので注意してください。 - 解答は誤字・脱字がなく、判読できるように丁寧に書いてください。
2. 記述式問題の導入に伴い、実施本部要員や監督者数等について、改善が必要だと思いますか。
3. 記述式問題の解答上の注意については、国語及び数学①の問題冊子の表紙に記載していますが、これらの内容についての修正又は新たに追加すべき内容が必要だと思う箇所はありましたか。（複数選択可）
4. 記述式問題の導入に伴い、受検者及び高等学校等に対し、事前に周知しておくべき事項があると思いますか。（複数選択可） ※ 事前に周知する場合に想定される手段：受検案内、受検上の注意、問題冊子の表紙など
5. 国語及び数学①のテスト時間において、問題の解答方法※や解答に使用する文房具等の所持品について、受検者から質問がありましたか。あった場合、次の選択肢から該当する質問の内容を選択してください。 なお、問題の内容に関する質問は、今回の試行調査では受け付けないこととしているため、本設問からは除きます。 ※ 解答用紙の記入方法、解答用紙に記入した内容の訂正方法など 【選択肢】 (1) 解答方法（国語） (2) 解答方法（数学①） (3) 解答に使用する文房具等の所持品（国語） (4) 解答に使用する文房具等の所持品（数学①） (5) その他（国語） (6) その他（数学①） (7) なかった
6. 【受検上の配慮者が割り当てられた試験室を担当した監督者のみ】 記述式問題の導入により、実施運営面において、受検上の配慮が必要な受検者に対し、改善すべき点がありますか。
7. 今回の試行調査全般で、お気づきの点（特に例年の大学入試センター試験と比べて質問が多く感じられたなど）がありましたら記入してください。

○入試担当課対象の調査項目

1. 記述式問題の導入により試験時間が1日目の国語で20分、2日目の数学①で10分それぞれ増える予定です。これに伴い、増加した分の時間の確保をどのようにすべきだと思いますか。次の選択肢から該当する内容を選択してください。 なお、試験日は1月中旬の2日間、また、試験開始時刻は2日間とも同時刻とする予定です。 【選択肢】 (1) 2日間とも試験開始時刻を20分早くする（2日間とも9:10を試験開始時刻とする） (2) 試験終了時刻を1日目は20分、2日目は10分遅くする （1日目のリスニングは18:30、2日目の理科②は17:50を試験終了時刻とする） (3) 2日間とも試験開始時刻を10分早くし、試験終了時刻を1日目は10分遅くする （2日間とも9:20を試験開始時刻とし、1日目のリスニングは18:20、2日目の理科②は17:40を試験終了時刻とする） (4) その他（各試験間の休憩時間を短くする等） (5) わからない
2. 【受検上の配慮者の受入れがあった大学のみ】 記述式問題の導入により、実施運営面において、受検上の配慮が必要な受検者に対し、改善すべき点がありますか。
3. リスニングの問題音声の読み上げ回数について、大学入試センター試験ではすべて2回読みで実施していますが、仮に大学入学共通テストにおいて、問いの難易度等に応じて2回読み上げる場合と1回読み上げる場合が混在することになった場合、どのような対応が必要だと思いますか。次の選択肢から該当する内容を選択してください。（複数回答可） 【選択肢】 (1) 受検者に対して十分な事前の周知が必要 (2) 当日の試験会場における試験監督者からの指示についてさらに詳しい説明が必要 (3) 試験当日、受検者から質問があった場合に備えて対応方法を事前に決めておくことが必要 (4) その他 (5) 特になし
4. 今回の試行調査全般で、お気づきの点（特に例年の大学入試センター試験と比べて質問が多く感じられたなど）がありましたら記入してください。

【分析・検討方針】

- マーク式問題について、当てはまる選択肢を全て選択させる問題における、記入あるいは消し跡の判断基準をどのように設定すべきか（読み取り基準の変更によるデータの変化を確認）実施面での課題等も踏まえ、引き続き検証を行い、来年度初頭に公表予定である各教科・科目における問題のねらいや実施方法等において、出題の可否を示すことを目指す。

2 当てはまる選択肢を全て選択する問題の方向性

- 当てはまる選択肢を全て選択する問題では、これまでの択一式では十分に問うことができなかった資質・能力を問うことができるメリットがある。一方で、マークの読み取りに関する課題も指摘されている。
- マークの読み取りでは、現在はかなり薄いマークも読み取りつつ、より濃度の濃いマーク一つを解答として判断している。複数マークを正答として扱う場合、どこまでの濃度を解答として判断すべきかの技術的な検証を行うため、マークシート1行に濃度の濃いマークと薄いマークを混在させて、そのほかのマークの読み取りへの影響を調べたところ、薄いマークと消し跡を明確に区別して読み取るような基準を設定することは困難であった。
- 出題上のメリットはあるものの、受検者への影響を踏まえると、当てはまる選択肢を全て選択する問題は、CBT形式の導入などがなされれば可能であるが、マークシートを前提とした共通テスト導入当初から実施することは困難であると考えられる。
- そこで、これまでの試行調査における問題作成の蓄積を生かし、マークの読み取りは現在の方法を維持した上で、当てはまる選択肢を全て選択する問題を通して問いたい資質・能力と同程度の資質・能力を出題する形式について検討を行った。
- 例えば、数学を例にすると、次のような出題形式が考えられる。なお、以下に示すものは参考例であり、出題形式が画一的なパターンに陥ることなく、問いたい資質・能力や難易度等を踏まえた適切なものとなるよう不断の検討・改善に努めることとする。

【第2回試行調査の問題（当てはまる選択肢を全て選択する問題）】

…を満たすものを、次の①～⑧のうちからすべて選べ。



【出題形式例①】

次の①～⑧のうち、…を満たす値は全部で ア 個あり、そのうち、最大となる値の番号は イ であり、最小となる値の番号は ウ である。

【出題形式例②】

次のA～Gの各値について、…を満たすものをすべて挙げたものとして正しい組合せを下の①～⑥の中から一つ選べ。

- | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ① | A | D | ② | B | G | ③ | B | C | D | | | | |
| ④ | A | E | G | ⑤ | C | D | E | G | ⑥ | A | E | F | G |

5 受検上の配慮に関する試行調査の分析 (記述式問題における解答用紙の設計に関する試行調査)

1 試行調査の趣旨

国語及び数学における記述式問題の導入に際し、一般の解答欄のサイズでは文字を記入することが困難な受検者が共通して使用できる解答用紙を用意することを念頭に、記述欄を大きくした解答用紙の設計に関する試行調査を実施する。

2 試行調査の概要

視覚障害又は肢体不自由のある生徒を対象に、障害等の種類や程度ごとに受検者を確保し、センターが作成した複数のパターンの解答用紙案に解答例を転記（国語は117字、数学は数式等を含めて40字程度）、その転記状況やアンケート結果等の分析を行う。

転記した解答用紙以外に、分析対象として収集する記録等は以下のとおり。

転記 時間中	解答例の転記状況 の記録	ビデオによる記録	協力校において特定の受検者の転記の様子をビ デオ撮影
		記述による記録	協力校において特定の受検者の様子を記録
	解答例の転記時間 の記録	協力校において、受検者が制限時間内に転記を終了した場合 はその時間の計測	
転記 後	・全受検者に対するアンケート ・協力校における受検者のアンケート結果を踏まえた全受検者へのインタビュー ・協力校に対するアンケート		

3 実施期間

2018年9月25日（火）～10月31日（水）

上記の期間内に、試行調査に参加する特別支援学校が任意の日時で実施（実施会場は各協力校）

4 受検者数

視覚障害特別支援学校高等部及び肢体不自由特別支援学校高等部の在籍者等で次の要件を満たす者を対象に募集を行ったところ、受検者は以下のとおりであった。

- ・授業や定期試験等において日常的に筆記用具（鉛筆等）を使用していること。
- ・授業や定期試験等において解答欄の大きさを変更した解答用紙を使用していること（原稿用紙のマス目（縦11mm×横11mm程度）の中に文字を収めて書くことが困難であり、そのマス目を大きくすることにより文字を収めて書くことができること）。

【受検者数】

視覚障害特別支援学校高等部 13校51名

(内訳)	1	視力障害	0.04未満	9人
	2		0.04以上、0.1未満	12人
	3		0.1以上	30人

肢体不自由特別支援学校高等部 5校13名

(内訳)	1	体幹の機能障害により座位を保つことができないもの又は困難なもの	5人
	2	両上肢の機能障害が著しいもの	7人
	3	片上肢の機能障害が著しいもの	1人

5 記述式問題の解答用紙の設計に関する分析・検討

《国語》

次のN o 1 からN o 4 の解答用紙案への解答例の転記の状況やアンケート調査結果等を通して、解答欄のマス目の大きさや線の太さなど様式の改善点について検討する。

なお、協力校における国語の授業や定期試験等において、障害等の種類や程度により横書きにより筆記している受検者については、N o 5 の横書き用の解答用紙案と、N o 1～N o 4 の縦書き用解答用紙案の全て又はそのうち2～3種類の解答用紙案を選択して、横書き用と縦書き用を比較できるように調査を行う。

NO	判型		書字方向	マス目の大きさ	1列のマス数
1	横長	文字解答用紙、チェック解答用紙と同じ横長仕様	縦書き	18ミリ	10
2	横長		縦書き	23ミリ	5
3	横長		縦書き	25ミリ	7 (80字目が途中)
4	縦長	－	縦書き	25ミリ	10
5	横長	文字解答用紙、チェック解答用紙と同じ横長仕様	横書き	18ミリ	(行数) 15 (80字目が途中)

《数学Ⅰ》

次の3パターンの解答用紙案への解答例の転記の状況やアンケート調査結果を通して、解答欄の大きさなど様式の改善点について検討する。

NO	判型		1問の解答欄の大きさ
1	横長	文字解答用紙、チェック解答用紙と同じ横長仕様	半ページの大きさ (大問単位)
2	横長		1ページの大きさ (設問単位)
3	横長		1ページの大きさ (文字を書く時の目安として、20ミリ間隔の横線 (破線0.3ミリ程度) 有)

- 2020年度からの大学入学共通テストの実施の際には、試験当日に受検者が複数のパターンの解答用紙の中から自分に適した解答用紙を選ぶという実施方法を念頭に置いている。そうした制度設計を前提に、転記状況やアンケート調査等の分析を踏まえ、受検者に共通して配付する解答用紙の様式やパターン数について検討を行う。

《国語》(117字) <一般受検者が120字を転記するのに必要な時間の目安: 3～5分程度>

視覚障害特別支援学校の受検者 51人 (拡大読書器の使用者を除くと44人) ※ () 内は拡大読書器使用者を除いた場合の人数・人数		NO1横長の判型 【1枚で完結】 (縦書き1列10マス) マス目18ミリ四方	NO2横長の判型 【2枚で完結】 (縦書き1列5マス) マス目23ミリ四方	NO3横長の判型 【2枚で完結】 (縦書き1列7マス) マス目25ミリ四方	NO4縦長の判型 【2枚で完結】 (縦書き1列10マス) マス目25ミリ四方	NO5横長の判型 【1枚で完結】 (横書き1行15マス) マス目18ミリ四方
① 受検者数		51人 (44人)	51人 (44人)	51人 (44人)	48人 (42人)	3人 (2人)
② 制限時間 (各8分程度) 内に転記が終了した人数		40人 (36人)	41人 (37人)	41人 (37人)	40人 (36人)	2人 (2人)
③ 転記終了平均時間 (予想値)		7分23秒 (7分14秒)	6分52秒 (6分43秒)	7分8秒 (7分4秒)	6分44秒 (6分43秒)	6分33秒 (5分21秒)
④ ①のうち1番速かった者の終了時間		3分37秒 (〃)	2分45秒 (〃)	2分41秒 (〃)	2分36秒 (〃)	4分53秒 (〃)
⑤ ①のうち1番遅かった者の終了時間 (予想値)		14分38秒 (〃)	14分51秒 (〃)	32分17秒 (〃)	22分17秒 (〃)	8分55秒 (5分50秒)
⑥ 書字速度 (1分間)		17.00字 (17.35字)	18.67字 (19.14字)	19.23字 (19.65字)	20.09字 (20.36字)	19.05字 (22.01字)
受 検 者 ア ン ケ ー ツ ト	1記入しにくかった	6人 (5人)	17人 (14人)	12人 (11人)	12人 (9人)	0人 (0人)
	2どちらかというと 記入しにくかった	6人 (5人)	20人 (18人)	22人 (21人)	9人 (8人)	2人 (2人)
	3どちらかというと 記入しやすかった	13人 (10人)	7人 (6人)	15人 (12人)	18人 (16人)	0人 (0人)
	4記入しやすかった	25人 (24人)	7人 (6人)	1人 (0人)	8人 (8人)	1人 (0人)

※51人中NO1～NO4 (うち3名はNO4の代わりにNO5) の全ての解答用紙で転記が終了できなかった者は6人 (拡大読書器の使用者を除くと44人中4人)

肢体不自由特別支援学校の受検者 13人		NO1横長の判型 【1枚で完結】 (縦書き1列10マス) マス目18ミリ四方	NO2横長の判型 【2枚で完結】 (縦書き1列5マス) マス目23ミリ四方	NO3横長の判型 【2枚で完結】 (縦書き1列7マス) マス目25ミリ四方	NO4縦長の判型 【2枚で完結】 (縦書き1列10マス) マス目25ミリ四方
① 受検者数		13人	13人	13人	13人
② 制限時間 (各8分程度) 内に転記が終了した人数		4人	5人	4人	7人
③ 転記終了平均時間 (予想値)		12分54秒	11分24秒	11分46秒	10分43秒
④ ①のうち1番速かった者の終了時間		4分24秒	4分33秒	4分53秒	4分14秒
⑤ ①のうち1番遅かった者の終了時間 (予想値)		36分00秒	26分45秒	32分17秒	29分15秒
⑥ 書字速度 (1分間)		11.61字	12.44字	12.09字	13.88字
受 検 者 ア ン ケ ー ツ ト	1記入しにくかった	0人	2人	1人	4人
	2どちらかというと 記入しにくかった	4人	7人	5人	3人
	3どちらかというと 記入しやすかった	3人	2人	3人	1人
	4記入しやすかった	6人	2人	4人	5人

※13人中NO1～NO4の全ての解答用紙で転記が終了できなかった者は5人

《数学Ⅰ》（39字） ＜一般受検者が40字を転記するのに必要な時間の目安：1～2分程度＞

視覚障害特別支援学校の受検者 51人 (拡大読書器の使用者を除くと44人) ※()内は拡大読書器使用者を除いた場合の字数・人数		NO1横長の判型 【半ページの大きさ (大問単位)】	NO2横長の判型 【1ページの大きさ (設問単位)】	NO3横長の判型 【1ページの大きさ (20ミリ間隔の横 線が有)】
① 受検者数		51人 (44人)	51人 (44人)	51人 (44人)
② 制限時間 (各3分程度) 内に転記が終了した人数		51人 (44人)	51人 (44人)	51人 (44人)
③ 転記終了平均時間 (予想値)		1分33秒 (1分32秒)	1分23秒 (1分22秒)	1分18秒 (1分17秒)
④ ①のうち1番速かった者の終了時間		23秒 (〃)	24秒 (〃)	24秒 (〃)
⑤ ①のうち1番遅かった者の終了時間		3分00秒 (〃)	3分00秒 (〃)	3分00秒 (〃)
⑥ 書字速度 (1分間)		29.62字 (30.38字)	34.50字 (35.16字)	35.82字 (36.78字)
受 検 者 ア ン ケ ー ト	1記入しにくかった	4人 (3人)	6人 (5人)	5人 (5人)
	2どちらかというと 記入しにくかった	8人 (7人)	16人 (14人)	7人 (4人)
	3どちらかというと 記入しやすかった	28人 (24人)	18人 (16人)	16人 (15人)
	4記入しやすかった	11人 (10人)	11人 (9人)	23人 (20人)

※51人全員がNO1～NO3の全ての解答用紙で転記が終了 (拡大読書器の使用者を除くと44人全員が終了)

肢体不自由特別支援学校の受検者 13人		NO1横長の判型 【半ページの大きさ (大問単位)】	NO2横長の判型 【1ページの大きさ (設問単位)】	NO3横長の判型 【1ページの大きさ (20ミリ間隔の 横線が有)】
① 受検者数		13人	13人	13人
② 制限時間 (各3分程度) 内に転記が終了した人数		8人	11人	12人
③ 転記終了平均時間 (予想値)		2分38秒	2分18秒	2分14秒
④ ①のうち1番速かった者の終了時間		53秒	1分8秒	50秒
⑤ ①のうち1番遅かった者の終了時間 (予想値)		6分9秒	4分53秒	4分30秒
⑥ 書字速度 (1分間)		19.19字	19.69字	21.08字
受 検 者 ア ン ケ ー ト	1記入しにくかった	3人	2人	0人
	2どちらかというと 記入しにくかった	2人	3人	1人
	3どちらかというと 記入しやすかった	6人	4人	2人
	4記入しやすかった	2人	4人	10人

※13人中NO1～NO3の全ての解答用紙で転記が終了できなかった者は1人

- 一般受検者が120字程度の字の転記に必要な時間は3～5分程度 (40字程度の場合は1～2分) 必要と考えられること、試験時間の最大延長時間は一般受検者の1.5倍であること、複数の解答用紙に記入する受検者の負担等を考慮し、今回の試行調査における解答用紙当たりの転記の制限時間は、国語は8分程度 (117字)、数学は3分程度 (39字) とした。
- 障害等の種類や程度によって書きやすい解答用紙は異なると考えられるが、センターから提供した解答用紙のいずれでも制限時間に転記を終えることができなかった者は次のとおりである。なお、制限時間内に転記を終えることができなかった肢体不自由の受検者は、後述するパソコンを利用した解答入力に関する試行調査にも参加していた。
 - 《国語》 視覚障害のある者で51人中6人、肢体不自由の者で13人中5人
 - 《数学》 肢体不自由の者で13人中1人
- 受検者の転記した解答用紙を確認したところ、国語では、文字の判読が非常に困難なものは見られなかった。数学では、数学記号 (例えば、不等号 (<) とCが区別しにくい)、アルファベット、数字が乱れており、判読が困難なものが見受けられた。また、消し方が不十分で修正前の文字が読めるものなども見受けられた。
- 今回準備したような解答用紙を用いても、試験時間に対して文字を書くことに相当な時間を要したり、判読可能な文字等を書くことが困難な者については、授業や定期試験等において日常的にパソコンを使用している場合には、パソコンを利用した解答入力も視野に入れていくことが考えられる。

- 文字の訂正では、消しゴムで文字を消さずに二重線で文字を訂正しているもの（国語）、消し方が不十分で修正前の文字が読めるもの（国語、数学）などが見受けられた。今回の試行調査では文字の訂正方法の周知が十分ではなかったため、受検者がやりやすい方法で文字の訂正等を行ったと考えられる。消しゴムを扱うことが困難な者については、補助者を配置するなどの配慮が必要になるのではないかと考えられる。
- 受検者によるアンケートや解答例の転記状況の記録等では、以下のような意見が見られたことから、受検者によって書きやすいマス目の大きさや解答用紙の判型が異なることが確認された。
 - 《国語》
 - ・ マス目が小さいと消しゴムで消す際に隣の文字まで消してしまう
 - ・ 解答は、マス目が大きく複数枚の解答用紙にまたがるよりも、1枚の解答用紙の方がよい
 - ・ 解答欄が縦に長いと目線を上下させなければならず書きづらい
 - ・ 1列の文字数が少ないと、書くときの上下移動の回数が多くなって書きづらい
 - ・ 補助具使用の受検者には、マス目が多く改行が多い解答用紙は書きにくい
 - ・ 複数の解答用紙から自分にあった解答用紙を選べた方がよい
 - ・ 解答用紙が何枚も机の上にあったため、2枚目の解答用紙を探すのに時間がかかった
 - 《数学》
 - ・ 文字を書く目安として、20ミリ間隔の横線がある解答用紙は、分数などの数式を書くときに自由度が少なく書きにくい
 - ・ 横線があると字が曲がらずに書きやすい

5 受検上の配慮に関する試行調査の分析 (パソコンを利用した解答入力に関する試行調査)

1 試行調査の趣旨

解答欄の大きさに関わらず文字を記入することが困難な受検者が、筆記用具を用いずパソコンによる解答入力できるシステムを設計することを念頭に、センターで開発している記述式問題解答入力システムに関する試行調査を実施する。

2 試行調査の概要

肢体不自由のある生徒を対象に、障害等の種類や程度ごとに受検者を確保し、記述式問題解答入力システムを用いて解答例を入力させ、その入力状況やアンケート調査等の分析を行う。具体には、「国語」及び「数学Ⅰ」のシステムに関して、それぞれ3問ずつ入力を行い、受検者のシステム操作に関する以下の調査結果等を踏まえ、本システムの改善点について検討する。入力結果以外に、分析対象として収集する記録等は以下のとおり。

入力 時間 中	解答例の入力状況 の記録	ビデオによる記録	協力校において特定の受検者の入力の様子をビ デオ撮影
		記述による記録	協力校において特定の受検者の様子を記録
	解答例の入力時間 の記録	協力校において、受検者が制限時間内に入力を終了した場合 はその時間の計測	
入力 後	・全受検者に対するアンケート ・協力校における受検者のアンケート結果を踏まえた全受検者へのインタビュー ・協力校に対するアンケート		

3 実施期間

2018年9月25日（火）～10月31日（水）

上記の期間内に、試行調査に参加する特別支援学校が任意の日時で実施（実施会場は各協力校）

4 受検者数

肢体不自由特別支援学校高等部の在籍者等で次の要件を満たす者を対象に募集を行ったところ、受検者は以下のとおりであった。

- ・筆記用具（鉛筆等）を使用して文字を書くことが困難なため、授業や定期試験等において、日常的にパソコンを使用していること。または、筆記用具とパソコンを併用していること。

【受検者数】

肢体不自由特別支援学校高等部 9校20名

（内訳）

1	体幹の機能障害により座位を保つことができないもの又は困難なもの	5人
2	両上肢の機能障害が著しいもの	13人
3	片上肢の機能障害が著しいもの	1人
4	上記以外で配慮を必要とするもの	1人

システム入力のイメージ

【国語】

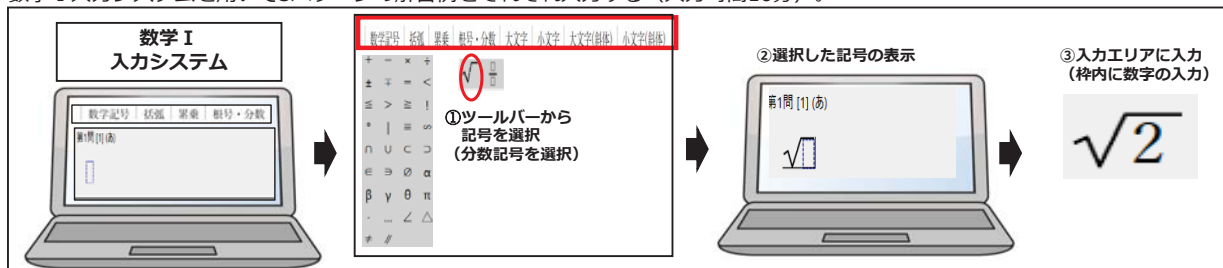
- ・国語入力システムを用いて3パターンの解答例をそれぞれ入力する（入力時間10分）。



※ マス目表示機能を有し、漢字の正確な記述よりも内容面も重視することから、システムによる入力に当たっては、漢字変換機能から該当する漢字を選択することを認める。

【数学Ⅰ】

- ・数学Ⅰ入力システムを用いて3パターンの解答例をそれぞれ入力する（入力時間10分）。



※ 計算機能を有しない

【参考】書字障害のある生徒等に対するパソコンを利用した解答入力に関するヒアリングの実施（予定）

- ▶実施期間 2019年度初頭～ ▶実施科目等 国語、数学Ⅰ
- ▶受検者 本センター試行調査における配慮事項調査研究部会委員を通し受検者の決定

5 パソコンを利用した解答入力に関する分析・検討

- 肢体不自由のある生徒を対象に、障害等の種類や程度ごとに受検者を確保し、記述式問題解答入力システムを用いて解答例を入力させ、その入力状況やアンケート調査等を通じて本システムの設計や操作性についての分析・検討を行う。

【国語】

国語 (10分以内に問1→問2→問3を連続して入力)	問1 (48字)	問2 (25字)	問3 (117字)	計 (190字)	平均転記(入力) 終了時間(予想平均値)
① 受検者数	20人				—
② 制限時間(10分)内に入力が終了した人数	19人	16人	7人	7人	—
③ ①のうち入力が1番速かった者の時間数	6分31秒				—
④ ①のうち入力が1番遅かった者(準備等に時間を要した者)の予想時間数	1時間51分46秒				—
⑤ ①のうち入力が2番目に遅かった者の予想時間数	38分47秒				—
⑤ 平均転記(入力)字数	46.6字	21.0字	56.9字	124.5字	22分23秒
⑥ 制限時間以内に終了した者を除いた平均	45.8字	18.8字	24.5字	89.2字	29分23秒
⑦ ⑤から1番遅かった者(準備等に時間を要した者)を除いた場合	48.0字	22.1字	59.9字	130.1字	17分41秒
⑧ ⑥から1番遅かった者(準備等に時間を要した者)を除いた場合	48.0字	20.4字	26.6字	95.2字	22分31秒

【数学Ⅰ】

数学Ⅰ (10分以内に問1→問2→問3を連続して入力)	問1 (39字)	問2 (22字)	問3 (33字)	計 (94字)	平均転記(入力) 終了時間(予想平均値)
① 受検者数	20人				—
② 制限時間(10分)内に入力が終了した人数	15人	7人	5人	5人	—
③ ①のうち入力が1番速かった者の時間数	9分43秒				—
④ ①のうち入力が1番遅かった者の予想時間数	44分46秒				—
⑤ 平均転記(入力)字数	35.5字	11.3字	9.2字	55.9字	20分42秒
⑥ 制限時間以内に終了した者を除いた平均	34.3字	7.8字	1.3字	43.3字	24分17秒

- 本システムに慣れた者が国語ソフトを使用し200字程度入力した場合には3～5分程度、更に数学ソフトを使用し100字程度入力(数学記号を含む)した場合は5～7分程度必要と考えられること、試験時間の最大延長時間は一般受検者の1.5倍であること、複数の解答例を入力する受検者の負担等を考慮し、今回の試行調査における解答用紙当たりの入力の制限時間は、国語3問(50字程度、25字程度、120字程度)、数学3問(40字程度、20字程度、30字程度)とも各10分程度とした。
- 受検者20名のうち、制限時間内での3問の解答例の入力状況は以下のとおりである。操作に習熟することにより、入力時間の短縮は期待できるが、障害等の種類や程度により、本システムを利用できない者や本システムを利用しても入力に多くの時間を費やすと考えられる者等については、受検者の口頭解答の内容を補助者が本システムを使い代理入力すること等の検討が必要であると考えられる。
- 《国語》 3問までは7人、2問までは16人、1問までは19人
- 《数学》 3問までは5人、2問までは7人、1問までは15人
- 受検者によるアンケートや解答例の入力状況の記録等では、カーソルの移動を全て矢印キーで行えるようにして欲しい、数式メニューから該当する記号を選択して指定された入力位置に入力することが難しかった等、操作に関する意見があった。これらの意見を踏まえた改善が必要であると考えられる。

5 受検上の配慮に関する試行調査の分析 (点字解答に関する試行調査)

1 試行調査の趣旨

第1回試行調査では、点字による教育を受けた者を対象に、記述式問題における解答方法等に関する配慮の在り方の試行調査を行った。第2回試行調査では、記述式問題に選択式問題（一般問題冊子におけるマーク式問題に相当）を加え、試験問題1セットを実施し、点字問題冊子の受検者における合理的な配慮の在り方に関する試行調査を実施する。

2 試行調査の概要

本試行調査は、国語や数学Ⅰ・数学Aの問題の内容や難易度を検証するものではなく、受検者の負担や実施側の負担を考慮し、2日間の試験実施日程で実施可能な試験時間は、センター試験における一般試験時間の1.5倍が限界であると考えられる中、問いたい資質・能力は一般受検者と同様に問うことを前提としつつ、点字解答に当たっての配慮のあり方を検証するものとする。分析対象として収集する記録等は以下のとおり。

- ・全受検者に対するアンケート
- ・協力校における受検者のアンケート結果を踏まえた全受検者へのインタビュー
- ・協力校に対するアンケート
- ・国語については、受検者が試験問題を読み、問1を解くのに要した時間

3 実施期間

2019年2月4日（月）～3月2日（土）の任意の期日に各学校で実施
上記の期間内に、試行調査に参加する特別支援学校等が任意の日時で実施（実施会場は各協力校）

4 実施科目等

国語及び数学Ⅰ・数学A（原則、受検者はこの両方を受検。）

国語（150分）〈一般問題冊子の受検者は100分〉

数学Ⅰ・数学A（105分）〈一般問題冊子の受検者は70分〉

※第2回試行調査の問題を使用

5 受検者数

視覚障害特別支援学校高等部の在籍者等で次の要件を満たす者を対象に募集を行ったところ、受検者は8校22名であった。

- ・点字による教育を受けている者
- ・国語総合、数学Ⅰ、数学Aを履修している者（履修中含む。）

【受検者数】

視覚障害特別支援学校高等部	8校22名
点字教育を受けた大学生	10名

6 点字解答に関する分析・検討

- アンケート調査結果や全受検者へのインタビュー等を通して、試験時間は一般試験時間の1.5倍が限界であると考えられる中、必要となる合理的配慮として、問題文の読み取りに当たっての配慮や、特に国語については解答時間と解答する字数等や問題数のバランスについて検証する。

- 本試行調査は以下のとおり実施したところである。

【国語】

- ・ 記述式問題については、一般問題冊子の国語の記述式問題は3問であるが、点字問題冊子の受検者は、読み取った情報のメモや思考過程の下書き、文字の訂正、解答の確認等に相当の時間を要すること、文字数のカウントを指で触って行うために指定された文字数内で記述することに相当の時間を要することなどの課題が改めて確認されたことから、解答時間と解答する字数等や問題数のバランス、問いたい資質・能力を踏まえて2問として実施した。
- ・ 指定された字数内で記述するのに相当の時間を要し、解答する字数の指定は点字で100マス程度と考えられるが、ただし、解答する文字数の確認にも相当の時間を要することを踏まえ、記述する文字数が最も多い問については解答字数制限を設けず実施した。
- ・ なお、国語の記述式問題全体の段階別表示は、一般受検者に準じ、次のとおりと想定して実施した。

【点字問題冊子の受検者】

問 1	a	C	B	A
	b	D	C	B
	c	E	D	C
	d	E	D	C
		d	c	b
		問 2		

【一般問題冊子の受検者】

問 1, 問 2	a, a	C	B	A
	a, b			
	a, c			
	b, b			
	a, d	D	C	B
	b, c			
	b, d			
	c, c			
	c, d			
	d, d	E	D	C
		d	c	b
		問 3		

【数学 I】

- ・ 数学の記述式問題は、数式や端的な短い文で記述するものであり、記述自体の負担が過重とまでは言えないことから、一般受検者と同じ3問として実施した。
- 国語については、受検者が試験問題を読み、問1を解くのに要した時間の概要は以下のとおりであり、平均で10分程度であり、想定した範囲内であった。

時間	～5分	5～10分	10～15分	15～20分	20～25分	25～30分	30～35分
受検者数	3名	15名	7名	4名	2名	0名	1名

- 受検者によるアンケート等では以下の意見などがあった。

【国語】

- ・ 解答を見直す時間がとれなかったが、過去のセンター試験受験経験から判断すると適切な問題量だと感じた
- ・ 探したい箇所がわかりやすかった
- ・ 問題として出された資料も多く、分量も多いと感じた

【数学】

- ・ 資料などが枠で囲まれていてわかりやすかった
- ・ 文章量が多く時間内に解くのが難しかった

- 教師における国語の記述式問題の問題数に関するアンケートについて、2問でよいといった旨の回答は4名、一般受検者と同じ3問がよいといった旨の回答は1件であった。その他の意見として、問題数が減って1問あたりの配点が大きくなることは避けたい、設問数が2問なのは有り難いが評価が平等なのかどうか難しいところであるといった意見があった。

- 上記の他、教師によるアンケートでは以下の意見などがあったところであり、問題文の整理や情報の提示の仕方についての工夫について引き続き検討が必要である。
 - ・ 文字の訂正方法について、具体例の数を増やすとともに、試験実施前に公表し、慣れる期間を確保してほしい
 - ・ 問題の検索性の向上、問題数の減、問題文の減をしてほしい